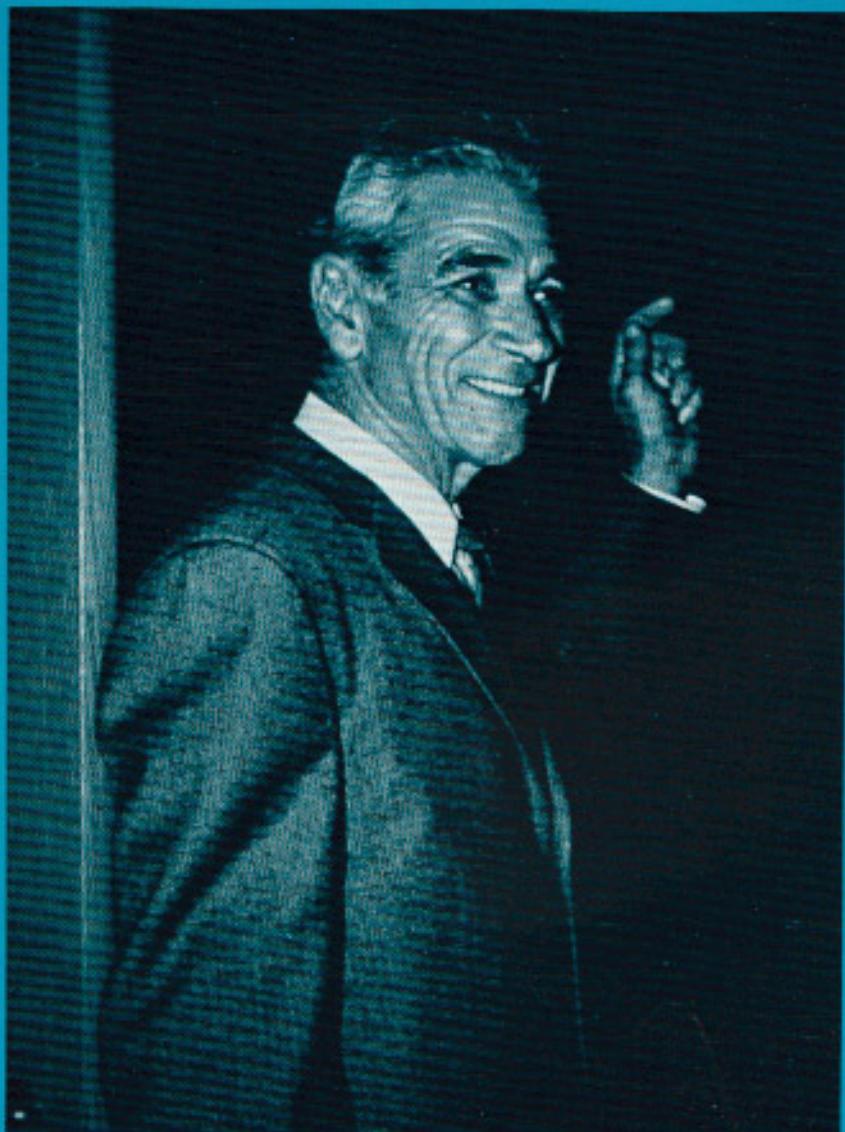


UF0と宇宙哲学の研究誌

# GAPニュースレタ-

57



ロジャーズ声明の真相 -----	1
<b>進歩した思索家のために-----</b>	<b>ジョージ・アダムスキー 2</b>
人体極性と重力場エンジン -----	唐沢宏之 8
米国GAP本部訪問記(1) 第1部「きらめくビスタの星」-----	久保田八郎 9
<b>空飛ぶ円盤同乗記(10)〈改訳決定版〉-----</b>	<b>ジョージ・アダムスキー 32</b>
昭和50年度総会、大盛況！-----	42
月例研究会案内 / 宮内温夫氏、月例会で講演 -----	44
編集後記-----	45

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。

GAPとは



GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々が空飛ぶ円盤の真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”的御子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”的研究と理解を通じて体得できるものです。

日本GAPの目的は円盤とスペース・プラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにより、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な発達をとげた人類が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・プラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

◎GAP参加グループを有する国は次のとおりです。

アメリカ、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、デンマーク、イングランド、フィンランド、ドイツ、オランダ、インドネシア、日本、メキシコ、ノルウェー、スエーデン、スイス(ABCの順、1971年6月現在)

★表紙写真はありし日のアダムスキー

(原写真はカラー)

39頁のイラストは会員・池田雅行氏より寄贈

昨年九月十五日頃の国内各新聞に少々不快な短信が掲載されたのをご記憶の方が多いと思う。英國UFO協会の会長と称するケン・ロジャーズなる人物が、アダムスキーリ撮影の円盤写真は昔、英北部の工場で作られたビン冷却器を写真に撮つて円盤だと偽つたことがわかつた。アダムスキーリに脱帽する云々という記事である。思慮深い人ならこの声明こそア氏の名を抹殺せんとする悪質な陰謀か、ま

## ロジャーズ声明の

# 真 相

愚かな売名屋の大失敗！

たはア氏の円盤写真からヒントを得て作られた冷却器をこれみよがしに攻撃の材料にしたと考えるだらう。そして実は後者であったという証拠が出たのである！ 英国の名高いUFO専門誌「フライイング・ソーサー・レビュー」誌一九七五年3—4合併号の社説に Sad Story と題して、この件の真相が暴露されている。

「——故ジョージ・アダムスキーリの主張をくつがえそうとする間の抜けた試み」

UFOキチガイによる無謀かつ無思慮な売名行為によってこうむつた典型的な損害云々——」に始まる社説によると、九月二十日にレビュー誌幹部のゴードン・クレイトン氏が公表した話で、実はBB Cラジオが放送した「ニューズ・マガジン」番組の出演者の中に冷却器技術者のフランク・ニコルソンという人がいて、この人が一九五九年（アダムスキーリの名を公表されてから六年後）にア氏の円盤写真、からヒントを得て問題のビン冷却器を設計したことを「告白」したというのである！ しかもニコルソン氏は番組のなかでその事實を疑われたために特許番号を提示した。こうしてロジャーズの声明こそインチキであったことが判明したが、ついでにこの人物の性格まで暴露されてしまったからまらない。「人々 バカを見る羽目におちいった」と泣き言を言う始末で、結局、とるに足りぬ売名屋であつたことがわかつたのである。

社説は言う。一九七五年九月十七日のブリストル・イーヴニング・ニューズ紙にロジャーズの勇ましい声明が掲載されたが、それによると、ウォーミンスター（UFO観測のメッカ的場所）のUFO事件に関する二万語にのぼる「論文」を書いて、それをブリストル大学へ提出し、それがブリストル大学へ提出されることは、それによると、ウォーミンスターのニッパー出版社にもロジャーズの声明を出でさせた。しかし悲観する必要はない。アダムスキーリ型UFOは今もなお世界のどこかに出現し続いているし、地上の愚劣な騒動とは無関係にスペース・プログラムは整然と続行されているだろう。ロジャーズ声明に関して照会が殺到したし、GAPの会員のなかにはアダムスキーリに、いいそをつかして退会した人もある。

この「論文」たるや五百件のウォーミンスターUFO目撃例をたった四十語ずつの報告にまとめたものだという。こんなものを大学で通用する論文だと思ってい

る感覚からして正常ではない。更に昨年八月十五日付のハムステッド紙とハイゲート・エクスプレス紙に「UFOは緑色の人間を見守る」と題した記事が出ており、その中に予言者に扮したチャールト・ヘストンみたいな格好の人物が片手に指を空に向けて、Tシャツの前面には円の中に五角形の星が描かれているが、この人物がロジャーズであり、緑の人間（宇宙人？）を見つける方法を示しているのだという。

とにかくロジャーズのビン冷却器声明は英國の各新聞に大きく掲載され、更にこれが世界中の新聞に報道されたためにア氏は全く不利になり、世にいうUFOなるものすべてがインチキ視されかねない状態になつた。しかしさすがは英國である。九月二十三日にはデーリー・ミラール・イーヴニング・ポスト紙は「徹底的大打撃」と書いて反省した。だがそれ以外の新聞は沈黙したままである。もちろん日本の各新聞はこの眞相をまだ知らないだろう。知つても訂正記事を出すことはしないだろう。恐るべきはマスコミの影響力である。

UFO問題に対する風潮が向上しつつあり、UFOの目撃者はすんで事件を語るように勇気つけられているこの時期にあって、これは一体何たることか！」とフライング・ソーサー・レビュー誌の社説は怒りを爆発させ、二十五歳のケン・ロジャーズなる同国人を暗にバカ者呼ばわりして痛烈な批判をあびせている。

まことに残念なことだったが、ロジャーズ声明を掲載した全世界の新聞が訂正記事を出さぬ限り、この打撃のキズは容易に癒えぬだろう。

しかし悲観する必要はない。アダムスキーリ型UFOは今もなお世界のどこかに現れ続いているし、地上の愚劣な騒動とは無関係にスペース・プログラムは整然と続行されているだろう。ロジャーズ声明に関して照会が殺到したし、GAPの会員のなかにはアダムスキーリに、いいそをつかして退会した人もある。

この「論文」たるや五百件のウォーミンスターUFO目撃例をたった四十語ずつの報告にまとめたものだという。こんなものを大学で通用する論文だと思ってい

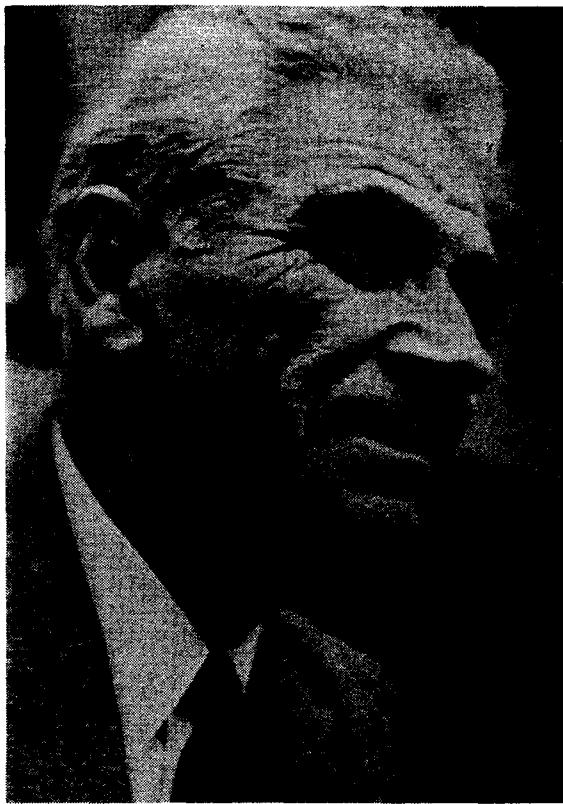
UFOキチガイによる狂氣じみたブレーキのきかない売名行為が、UFO目撃報告のまじめな研究をやろうとする人々に対して、ひどい害を与えたという事実である。ロジャーズの行為の直接的な結果として、あらゆるUFO目撃報告はインチキであると思いついた数百万の人がいるだろうし、間接的な結果としては、その取消し記事を見たか聞いた人々は、次のように結論づけたことだろう。各種のUFO研究グループの会長たちは「バカラの集まり」だと。

UFO問題に対する風潮が向上しつつあり、UFOの目撃者はすんで事件を語るように勇気つけられているこの時期にあって、これは一体何たることか！」とフライング・ソーサー・レビュー誌の社説は怒りを爆発させ、二十五歳のケン・ロジャーズなる同国人を暗にバカ者呼ばわりして痛烈な批判をあびせている。

まことに残念なことだったが、ロジャーズ声明を掲載した全世界の新聞が訂正記事を出さぬ限り、この打撃のキズは容易に癒えぬだろう。

しかし悲観する必要はない。アダムスキーリ型UFOは今もなお世界のどこかに現れ続いているし、地上の愚劣な騒動とは無関係にスペース・プログラムは整然と続行されているだろう。ロジャーズ声明に関して照会が殺到したし、GAPの会員のなかにはアダムスキーリに、いいそをつかして退会した人もある。

この「論文」たるや五百件のウォーミンスターUFO目撃例をたった四十語ずつの報告にまとめたものだという。こんなものを大学で通用する論文だと思ってい



# 進歩した 思索家の ために

(1)

ジョージ・アダムスキー

本記事は一九五五年五月四日、米ミシガン州デトロイトにおいて或る民間UFO研究グループのために行われた非公式講演である。かなり古い記録であるが重要な内容を含むので、数回にわたってその全文を紹介することにした。テープ录音のトランスクリプトを贈られたアリスピマロイ女史に深甚の謝意を表する次第である。

編者

## 一プラス一は三

宇宙には二種類の数学があります。一つは「一プラス一は二」というもので、もう一つの大自然の真の数学は「一プラス一は三」というものです。皆さん方はこれをお笑いになるかもしませんが、笑う前に考えてみて下さい。なぜならこの数学が真実でないとすれば、あなた方は両親の娘または息子にならなかつたらです。二つの力が一体化するときはいつも、一つの現象を生み出します。ちょうど電灯の光と同じです。二つの極が一体化すると閃光が発生し、一つの現象が存在します。これでもって、私たちは自然の方法を応用することよりも自分たちで作り上げた方法の応用の仕方が数学的に間違っていることがわかるでしょう。

自然界において雷光が起こるとき、二本の熱い鋼線の如き二つの力が交錯するのであって、その結果、閃光を発します。互いに分離して独立している二つの極がなければ電灯光が得られません。しかもこの二つの極は互いに一体化してこそ家庭で用いるような光を生み出すのです。

したがって万物は三位一体です。そこあなたの方は、だから宗教の分野に「三位一体」が入るのだと言うかもしません。三位一体説は同じ源泉から出ています。「父」と「子」が一体化するとき、三位一体説では言うのですが——と三位一体説では言うのですが——兩者がそれぞれ個々の力を持つのではなく、一体化された二重の力、すなわち「聖靈」を持つことになるのであって、それが三位一体なのです。聖靈とは實際には力を意味します。

人が私に尋ねます。「あなたは神智学信奉者なのか、バラ十字会員なのか（訳注）リバーラ十字会とは十七、八世紀にヨーロッパにあつた神秘主義的秘密結社）、それとも何かのオカルティストなのか」と。私は真理を語れるような人間ではありません！私は今までいかなる宗教団体に属したこともなければ、いかなるオカルト団体からもただ一つのレッスンを学んだことはありません——全然ありません！自分を団体化しようと思えばできます。「空飛ぶ円盤見記」を出したために、現在私の背後には二千万の人があります。世界中からぼう大な手紙が来て、「団体化せよ」と言っていますからそのことが証明できます。しかし私は団体というものを信用しません——協力ならば信用します。団体は発足する前から限定された状態にあります。団体化すると必ずだれかが干渉してきて、いつかトラブルが発生し、努力した結果は失敗です。一方、協力を得るならば——これを理解なのですが——正しい方向に動くことになります。だから私は団体

化しないのです。しかし各種の団体は円盤別な惑星から来る訪問者に関する真実を広める責任があると思います。政府はこれをやろうとはしません。これはカトリック教会、プロテstant教會、英國教會のような大宗教團體ならやれるでしょう。これらの教会が円盤に関する声明を出せば、世界のほとんどの人が認めるでしょう。その声明は人々の崇敬の問題を取り上げてくれることを願っています。今、そのチャンスがあるのです！

一九五四年十二月下旬に、バチカンのカトリック教会から私宛に質問状が届きましたので、その回答をすぐにバチカンへ送りました。それはたしかに（円盤問題に）関心を示すものでした！多くの教会が関心を示すようになっています。最近、ロンドンからやって来た英國教會の監督が、円盤と宗教との関連を知るために、私の家で共に数時間を過ごしました。回答を与えると彼は「これは緊急を要する。至急にカントベリー大監督のところへ帰らねばならない」と言いました。数日後、今度は毎日曜日にラジオで放送している「放送教會」の人たちが訪ねて来ました。彼らも質問して大変な興味を示しました。これらの教会の一つでも円盤問題を取り上げてくれれば、私たちが真相を広める際に直面している困難は解消するでしょう。そうなれば政府もそれに従うでしょう。

最近メキシコ市へ行つたとき、そこで

はすでに政府がやっていることを発見しました。メキシコ政府は円盤問題に関する事を大衆から隠そとはせず、すべてを発表しているのです。メキシコは米国よりもカトリックの信者の多い国で、教會は大災害が来るぞと声明して、それ自身の立場をとっています。そこで恐怖心のために人々はどうしようかと迷うわけですが、一方、政府は真相を発表してそれを打ち消していますから、大衆は選択できるわけです。メキシコ人はアメリカ人のようにわけのわからぬ状態にされることはできません。

### 友星人の相違点

私は今このカバンの中に、パロマ一天文台の百インチと二百インチ望遠鏡のオペレーターであった故ハブル博士の声明文を持っていました。これはフィラデルフィアの哲学教会で行われたものです。博士の説明によりますと、地球と全く同じ気候、同じ大気、その他あらゆる点で同じ面を持つ惑星が宇宙空間に無数に存在するということです。百インチ望遠鏡自体が大気圏外にこのような惑星を百万ないし三千六百万個発見したと述べています。その場合の平均化的法則は、地球だけが宇宙空間で人類の住む唯一の惑星であるという考え方によっています。したがってあらゆる事が私たちが学びつづるという状態を示しており、私たちと全く同じように飲んだり食べたり、子供を持つたり、家事仕事があつたり、その他いろいろな仕事を持つたりする人々が他

の惑星（複数）にいるという状態をも示しています。ただ違うのは、彼らはすべての物を他人に等しく分かち与えることを学び知つており、そのために各個人に負担がかかるのではなく、万人に等しくかかるのであることを知つているという点にあります。これが大きな相違点ですが、しかし彼らはやはり私たちと同様の人間なのです。彼らが私たちに教えに来るのは、人間がこの地球上に存在するとき、人間はただ生きるということだけではなく、他のどこかでもっとやるべき仕事があるということなのです！彼ら（他の惑星の人々）の來訪はこのことを証明しています。それはいかなる宗教が与え得たよりももっと適格な証明です。

彼らの進化の程度、すなわちいわゆる精神性に関する限り、訪問者（他の惑星の人々）は私たちよりもはるかに進歩しています。しかし彼らは私たちと同様にやはり精神的だと言えます。なぜなら、私たちも精神性というものを認識できるほどに一応精神的存在ですし、それを生かしているからです。それを生かすことによって、それが主な部分なのです！訪問者たちは、私たち以上に自身と宇宙との関係を自覚しています。しかも彼らはそのような生き方をすることによって実行しているの

**状況の分析は必要**

先ほども申しましたように、私は神智學信奉者でも、バラ十字会員でも、そのいかなる団体の信者でもありません。

私は八歳のときにチベットで勉強しました。父が私の望まなかつた僧にさせようとしたために、私はカトリック神秘派を選みました。以来、多くの哲学と宗教を学んできましたが、特定の宗教になじんだことはありません。あらゆる宗教から真珠だけを取り出して、ガラクタを捨てました。私はどの宗教をも非難するわけではなく、ただその分析をしていくのです。だれしも人生で分析をする権利があります。実際、人間は自分の進路を知るために分析をする必要があるのです。目的地へ到着しようとしてドライブしている地図を見なければなりません。このことは、ときとして少々でこぼこ道であるからとか他の道路よりも遅いに時間が要するとかいつて道路を非難することを意味するのではありません。非難や分析はときとして誤ることがあります、しかし状況の分析は理解のために必要なのです。非難はあくまでも非難にすぎません！

宗教の場合も同じことが言えます。私はカトリックの教えに従えば多くの負債があることを知っています。もしその負債を背負えば、神が自分でそれをやるでしょう。この点をもつとはつきりさせてみましょう。私たちには、神はすべてのすべてであり、万物を包容し、神の外側に何もないと教えられています。私たち人間はひとかどの存在であることを認めています。さもなければここにいないでしゃう。そうすると、もし私たちがひとかどの存在であつて、神の外側には何もないということになれば、私たちはど

にいるのでしょうか？ 私たちは神の内側にいるにちがいありません！ したがつて私たちの一部が地獄へ行くならば、神も一緒に地獄へ行くでしょう。神が私たちを創造するまでは地獄は創造されないでしょ。（訳注）地獄とは人間の創造にほかならないの意）

さて、いわゆる“進歩した”教會に近づいてみましょう。たとえばバラ十字会を例にあげますと、同會は白と黒の友好精神が存在すると言っています。しかし神の心の中には白も黒もありません。神の心は白でも黒でもなく、それはただ存在するのです。人間が創造主の好みに関して創造主を非難するならば、人間は創造主に最も近い創造物でもって創造主を非難することになります。太陽が一つの例です。月は別な創造物です。太陽は人間が何を信ずるかと尋ねますか？ 昨日がどんなに良くなかったかと、人間の体を温める前に尋ねますか？ そんなことはしません。太陽は万人に等しく輝きます。太陽はえこひいきをしません。自然界は

### 物質は知性を持つ

次にクリスチヤンサイエンスをあげてみましょう。ここでも同じような非難をしています。クリスチヤンサイエンスは物質は知性を持たないと言っていますが、物質は知性を持つのです。あなた方は、自分自身ではないところの自分の肉体を起き上がらせようとする場合に、も

し肉体が何らの知性も持たないとすれば、果たしてその肉体が起き上がると思いませんか？ まず、だめでしょう。この場合、おそらく肉体は自分のエゴが持っている以上の知性を持っている証拠があります。あなた方が食物を食べるときの食物の内のどれほどが栄養分として体内にとどまらねばならないか、どれほどが廢物として排出されねばならないかを、知っていますか？ 食物を食べてもそれはわからないでしょう。ところが、胃の中には小さな仲間がいて、それが化学者となり、食物が胃に達するや否や、そのエッセンスを抽出し始めます。もしリソースを食べればこの化学者たちが必要な量のエッセンスを抽出して、それをただちに全身に分配するでしょう。もし必要以上に食べれば、彼らはそれを棚の上に置いて貯えるでしょう。残りの物は廢物として捨てられるでしょう。そこでおわかりのように、肉体がどのように働いているかを自分で見ていますか？ 昨日がいるのです。その“人”は、自分がストレスや緊張を加えようとも、毎日のよううにあなたの肉体を生ける物にしているのです。それで認めねばならないのは、人間の肉体の内部には本人の頑在意識を超えた一種の英知が存在するということであり、それは本人の心が知っていることよりもっと多くの事柄を知っているのです。それで認めねばならないのは、

トレスや緊張を加えようとも、毎日のよううにあなたの肉体を生ける物にしているのです。それで認めねばならないのは、人間の肉体の内部には本人の頑在意識を超えた一種の英知が存在するということであり、それは本人の心が知っていることよりもっと多くの事柄を知っているのです。それで認めねばならないのは、人間の肉体の内部には本人の頑在意識を超えた一種の英知が存在するということであり、それは本人の心が知っていることよりもっと多くの事柄を知っているのです。それで認めねばならないのは、人間の肉体の内部には本人の頑在意識を超えた一種の英知が存在するということであり、それは本人の心が知っていることよりもっと多くの事柄を知っているのです。それで認めねばならないのは、

### 自然が病を治す

今度はユニティー（一体性）とその実体について調べてみましょう。ユニティーとは美しい言葉です。しかし人間は相手にどうぞとおもてなすことがあります。あなたの方が食物を食べるときの食物の内のどれほどが栄養分として体内にとどまらねばならないか、どれほどが廢物として排出されねばならないかを、知っていますか？ 食物を食べてもそれはわからないでしょう。ところが、胃の中には小さな仲間がいて、それが化学者となり、食物が胃に達するや否や、そのエッセンスを抽出し始めます。もしリソースを食べればこの化学者たちが必要な量のエッセンスを抽出して、それをただちに全身に分配するでしょう。もし必要以上に食べれば、彼らはそれを棚の上に置いて貯えるでしょう。残りの物は廢物として捨てられるでしょう。そこでおわかりのように、肉体がどのように働いているかを自分で見ていますか？ 昨日がいるのです。その“人”は、自分がストレスや緊張を加えようとも、毎日のよううにあなたの肉体を生ける物にしているのです。それで認めねばならないのは、人間の肉体の内部には本人の頑在意識を超えた一種の英知が存在するということであり、それは本人の心が知っていることよりもっと多くの事柄を知っているのです。それで認めねばならないのは、

### 宗教はダメ

人間が基本的な法則に従わぬ限り、理解力の欠乏から起る破滅的な状態から自分を自由にはできません。原爆によるこの文明の破壊からも逃れることはできないでしょう。これは無理解によつてすでに起こっています。人間は自分を絶滅させることを望んではいません。悪魔がそれ以上の事を知つていてるにしても…？ もし悪魔が自分の地獄を絶滅させたとすれば、自分の支配する物がなくなるでしょう。私たちちは今日世界に存在するあらゆる苦惱を各種の宗教団体に押しつけてよいでしょう。なぜなら、あなた方も私自身が以上の事を知つていてるにしても…？ もし悪魔が自分の地獄を絶滅させたとすれば、自分の支配する物がなくなるでしょう。私たちちは今日世界に存在するあらゆる苦惱を各種の宗教団体に押しつけてよいでしょう。なぜなら、あなた方も私も終日一生懸命に働いていて聖書に没頭する余裕はなく、聖書に打ち込んで日曜日に真理を伝えてくれるとおぼしき人がいることを認めているからです。ところが聖職者は彼自身や生活を永続させていくだけで、政策上バカげた事ばかりを伝えていくにすぎません。私たちちは実際は政府よりもむしろ宗教によって圧迫を受けているのです。

の苦痛をやわらげただけなのです。ひとたびこの事が起ると、あとは“自然”がやつてくれます。これが問題のカギであり、真理なのです。人間は心の平安さえ持続するならば、正しい結果が得られるのです。これは心の問題についても同様です。治りさえすればよいのです。ところが、このようにして治した個人的な功績の多くは自然の力だということにされています。

## 人間自身が真理

人間自身が“真理である”ということを一体どれだけの人が知っているのでしょうか。人間はどこか遠い所に“真理”を求めて、いますが、実際には“人間自身が真理である”的です！人間の実体を知っている人が一体どれだけいるでしょう？大抵の人は他人が知っているのと同じほどに自分のことは知っています。ます人間は眼を持っていることを知っています。たとえば人間はジッときらえたりいらっしゃしたりしますので、肉眼によつて相手の心の状態を知ることはできます。

第二に、人間は耳で聞くことができ、話すこともできますので、聴いたことを話すこともあります。三番目に人間はだれも同じ匂いを嗅ぐこともできます。四番目に人間は味わったり食べたりすることもできます。以上は人間が“人間”として知られる四つの主な表現経路です。もし人間がこれらを持たねば別な生き物と呼ばれるでしょう。したがって、人間が“人間”となる所以はこの四つの表現経路、すなわち四つの感覚器官なのです。もし人間がその四つの感覚器官を持たなかつたらば、人間は別な動物になつているでしょう。したがって人間が人間であるのは、この四つの表現経路を持つからなのです。

そこで、人間とは何でしょうか？私は人間が自分自身をバカにしている証拠を示したいと思います。以下はその証拠です。現代の人間の發達程度によれば、

私たち一匹のハエが室内の床にとまつても、それを雷鳴の轟きのように感じます。この部屋の中に一千人の人を座らせることにしましょう。そうすると二千個の形態物を投影しましょう。あらゆる眼がそれを見ますし、あらゆる耳がそれを聞くのですが、このように言って反対するでしよう。「もしかれかがその床を横切ったとすれば、特にこんなに物音のよく聞こえる床ならば、その足音が聞こえるだろう」。そこで感覚器官同士のあいだでケンカが起ります。一方、もし私がその床をだれかが横切る音を聞いたとすれば、私の耳は次のように言うでしょう。「だれかが床を横切る足音を聞いたよ」。しかし眼は言うでしょう。「そんなことはない。そうだとすれば人影を見たはずだ！」。そうなると二つの感覚器官が争つていています。他の感覚器官も同じように争うことでしょう。さて、あなたの方を形成しているいろいろな性質がお互いに尊敬し合わない場合に、どうのうすれば他を尊敬し合うと思ひますか？それは各感覚器官が互いに尊敬し合つて信じることを学ぶ必要があるのであります。

人間は天使の言葉を借りて話すだらうし、自分の生命を見放すこともあるだろうが、もし慈悲（または愛）を持たなければ何も得ないと聖書が言つてることを理解するほどに発達しています。慈悲とは、固い、信念を持たない、限り、慈悲心があります。心というものは信念と関係があります。心は、固い、信念を持たない、限り、慈悲心を持った、ことでも、できないのです。自分が持つて、いる最後の一円を、自分以上に必要とする、人に与えるだけの慈悲心を持たなければ、慈悲心を持たない、ません！ そういうすれば、自分も助かるのだ、ということを理解するだけの、信念を持つ、必要があるのです！ これこそ信念に基づいた眞の慈悲心であって、イエスはこのことを知つていたのです。

## 信念が重要

イエスが悪魔と称される人物に会つてその悪魔が自分の持つあらゆる富をあなたにあげようと言つた件を読んだことが、あるでしよう。そのときイエスは何も言わないので、ただ相手の言葉を聞いていただけでした。悪魔がそれ以上言葉がなくなったとき、イエスは相手を非難しませんでした。悪魔はできるだけのことをやつたのです。それ以上のことはできなかつたのです。しかしイエスはこの事を悟つて、言いました。「悪魔よ、私はあなたについて行つて来なさい。私はあなたについて行きません。あなたは限界に達した。しかしイエスは無限の道を知つています」。イエスは悪魔の申し出を非難することはなく、自分について来いと言つたのです。悪魔も同じように争うことでしょう。さて、あなたの方を形成しているいろいろな性質がお互いに尊敬し合わない場合に、どうのうすれば他を尊敬し合うと思ひますか？それは各感覚器官が互いに尊敬し合つて信じることを学ぶ必要があるのであります。

人間は天使の言葉を借りて話すだらうし、自分の生命を見放すこともあるだろうが、もし慈悲（または愛）を持たなければ何も得ないと聖書が言つてることを理解するほどに発達しています。慈悲とは、固い、信念を持たない、限り、慈悲心があります。心というものは信念と関係があります。心は、固い、信念を持たない、限り、慈悲心を持たない、ません！ そういうすれば、自分も助かるのだ、ということを理解するだけの、信念を持つ、必要があるのです！ これこそ信念に基づいた眞の慈悲心であって、イエスはこのことを知つていたのです。

ここでもむづかしい問題が起つてきます。この世には立派な指導者がいますが、れども、人間は自分が知つてゐる事以外に何をどのようにして教えることができるかという問題です。しかも人間の信念はイエスの信念をはるかに下回りますので、人間の教えはイエスの教えを下回ることになります。ところが、ある程度は良き教育機関があるのです。良くも悪くもないと、いう程度で、いざれにせよ役に立たない団体というものはこの世に存在しません。しかし絶対的な真理を望むのならば、深く掘り下げて行く必要があります。

これは十二の先端（とがつた先）を持つ星であらわされます。人間は常に五つの先端を持つ星——五つの感覚器官——で表現されています。もつとも私は四官しかないと、言つてゐるのですが——。また人間は医学で言つてゐるよう、脊椎の底部から人体の頂上部にかけて神経中枢と呼ばれる感覚器官を持つています。聖書では、これは「七つの教会」または、

## 慈悲には信念を要する

慈悲には信念を要する

人間は天使の言葉を借りて話すだらうし、自分の生命を見放すこともあるだろうが、もし慈悲（または愛）を持たなければ何も得ないと聖書が言つてることを理解するほどに発達しています。慈悲とは、固い、信念を持たない、限り、慈悲心があります。心というものは信念と関係があります。心は、固い、信念を持たない、限り、慈悲心を持たない、ません！ そういうすれば、自分も助かるのだ、ということを理解するだけの、信念を持つ、必要があるのです！ これこそ信念に基づいた眞の慈悲心であって、イエスはこのことを知つていたのです。

「七つの聖靈」と言われており、ヒンドゥー教では「チャクラ」と言わって、います。太陽神經叢(胃の後ろにある神經節の中心)の下に三つあって、この三つのチャクラは地上の現象を象徴し、手足や生殖器をコントロールします。太陽神經叢の上には更に三つのチャクラがあつてこれらは心や魂や精神をコントロールします。しかしそれのチャクラも太陽神經叢と呼ばれるチャクラから力を受けています。太陽神經叢は私たちの太陽系の太陽を象徴するもので、これでチャクラは七つとなり、これ以外の五つのチャクラと合わせて全部で十二になります。

(訳注)太陽神經叢が人体に宿る宇宙の意識・パワー・英知という意味ではない。宇宙の意識は髪の毛から爪先に至るまで人体に充满している。太陽神經叢はパワーを配分する変圧器の如きものであると考えられる)

### 生活費を心配するなけれ

さて、これら十二のチャクラの上位に支配的な力が存在します。それは宇宙の力であり、これを救世主と考えてよいでしょう。しかし名称そのものは意味をなさないので何と呼んでもかまいません。

“救世主”という語は実際には宇宙の意識から出たもので、神の意識の一部分を意味します。その極小部分が一人の光明と仰がれる人です。だからイエスは次のように言っています。“私はあなた方にミルクを飲ませるが肉は食べさせない。あなた方はキリストの赤ん坊であるから

だ”。十字架上のイエスは実際は十三番目の人です。彼は十二人の使徒を含むグループの十三番目の人でした。十二使徒の中心)の下に三つあって、この三つのチャクラは地上の現象を象徴し、手足や生殖器をコントロールします。太陽神經叢の上には更に三つのチャクラがあつてこれらは心や魂や精神をコントロールします。しかしそれのチャクラも太陽神經叢と呼ばれるチャクラから力を受けています。太陽神經叢は私たちの太陽系の太陽を象徴するもので、これでチャ克拉は七つとなり、これ以外の五つのチャクラと合わせて全部で十二になります。

(訳注)太陽神經叢が人体に宿る宇宙の意識・パワー・英知という意味ではない。宇宙の意識は髪の毛から爪先に至るまで人体に充满している。太陽神經叢はパワーを配分する変圧器の如きものであると考えられる)

彼らもやつと納得して再度伝道に出かけ行きましたが、今度帰つてみると家族は裕福になつており、貧しくはなかつた。しかしながら、十二人の働き手を持つことになります。

### 創造主がみてくれる

の上に二十四人のキューピッド(天使)が見えます。また仏教でも同じような象徴があります。両側に十二の腕を持つ像がそれです。プロテスタンでは神の座のまわりに二十四人の長老がいます。これらはみな同じものなのです。

しかしここでは指導者として十二人にとどめておきましょう。人間はキリストを不朽のものとし、その程度だけでキリストについて教え、それ以上に進みません。なぜでしょう? それは、もし人間がそれ以上に進むならば、生活と呼んでいる物質的な快樂をあきらめねばならないだろうと思つてゐるからです。たとえば、福音を伝えようとして出かけて行った七十二人の使徒がいたのですが、彼らは家族を裕福なままに残しておきました。しかし数カ月後に帰つてみると家族は貧しくなつてしまつた。食物などはないのです。そこで帰つて来た使徒たちは自分たちは神に仕えるために出かけたのに、神は自分たちの家族の世話をしてくれなかつたと不平を言つて、それ以上は伝道の仕事を続けようとしないのです。

それで聖ステバノは難儀な思いをして彼らを説得し、大いなる信念をもつて出かけよとすすめました(訳注)ステバノはリベルテン会堂派の奸計におちいって石打ち殺された最初の殉教者)。そこで

彼らもやつと納得して再度伝道に出かけ行きましたが、今度帰つてみると家族は裕福になつており、貧しくはなかつた。しかしながら、十二人の働き手を持つことになります。

### 重要な真理とは

指導者としての私たちもこれと同じ事で不安になつています。私たちはそのようないな堕落の機会をつかむことをきらつています。お金やすてきな自動車が心地よく見えるからです。これらすべての報いを受けている貧しい人は、ボロ自動車さえ買う金がないために歩かねばならぬ。あらゆる物事を研究するのは良い人生の探求者です。私たちは他人の欲求やまじめさに頼つて生きている蛭のようなもので、しかも自分自身を指導者と称しています。イエスは悪魔が提供した物で中断はしませんでした。それどころか、その線を超えて前進し、別な意味での富を悪魔に提供しました。あなた方は「こっちの方がよさそうじゃないか」と思つても、なおかつその線を超えて前進しなければなりません。あなた方は信念に基づいて、その線を超えて精神的に生長しなければなりません。その時点から創造主があなた方の世話をやいてくれることを知りなさい! 心配する必要はありません。そのようにやりさえすればイエスがやつたようにやれるのです。

「父」の中に没入しなさい。そうすればあなた方は神の座のまわりに、十二人でまつているとペテロが答えました。「あなたは生ける神の子、キリストですか?」彼は人々がまだ自分をだれだか知つていません。そのようにやりさえすれば私はだれだと言ひますか?」一同がだまつていてるとペテロが答えました。「あなたたちは直接尋ねました。「あなた方は私をだれだと言ひますか?」

「このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいる私の父です。私はこの岩の上に教会を建てます。地獄の門もそれには打ち勝てません」

方の部分に達するとき、バランスがとれることになります。そうなると、地球上で十二人の働き手を持つことになり、天国で十二人を持つことになります。

このときイエスは天国へのカギをペテロに手渡したのです。カトリック教会がペテロがカギを握っていると言ふ場合は真実を言っているのですが、ただ教会はどんなカギなのか、どうすればあなた方も入手できるかは言つていません。さあそれはどんなカギだと思いますか？

出席者の質問「あなたたは今ローマカトリック教会が真理を知つていると言われましたが——」

この場合私が言つたのは、それはカトリック教会へ与えられたではなく、世界に与えられたという意味なのです。イエスの時代にはカトリック教会ではなく、あたたのはカイペの教会です。カイペはイエスを磔刑にした責任者ですが、後にカトリック教会がコンスタンチンに建てられたとき、彼はその真理を自分の教会に取り入れました。だからそれは真理なのです。

### カギはこれだ！

カギの問題に返りましょう。あなた方は天国が何を意味するか知っていますか？ 天国とは『原因』を意味するのです。天国は人間によつて見られるものではありません。それは『結果』を生み出します『原因』なのです。それは眼に見えない状態であつて、その状態から眼に見える物が出てくるのです。私たちをそれを認識するほどに謙虚にならなければ、真理を見るることはできません。それは天の王国と呼ばれています。『原因』の王国であるからです。善や悪や無関係な事柄

の何にせよ、結果が出てくる前にまず原因が存在しなければなりません。それが第一に存在しなければなりませんが、しかし結果が生じるまでは決して眼に見えません。たとえば多くの画家は心の中に美しい絵を描きますが、これは『原因』です。次にカンバスまたは壁にそれを描くと『結果』が生じることになります。ときとして画家は心に描いたほどの美しい『結果』が出来上がらないために、ひどく失望することもあります。あなた方は街路を歩いたり森の中を散歩したりして、樹木のあいだにただよつて『生命』そのものを実際に見ることがでできますか？ あなたた方には見えるでしょう。そしてもし見えるとすれば、真実の宇宙の法則を扱つてゐるのです。あなた方はそのことを大変うまく理解してしません。がろうとしているかを知らうとして、犬はそのことを話してもう必要があるでしょうか。そういう必要は全然ありません。犬は人間が何をしようとしているかを知つています。しかしそこには眼に見える伝達径路は存在しません。犬は人間が失つてしまつたこの伝達径路を持つてゐるらしいのです。イエスがペテロに言つたのは次のよう意味だったのです。

「原因を見るようにしなさい。なぜならこの眼に見えないものから眼に見えるものが出てくるのだから——。それこそ真道です」

しかし人間は自分の想念の中に天国を思い浮かべるときでも、眼に見えるものを見ることを学んできました。それ

がどこかへの脱出口であると考えてそれが（眼に見えるもの、すなわち物質）いつもここにあるのに、手を伸ばしてそれをつかもうとしています。

### 天国は自分の中にある

ここに一例があります。ある日一人の牧師が私の所へ来て言いました。

「ジョージ、君は間違つた道を進んでゐる。君は迷える人間だ。それで君を救うために祈つてあげることを話そうとして五十九マイルをドライブしなければと思つたんだ」

私は相手の配慮に感謝しました。つまり、私のような人間でも救われる価値があると相手が考えてくれたからです。そこで相手に尋ねました。

「全然迷つてはいないものを、どうして君は救えるのかね？」

相手は私が神の冒瀆者だと思ったといふのです。これは最初に私のような質問をすれば、彼らのすべから返つてくる回答です。それで私は続けました。

「君は神がすべてのすべてだということを教えられたということが、それで私は続けました。パリサイ人やカイペの教会はイエスが教えた事を認めませんでした。イエスがローマ帝国によつて磔刑に処せられたというものは誤った考え方です。十字架上で彼の生命を要求したのは教会なのであって、その教会は当時の教会の高僧であったカイペです。それは當時に存在した唯一の教会です。カトリック教会がカギを握り、それを彼らの宗教に取り入れたのですが、実際は、カトリック教会に属していようがいまいが、そのことを考へることのできる人すべてのものなのです。

（以下次号）

久保田八郎訳

私が迷える人間であるはずはないし、

天国からはずれているわけもありませ

ん。やはり神の内側にいるのです。そ

うです。私たちは外側にある天国をつかみ取る必要はありません。それはすでにこ

こにあるのです。私たちはそれに気付く必要があります。形はあるように見える物は、一時的な仮の姿にすぎないことに気がつく必要があるのです。形ある物は去

来しますが、その物を生み出す力は永遠なるものです。ひとたびこのことに気付けば、私たちは真理を把握したことになります。これこそイエスがペテロに対し

て意味したことなのです。しかし当時はだれもこのことを受け入れようとはしませんでした。パリサイ人やカイペの教会

はイエスが教えた事を認めませんでした。イエスがローマ帝国によつて磔刑に

処せられたというものは誤った考え方で

す。十字架上で彼の生命を要求したのは

教会なのであって、その教会は当時の教

会の高僧であったカイペです。それは当

時に存在した唯一の教会です。カトリッ

ク教会がカギを握り、それを彼らの宗教

に取り入れたのですが、実際は、カトリ

ック教会に属していようがいまいが、そ

のことを考へることのできる人すべての

ものなのです。

# 人体極性と重力場エンジン



山梨大学宇宙エネルギー研究会

唐沢宏之

中世における生命エネルギーの科学者の多くが、そしてヨガの科学が人体に極性のあることを指摘している。そしてそれが磁気性の極であると説明している。その極は頭部及び陰部に存在して、その二ヶ所が人体という一つの双極子体を形成しているといふ。この知識は現在までさまざま形で應用されてきたらしいが一般化されではない。また宇宙人からも同様な指摘がなされているようだ（注1）。しかも人体の両極は、スピニの極であるとのことである。スピニと磁氣はある一定の関係で結ばれていることが知られている現在、地球における研究の「磁気性の極」という表現も妥当であったことがわかる。スピニの極ならばそのバックグラウンドとしてエネルギー流が「回転」していなければならぬが、これも事実のようで腹部の周囲を回転しているという。

さらに円盤の動力に関して宇宙人が説くように、「……もしこの二つのフィールド（電場

円盤の動力のポイントは、共振電磁場の制御装置にある」（注2）  
 「共振電磁場は生命の基礎に重大な関係がある」（注2）  
 という内容 及び宇宙人の円盤メカニズムの磁気性に関する説明（注3）を加味すると、人体極性と円盤の構造との間に下図のような類推が成り立つことが可能だろう。  
 では、この「磁気的な力」と「重力（制御）」と「人体（極性）」との間にはいつたいどのような関連が見い出せるだろうか。

古代文明の研究で有名なJ・チャーチ

ワード氏と会談したインドの隠者リシ

は次のように言う。

「人間はいわゆる重力を越えた振動を生み出し、その影響を無にすることができない。人間を地上に引きついているのはこの磁気力だけなのだ。磁気力が無に帰せば、人間の身体は実体となり、実体そのものには何の重さもないから彼は自分の体を浮かび上がらせ、空中を飛ぶことができる」（注4）

人体の空中浮揚の例はいくつか報告されている。

また、人体の極性はその死とともに消失するものと思われる所以重力場も消失するだろう。

なぜならば、前述の文献にあるとおり共振電磁場は生命の基礎に重大な関係がある」のであり、まだダニエル・フライ氏と会見した宇宙人の説くように、「……もしこの二つのフィールド（電場

明した重要な内容であるところの

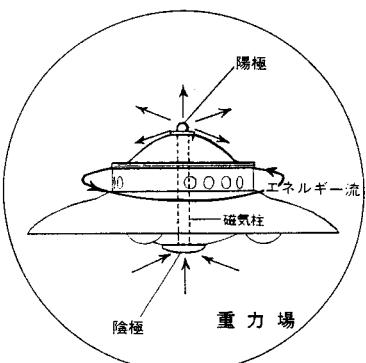
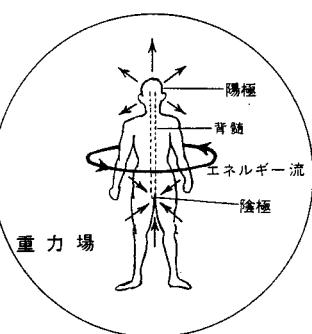
円盤の動力のポイントは、共振電磁場

の制御装置にある」

「共振電磁場は生命の基礎に重大な関係がある」（注2）

という内容 及び宇宙人の円盤メカニズムの磁気性に関する説明（注3）を加味すると、人体極性と円盤の構造との間に下図のような類推が成り立つことが可能だろう。

では、この「磁気的な力」と「重力（制御）」と「人体（極性）」との間にはいつたいどのような関連が見い出せるだろうか。



と磁場）がお互いに共鳴したら、ベクトルフォースが生ずるだろう。……ベクトル場は重力場に似た効果を生じ、実際に

注1 清家新一「宇宙の四次元世界」大陸書房  
 注2 G・アダムスキイ「空飛ぶ円盤同乗記」高文社  
 注3 " " " " " " " "  
 注4 D・レスリー「空飛ぶ円盤実見記」高文社  
 注5 ダニエル・フライ「TO MEN OF EARTH」日本GAP

こうして死と人体重力場の消失を考えてみると、それは「死に伴う身体の重量消失」という貴重な実験報告を想起させる。これは臨終の人間を精密な秤台にのせておくと、死の瞬間において、考えられるさまざまな要素を除いてもまだ余りある重量の消失が観測されたというものである。

同時にまた「死の瞬間における生命エネルギーを付与すること目的とした工学」との結びつきがこのあたりにありそうだ。

重力場エンジンと生命工学（機械に生

命性を付与すること目的とした工学）との結びつきがこのあたりにありそうだ。

以上の事から「磁気的な極性」の存在するところには重力場が存在するであろうという推測が成り立つし、それゆえ人体極性を中心とした生命エネルギー研究の超心理エキスペラートの側から重力場エンジンが提示される可能性すら考えられるのである。

〈連載〉米国GAP本部訪問記（1）

第1部

# きらめくビスタの星

久保田八郎



○カリブオルニア州ビスタの米国GAP本部

一九七五年十月三十日に羽田を出発して半力月の米国出張旅行に出た編者は、翌三十日にロサンゼルスに到着、バスでカリフォルニア州を南下し、三十一日より十一月二日まで三日間、ビスターのGAP本部を訪問して、アダムスキーの高弟であったアリス・ウェルズ、マーク・ウルリッヂ、フレッド・ステックリング、同夫人イングリッド、スティーヴ・ホワイティングらに会い、アダムスキー問題に関する貴重な情報や資料入手した。

更に十一月二日はパロマーレ山でもアリスが経営していたパロマーレ・ガーデンズの喫茶店跡を見学、アシガが建てた物置小屋等を見て、万感胸に迫る一刻をすごし、多大の収穫をあげたあと四日にはニューヨークへ飛び、六日にはマサチューセツ州ノースボロに住むアシガの高弟アリス・ポマロイ女史宅を訪問、三日間わたってアシガ関係の詳細な情報を与えた。本記事はその詳細な報告であり、多数の写真とともに珍しい情報を公開するこ

とによって読者に裨益すれば幸いである。

全篇を第一部「きらめくビスターの星」第二部「青きパロマーレの空」、第三部「さらばニコイングランド」の三部に分けて数回にわたり連載の予定である。掲載写真はすべてカラーで撮影したものであるが、本誌には費用の関係で残念ながら白黒写真としたことを了解されたい。

× × ×

雲一つない紺碧の大空が限りなく展開して万物が陽光のもとに燐然と輝く美しい南カリフォルニアのここオーシャンサイドは、棕櫚の木が点在する太平洋岸の小さな町で、ロサンゼルスから急行バスで三時間半の平和な地域である。土地の広い豊かな國のせいか、家はまばらで日本のように大小の家屋がぎっしりと立ち並んだせま苦しい感じは全くない。

十月三十日の午後二時半にロサンゼルス空港に到着した私たちは（羽田空港を出発したのも十月三十日の夜だが、米国は一日遅れるので、翌日彼地に着いたのも同じく三十日である）午後五時すぎにロサンゼルス市内からグレイハウンド・バスで沿岸のハイウェーを南下し、夜の八時すぎにオーシャンサイドのホテル、ロイヤル・インに到着して部屋に入ったときは、これでやっと目的地まで来たという安堵感でいささか拍子抜けした状態であった。といって、いきなりベッドにひっくり返るのは私の好みではない。しばらく椅子に腰かけて、あわただしく二日間を回想した。

室内外は静まり返つて物音一つ聞こえず、室内の様式も全く日本のホテルと異なるところはない。どだい異國へ来たという緊張感が起ららないのだ。そういえばロサンゼルス空港で飛行機を降りてすぐに入つた税関でも日本人の係員が数名いて日本語で案内してくれたので、これは羽田空港の一部ではないかと思つた。ほどだが、税關の奥の白人官吏が私のパスポートを見て「何日米国に滞在するつもりですか」とか、私の返答に対しても

「よくいらっしゃいました。この国で十分に旅行を楽しんで下さい」という歓迎の言葉も全然奇異な感じがない。なにか遠い故国に帰つて来たような気がして仕方がない。そうだろう。超能力者の透視によると、私は過去世においてアメリカ開拓時代に西部で活躍した生涯があるということだから、その意味では本当に故国に帰つたのだろう。正直な話、これは私にとって最初の海外旅行なのだが、多少は語学をやつていたせいもあるのか、どうも日本内地にいるのと変わりはない。ロサンゼルス空港からタクシーで市内へ飛ばしたが、この運転手はブエントリヨ人だということで、かなりスペイン語あまりの強い英語で話しかけてくる。あんたらは日本人か、自分はロスへ

版社の出張旅行であり、本来の目的は米国で出版されているUFOと超能力関係の図書や資料を大量に仕入れに行くことであった。したがって私の旅費一切は会社から出ているが、この計画を発表するや、GAPメンバーで社員の堀公明君が自費で行くからぜひともアシスタントとして連れて行ってくれと言い出したのである。どうせ行くならカリフォルニアの

## ●ロサンゼルスにて



米国GAP本部に立ち寄つてアダムスキー関係の資料を徹底的に調査し、かつての高弟たちと会つて心ゆきまで話し合いたいだということを洩らしたところアダムスキー問題にすごく熱心な同君が熱烈な意欲を示し、休暇だけを与えてくれ、旅費は自分でまかなうので会社に迷惑をかけぬと言う。社内の幹部会議で検討した結果、私も撮影・録音等で器材の携行が重荷となるし、その他アシスタント的役割を果たすのに若者が一人ぐらいいは同行する方がよからうということでは会社も同意したのである。ただし同君は英語をやらないため（日本語もあり話さない）、しゃべるのはもっぱら私の役目となり、しかしこれがまた私にとってこよなぎレッスンとなり、沈黙主義者の同君が随伴したことはむしろ幸いした。もし日本式英語で練達の士が同行して、これみよがしにくだらぬことをしゃべりまくり、國辱的態度を示したならば、ウザリしたことだろう。

さて、私は自室で一服やつてからお立ち上がり、米国GAP本部（正式にはジョージ・アダムスキーフィー）へ電話をかけた。すると婦人の大きな声で応答があつたので、アリス・ウェルズに話しかけた。日本から来た久保田だ、明日そちらへうかがいたい、と言うと、たいそう喜んで待つている、すぐにフレッド・スティックリングに電話をかけて彼に明日ロイヤル・インへ車で迎えに行かせるよう連絡するから、少し待て、やがてフレッドから電話があるだらう、と言う。

ビスターを訪問することは日本を出発する前に連絡してあって、フレッドも私に会うのを期待しているという返事をもらっていたのである。

ああ、これこそ待ちに待つアリス・ウェルズの声だ！一九五二年十一月二十日、かの有名なデザート・センターをはずれた砂漠で、ジョージ・アダムスキーが最初に金星人と会見したときの大人の目撃者の一人で、そのとき双眼鏡でのぞきながら金星人をスケッチした名高い婦人なのだ！かなり高齢と聞いていたが意外に若々しい声である。電話を切つて十分もすると今度はフレッドから電話がかかってきた。明日迎えに行く、ロビーへ待つているか、と言うので、ロビーのチェックイン・カウンターの前で午後に一時に待つと言う、必ず行くと言う。

「In front of the check-in counter?」と、はずんだ声で答えたあと、これで目的の大半を達成したような安心感とともに、in front of という昔少年の頃一生懸命に覚えた熟語がやつと役立つたなアーチー・レスや客たちの会話がやつと役立つたなアーチー・レスや客たちの会話も日本の英語参考書の英文などとはまるで違う。口語英語だからそれは当然だが、それにしても何というか、かなりくずれているようであり、もちろん発音は西部米語である。イギリス英語を東京弁とすれば、アメリカ英語は関西弁というのだろうか。文法は根本的に同じはずだが、きわめてやわらかく響く。私はまずこの言葉の点で興味深く聞き耳を立てた。

この頃から、ああ、やはりここはアメリカなのだと異国情緒がわき起こるのをどうすることもできなかつた。窓外を見ると空は抜けるように青くて、小高い丘ロイヤル・インの関連店であるらしいが日本のドライブインに見られるレストランのごときもので、駐車場で車をとめた白人の家族連れが三々五々入つて来る。中はさして広くないが、椅子は二人がけのソファ式でゆったりとして座り心地がよい。黒人のウェートレスが「こんにちは」と挨拶しながらメニューを見せる。その態度はきわめていいで、一見してわかる東洋人旅行客だといつてバカにした様子はみじんもない。簡単な朝食をとると代金は一人一ドル九十七セント（約六百円）で、中味を日本のそれと比較すると決して高くはないが、安くてかなわないというほどでもない。まあまあというふたたびロイヤル・インへ引き返し、中庭のプールのそばへ行く。イン（inn）というのは英和辞書では「宿屋、旅館」などと出ているが、私たちのロイヤル・インやその後宿泊した他のインなどの様子からみると、アメリカではどうも小型ホテルで、一種のモーテルのようなものらしい。しかし日本のモーテルとは格段の相違があり、規模こそ小さいが立派なホテルである。だが、いわゆる大きなホテルよりは宿泊費が安い。こうしたことは日本で大体に研究してわかつていた。それでここに泊つたのである。旅客機やホテルの予約等は事前に日航を通じて全部手配しておいた。中庭には立派なプールがあり、デッキチエアなどが置いてある。

ここで暫時少憩して写真を撮つたりしたあと、一時前にロビーへ待つて、と、やがて車が来て、二人の男が入つて来た。一人は一見してわかるフレッド・スティックリングで、他是見知らぬ若い男である。フレッドは「なぜ空飛ぶ円盤は来るのか」（文久書林刊）の著者で、かつてのアダムスキーの高弟として有名である。白人にしては少々背が低く、がつ

に散在する民家はマッヂ箱のような平家のドライブインに見られるレストランの民家と少々趣きを異にしている。しかし大差はない。豪壮な大邸宅というようなものはこの辺りでは見あたらない。

### フレッド・ステックリングに会う

食事をすませて、まだ時間があるのでふたたびロイヤル・インへ引き返し、中庭のプールのそばへ行く。イン（inn）というのは英和辞書では「宿屋、旅館」などと出ているが、私たちのロイヤル・インやその後宿泊した他のインなどの様子からみると、アメリカではどうも小型ホテルで、一種のモーテルのようなものらしい。しかし日本のモーテルとは格段の相違があり、規模こそ小さいが立派なホテルである。だが、いわゆる大きなホテルよりは宿泊費が安い。こうしたことは日本で大体に研究してわかつていた。それでここに泊つたのである。旅客機やホ

テルの予約等は事前に日航を通じて全部

手配しておいた。中庭には立派なプール

があり、デッキチエアなどが置いてあ

る。

ここで暫時少憩して写真を撮つたりしたあと、一時前にロビーへ待つて、と、やがて車が来て、二人の男が入つて来た。一人は一見してわかるフレッド・

スティックリングで、他是見知らぬ若い男である。フレッドは「なぜ空飛ぶ円盤は

来るのか」（文久書林刊）の著者で、かつてのアダムスキーの高弟として有名である。白人にしては少々背が低く、がつ

ちりした体格で、実にあまじめな顔付ををしている。“How do you do. So pleased to meet you. と私が言つて握手すると相手も How do you do. と語つたあと少々けげんな顔をして You are Mr. Kubota?（あなたが久保田さんですか？）とあひだめて尋ねるのや Yes, I am. (そうです)と答えると、にこり笑ひ、じや行きましょうと外へ出で行く。彼が描いていたクボタ像が違つていたのかな、と思ひながら、外に置いてある車に乗り込む。無理もない。本部へ送つておいた日本GAPの月例研究会の記念写真では私が弱々しく写つてゐるが、眼前にいる私は彼の眼から見れば頭のハゲたドン腹の不骨な男なのだ。なんだ、こんな奴だったのかと思つたのかもしれない。

さて、車は一路ビスタをめざして走つて行く。風景には別段目を驚かせるほど変わった様子もないが、やたらとショロの木が目立ち、小高い丘が多いのに気づく。しかし、のびのびとした開放的な光景はたしかに日本の地方とは違う。とにかく面積の広大な国だ。遊んでいる土地がまだふんだんにあるのだな、ここらあたりで坪の価格がどれぐらいかな、という想定がチラチラと来ましたが、本部へ着く前にちょっと質問してみようといふ衝動にかられて、運転席にいるフレッドに話しかけてみた。

「こちやことわつておくが、わがよきアシスタンントの墙君は早速氣をきかせて車に乗り込んだときからテープレコーダーを作動させていたらしい。あとで再生してみると、私がしょっぱなにフレッドに

発した質問からすべて録音してあった。したがつて、この記事に出てくる会話はあとですべて録音テープを聴きながら忠実に訳したものであつて、ウロ覚えの再録ではない。テープレコーダーは日本を出発する直前に市場へ出たソニーの新製品で、いわゆる「カッパブックスと同じ大きさ」というキャッチフレーズで大きく売り出したのを墙君（私は日頃彼を「ハーさん」と呼んでいるので、以下そのように表記する）が購入して携行したのだが、実に優秀な機械であることが後日立証された。ただし内蔵マイクで録音するとモーター音も入るので、コードのついた私の録音用ソニーマイクを接続して使用することにきめていたのだが、彼は前部座席の背の上にマイクの先だけをのぞかせて、やつたらしい。

久「あなたたはたしかメキシコに住んでいますか？」

「私の質問は少々意外である。私が三日朝までしかいないということは事前にアリス宛の手紙で知られており、それをフレッドも読んだということをアリスの返事で知つていたからである。

そこで私は答えた。

「私たち三日朝までこちらに滞在する予定です」

「そうですか？」

「それで今日はウニエルズ夫人の家（ダムスキーフ財団）で別れたあと、仕事に行かねばなりません。日曜日は休みですから、ペロマーへ案内できますし、映画もお見せできます」

久「そりやいい。あなたの先祖がドイツから来られたのですかね？」

「いや、私がドイツから来たのです。私はドイツのベルリンで生まれて、二十一歳までドイツの学校へ行つていました。二十一歳のときドイツを出たのです。私の妻（イングリッド）もドイツから来ました。そしてカナダで結婚しました」

久「ずいぶん流暢に英語を話しますね」

「もう長いあいだこちらに住んでいますから」

久「私はジム・エンツミンガーという名前を知っていますが——」

「そうですか？」

久「どんな人ですか？」

「このことにはつきません。私のいた所はメキシコの中の二千マイルも入った所で、新しい旅行者カードを入手するために国境まで帰らねばならず、これではずいぶん高いものにつきます。私のいた所はメキシコの二千マイルも入った所で、新規のため、居所を売つて米国へ帰ります。今まで帰らねばならないことと、政治的な圧力のために、居所を売つて米国へ帰る

」の、驚きおしたね、というのを私はIt is a surprise! と叫いたのだが、この場合は It is a surprise to me! と言つ方が better だとこうことを後日帰国して友達の外人から聞いた。どうも英語はむつかしい。

「あなたたは月曜日（十一月三日）までこちらにいるのですか、それともビスターに住みたいですか？ ビスターに滞在したいですか？」

この質問は少々意外である。私が三日朝までしかいないということは事前にアリス宛の手紙で知られており、それをフレッドも読んだということをアリスの返事で知つていたからである。

そこで私は答えた。

「私たち三日朝までこちらに滞在する予定です」

「そうですか？」

「それで今日はウニエルズ夫人の家（ダムスキーフ財団）で別れたあと、仕事に行かねばなりません。日曜日は休みですから、ペロマーへ案内できますし、映画もお見せできます」

久「そりやいい。あなたの先祖がドイツから来られたのですかね？」

「いや、私がドイツから来たのです。私はドイツのベルリンで生まれて、二十一歳までドイツの学校へ行つていました。二十一歳のときドイツを出たのです。私の妻（イングリッド）もドイツから来ました。そしてカナダで結婚しました」

久「ずいぶん流暢に英語を話しますね」

「もう長いあいだこちらに住んでいますから」

久「私はジム・エンツミンガーという名前を知っていますが——」

「そうですか？」

久「どんな人ですか？」

「ジム・エンツミンガーというのはGAP本部発行の機関誌「コズミック・プレイン」に、しばしば好論文を出してい



●運転するフレッド（左）とスティーヴ

た人である。すると助手席の男が初めて口を開いた。

「彼はウェルズ夫人の友達だったのです。が、もうここにはいません。二人のあいだに大きなトラブルがあつて、彼は去つて行つたのです」

久「ああ、二人のあいだにトラブルが一。なぜですか？」

男「どうです？ どんなトラブルですか？」

久「そうですね（と言つて明るく笑う）そりや長い話になりますよ。いろいろあつたんですね！」

男「そうですか。ジム・エンツミンガ

はコンタクトマンだと聞いていましたが——」と私は感違ひして言つた。これはスティーヴ・ホワイティングと言うべきだったことにあとで気づいた。かつてスティーヴという少年がアダムスキード・グ

久「ははア、彼はコンタクトマンではなかつたのですね？」

男「そうです」

久「そうですか」

フレッドが話す。

「ね、エンツミンガはテレパシーでコンタクトしたと言つていますが、スペース・ピープルはそんなふうに（テレパシーだけで）地球人に話しかけることはしないのです」

男「そんなことはしませんね」

フレッドが話す。

「英語、日本語、ドイツ語などで話しかけます。これは地球人がテレパシーといふものをよく知らないからです。おわかりでしょう、テレパシーは地球人にとって未知なものなのです。地球人はテレパシーなるものをほとんど知りません。テレ

久「ははア、彼は宇宙人とテレパシーで交信したと言つていますが、みなだめです」

男「彼らは一部分（情報）だけをキャッチしているのです。ほんのわずかをキヤッチャして、あとの情報を間違つています。そしてあらゆる種類の混乱をまき散らしているのであって、だれも真実を知りません」

久「フィジカル・コンタクト（面と向かってのコンタクト）が重要なのですね」

男「そう、そう」

車はかなりのスピードで進行する。家が隣接して立ち並ぶ日本とは違つて、小さな民家が丘々に点在するだけで、余分な土地がかなり目立つ。舗装されたハイウェーや所々にある交通標識などは日本

のそれと大体にバタンは同じで、異なるのは標識の文字が横文字ということぐらいである。急にフレッドが話題を変えて、「今、カリフォルニアは乾燥期です。来月までには雨が降るでしょう。昨夜は雨

ループにて、超能力者で、ア氏亡きあとコンタクトしているという情報を私はかなり以前から入手していたのである。

男「違います」

久「違いますか？」

男「全然、違います」

久「彼はテレパシー能力を持つているんでしょ？」と、まだ感違ひしている。

男「そうですね。こんなふうに言えるでしょうか。かなり以前に彼と知り合つてそれ以来ずっとつき合いましたが、普通の人と全然変わらないことがわかったのです」

久「ははア、彼はコンタクトマンではなくつかつたのです？」

男「そうです」

久「そうですか」

フレッドが話す。

「ね、エンツミンガはテレパシーでコンタクトしたと言つていますが、スペース・ピープルはそんなふうに（テレパシーだけで）地球人に話しかけることはしないのです」

男「そんなことはしませんね」

久「ははア、彼は宇宙人とテレパシーで交信したと言つていますが、みなだめです」

男「彼らは一部分（情報）だけをキャッチしているのです。ほんのわずかをキヤッチャして、あとの情報を間違つています。そしてあらゆる種類の混乱をまき散らしているのであって、だれも真実を知りません」

久「フィジカル・コンタクト（面と向かってのコンタクト）が重要なのですね」

男「そう、そう」

車はかなりのスピードで進行する。家が隣接して立ち並ぶ日本とは違つて、小さな民家が丘々に点在するだけで、余分な土地がかなり目立つ。舗装されたハイウェーや所々にある交通標識などは日本

が降つたためにあらゆるもののが緑色に見えます。あまりいい景色ではありません。それからまたピープルに会つて尋ねました。「あの想念は正しかったでしょうか？」と。しかし、ただテレパシーだけで宇宙人と通信したというのは心のだとフレッドが説明する。日本製の自動車は米国で相當に人気があるらしい。ただし彼らは「トヨタ」と「ヨ」にアクセントをつけて発音するので、そうではない「トヨタ」と「ト」を高く言って私が訂正する。

フ「ウェルズ夫人の所へ行くと、マーサが相当な高齢であることがわかるでしょう」

久「ほう、何歳ですか？」

フ「ウェルズ夫人は七十五歳です」

久「へエー！」

フ「マーサ・ウルリッチは八十六か八十七歳です」

男「八十五歳ですよ。大変な年寄りだ」

久「八十五歳？ 年寄りですね！」

フ「だから私たちはあの二人を援助するためにならへ来たのです。そんなに年を取つていると援助が必要ですからね」

男「あなたの名前は？」

男「やア……私の名前はスティーヴ・ホワイティングです」

驚いた！ この神秘的な風ぼうの青年が問題のスティーヴなのだ！

「ああ、ステイヴ・ホワイティング！あなたの名前を知っていますよ！」

ス「そうですか」

ここで私は感違ひしていたことにやつと気づいたのである。

久「あなたはコンタクトマンだそうです

ス「ううん（笑う）……でも、おつきの

テレパシーのようなものは信じません。

私はたびたびスペース・プラザーズに会いました。しかしだれでもプラザーズに

会っていると思います。それに気づくか

気づかないだけのことです。というのは

彼らは地球人のそばへ来て『よう、私は

金星から来たんだよ』とか『大気圏外か

ら来たんだよ』とは言わないからです。

ですから、だれもみなプラザーズに会つ

ているので、しあうが、気づいたり気づか

なかつたりするんじゃないでしょうか」

久「あなたのテレパシーはどの程度のも

のですか？」

ス「ああ……そうですね、私たちはそれを応用しています……とてもうまくやく

のです」

久「（フレッドと）一人の間でですか」

ス「そう、他人ともね」

フ「家族ともやっていますよ」

ス「うまくやれるように、なるべく応用

しているのです」

久「さあ、ビスターへ入りましたよ。ここは小さな町ですが、たいへんいい所です。気候もたいそうよくて、寒すぎることもなく暑すぎることもありません。年

中いい気候です」

あたりは少々家が多くなって、たしか



● G A P 本部付近

Anything! he knew anything! と、フレッドの声が高くなつて熱がこもつてく。「彼は普通人のように見えましたが、たいそう高貴な人でした。彼の唯一の動機は人々を助けることで、そういうタイプの人でした。……これがロマ・ドライブです」と、走つてゐる道路を指さす。ロマ・ドライブというのは本部のアドレス

に小さな町へ入つたという感じがする。「アダムスキーはどんな人でしたか？」と、本部へ着くまでに彼の感想を聞いてみることにした。

「おお……彼は私の人生で会つた最高の人でした。あらゆることを知つていまし、政治、経済、宗教、野球……何でも知つていました」



● 玄関前に到着したフレッド、久保田、スティーヴ

の地名なので、いよいよ近づいたな、と私はいささか緊張した。

「彼はここに三年だけ住んで死んだのです。もちろん、あちこちへ講演に出かけましたし、ワシントンやボストンにも講演に行きました。彼があちらで死んだときに私はそこにいました。ここにはあまり長くいませんでしたね。ここはいい所です」

久「映画フィルムは今どこにあるのですか？」

これはアダムスキーが撮影したUFO フィルムのことである。

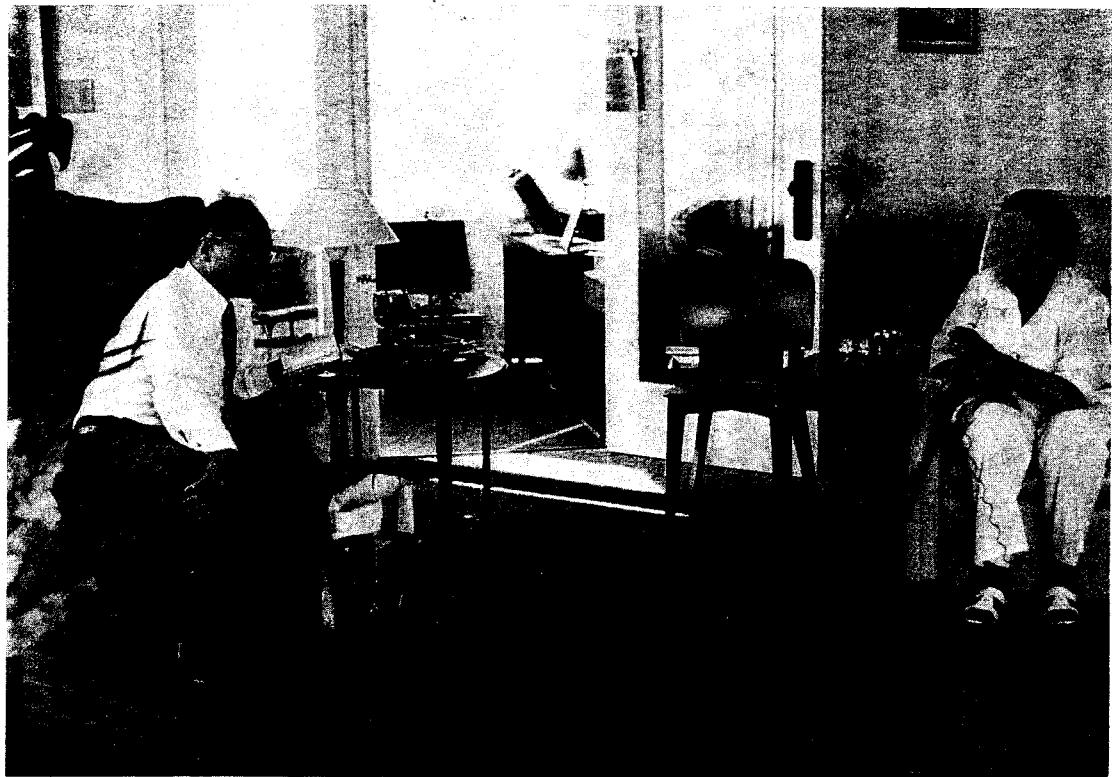
車はあちこちと道路を曲がりながら、

### G A P 本部へ着く

ドアのそばに「ジョージ・アダムスキー財团」とかなんとか大きな看板でも掲げてあるのかと思つていたが、家屋番号を示す数字以外に、それらしいものはない。あちこちに見られる民家と何ら変わらない。もちろん、家のスタイルは日本のそれとは違う。

フレッドがベルを押すと、まもなくド

アードが開いて、上品な顔つきの老婦人がにこやかに顔を出す。これだ！ アリス・ウェルズだ！ かなり年を取つてゐるのだなと思ひながら中へ入り、奥の広間へ案内されて、そこであらためてアリスとマーサに挨拶する。そして、すすめられるままに一つのソファに腰をおろした。アリスは私から数メートル離れた入口に近い位置にあるソファに座り、マーサ



●久保田（左）とアリス・ウェルズ

サはすっと奥の右手のソファに座って、左手の壁には円フレッドとステイヴは奥の左手の長いソファに腰をおろした。したがって互いにかなりの距離があるが、室内がたいそう静かなので、みんなの声はよく聞きとれる。アリスは真白の服に幅の広いパンタロンをはいて、杖を手にしており、マーサは青い派手な服を着ている。日本でいえば二十歳前後の娘さんに似合うような柄の服だが、八十五歳の老婆とはいふ、白人女性だから少しも不自然ではない。

奥の方からフレッドがまず、しきりと話しかけてくる。達者に英語をしゃべるがインドかイングランドにいたことがあるのかと言うので、いや、これが最初の海外旅行だと言うと、奇妙な顔をしていふ。しばらく雑談が続いてから私はそろそろ土産物を出してアリス、マーサ、フレッドにくばつた。ステイヴに持つて来なかつたのを残念に思つたが、どうに仕方がない。

この広間はいわゆるリビングルームの形式になつてゐるが、広さはかなりあつて、三十畳近くはあるだろう。入口から見て右手の壁の中央に暖炉が切つてあり、その上方にアダムスキーのカラー写真が飾つてあるのが眼についた。これはコダック社を訪れたときのウイリアム・シャーワードが撮つた写真で、私も持つてゐるからすぐわかつた。この広間へ入るまでに通り抜けた部屋、つまりドアから広間の入口まで続く小さな部屋が事務室であり、ここでアダムスキーが三年間執務したのである。暖炉の前には美しい

花が大きく生けてあり、左手の壁には円盤と母船を描いた十号ぐらいの絵がかけられた。その他、壁のあちこちに小さな写真や絵などが飾つてある。

アリスに土産物を渡すと、彼女は喜んだ（この土産物というものは東京の三越デパートで買った婦人の和服用ハンドバッグで、東洋風の模様の入つたものだが、彼女はすぐに開こうとはしなかつた）。統いて私は寄付金として百ドル入つた封筒を渡した。この金はマーさんが個人的に出したものを日本GAPの名義で献金したのである。彼女はいたく感謝した。

「どうも有難う。あなたからの献金もたしかにいたしました」

これは渡米前に私が個人で百ドル送つておいた寄付を意味する。生活水準の高い米国で百ドルというのは少額だろうが、三万円という金は私にとっては大金なので、気持は果たしたと思った。

ア「アダムスキーがこちらにいた頃、若い日本人が来たことがあります」

久「それはだれですか？」

ア「思い出せません。名前はファイルの中にあります」

アリスの声は年齢不相応に若々しく、やさしく、はなやかな楽しそうな声で、あたりの雰囲気が明るくなつてくる。ところがマーサは八十五歳とは思えぬ大きな声を出す。まるで怒鳴るような調子だ。何という元気のよいばあさんだらうと、あらためて驚いた。

ア「日本からUFOの雑誌が来ていました。これはあなたに関係のあるものですか？」それとも全然関係はありません

か？」

出された雑誌を見ると、何のことはない、私が出している「UFOと宇宙」の第十三号だ。これはアリスに送つてなかつたので、日本のだれかが送つたのだろうと思つて、送り主の手紙の封筒を見せるので、発信人を見て、ハハント見つた。この人はかつて日本GAPのメ



●マイクを持つアリス

枚をアリスは手許に持つていた。

日本GAPにもいろいろトラブルがあつて、去つて行く人も多い、という意味のことを話すと、アリスも同感の意をあらわして、「こちらでもいろいろありますよ。多くの人があなたの道を行くのです」と言ふ。

久「日本でもアダムスキーリーに関する多くのデマがあつて、多くのトラブルが発生するんです」

ア「ハンス・ペテルセンから来たものをお見せしましょう。彼のGAP機関誌を入手していますか？」

ハンス・ペテルセンはデンマークのGAPリーダーとして多年活躍している人で、その機関誌「UFOコンタクト」は私の所にも送られてくる。

久「ええ、送つてきますよ」

テ「これが先日送つて来た記事です」

### ロジャーズを問題にせず

久「これは私が東京で出している雑誌ですよ」

ア「あなたが出しているの！」

久「そうです」

ア「それもあなたが出しているのね」

久「私は小さな出版社を経営していて、『UFOと宇宙』という隔月刊誌を出しているんです」

大体に私はユニアース出版社のことは米国GAPに詳細に知らせてはいなかつた。これはあくまでも企業であり、GAP活動とは別だと考へて、区別していた。ある。もちろんGAPはニューヨーク市で発行の都度送つてあるし、月例研究

この十年ないし十五年間、アダムスキーリーの写真と同じタイプの円盤が見られていました。ベル型で下部に三個の球を持つ円盤がニュージーランド、オーストラリア、ヨーロッパ、その他の地域で目撃されています。だから円盤はたしかに実在するのです。……だけど一人の男が模型を作ると、今はこうした写真はすべてインチキだということにされています。一般大衆の心がいかに狭いかがわかるでしょう。彼らは考えようとしているのです」

久「ときどき日本でもアダムスキーリー型円盤が出現します。この写真はトヨタ自工の社員の方が撮影したものですね」と言って私は持参したポジカラーを取り出して見せた。これは「UFOと宇宙」第14号の表紙と第15号のロゴを掲載されたものである。アリスはそれをかざして見ながら

久「ええ、これはベル型ですね」と言ふ。

フレッドとステイヴも寄つて来て、その写真を見ている。その間、アリスがベルギーGAPリーダーだったマイ・モーレーのことと言及して、彼女の機関誌が送られて来るかと尋ねる。「来る」と答えると、彼女は一九六三年に夫と一緒に訪ねて來たが、その後、夫が死んだために姓が変わったというようなことを話す。フレッドはまだ豊田市のアダムスキーリー型写真を見ていて、私に二、三の質問

ア「あなたが出しているの！」

久「うそです」

ア「それもあなたが出しているのね」

久「私は小さな出版社を経営していて、『UFOと宇宙』という隔月刊誌を出しているんです」

ア「しかし一般人がどんなに盲目であるかがわかるでしょう。というのは、だれかがあの冷却器を作つたのです。アダムスキーリーの写真をまねて作つたんですよ。

なも笑う。ロジャーズのデマなど全く問題にしていないという様子だ。

ア「ご存知でしょうねが一九五一年にダービシャー少年が英國で写真を撮る前に、だれも模型などを作らなかつたんですね。私はアダムスキーリー型円盤を何度も見ています。だから円盤はたしかに実在するのです。……だけど一人の男が模型を作ると、今はこうした写真はすべてインチキだということにされています。他人からそのことを聞く必要はありません」

久「ここで見たのですか？」

ア「ワシントン市とデンバーです。ビスターでは映画も撮りましたし、昨年は自宅の上空へ来たのを映画に撮りました。日曜日にお見せします。この豊田市はスライドにして講演で使用します」

ア「あなたの会社はユニバース出版社というの？」

アリスは、フレッドが「UFOと宇宙」の発行部数はどれくらいかと聞く。その数を答えると、みな驚いている。どうやら世界でこれほど発行部数を持つUFO専門誌は他にならないらしい。

ア「二日間のスケデニールなどを話し合つたあと、ここらでいいよ重要な質問に移ろうと思つて、私はあらためてアリストの方に向き直り、

ア「アダムスキーリーに関していろいろ質問があるのですが、いいですか？」と切り出す。フレッドはまだ豊田市のアダムスキーリー型写真を見ていて、私に二、三の質問をする。

ア「ケン・ロジャーズによれば、この豊田

市も冷却器を作つたということにありますね」と私が言つて笑うと、みんなもウエルズ夫人が喜んで答えてくれるで

「しよう」と言って、スティーヴと一緒にそそくさと出て行った。私が話しやすいようにと気をきかせたのだろう。そこで氣を落ちさせてやおらバッグから手帳を取り出し、途中の機内で思いつくままに書きとめた質問表の個所を開いた。

### アリストの対話

久「まず第一の質問ですが、アダムスキーは東洋の哲学を研究するためにチベットにいたことがあるそうですが、これは本当ですか？ 子供のときにいたのですか？」

これは別掲記事「進歩した思索家のために」と題するア氏の論文中でそのことが述べてあって、これを読んで意外に思つたからである。

ア「本當です。彼の父はカトリック教徒で、母親はエジプト人でした。母親は彼をカトリック教会で教育させたかったのですが、彼はウルトラ・ボーイでしたから、ある年齢になるまで待つて、それから東洋の哲学を研究させようとしたしました。そこで準備がなされて、彼は約四年間ラサ（チベットの首都）にいました。そこへ行つたのは十四歳ぐらいだったと思ひます。もとと年少だったかもしません」

今年（一九七五年）七月に広島県三原市で円盤から出て来た宇宙人とコントラクトしたという姫路市の大僧正・北野恵宝師も、若い頃、チベットの秘境で四年間修業して超能力を開発されたという情報を日本出発前に塩谷博士より伝えられて

いたので、こりやチベットへ行かなくちゃだめかなと思いながら次の質問に移る。

ア「ニューヨーク州に姫が一人いるはずです。しかしここにいるのかわかりません。手紙を出したことがあります」「居所不明」で返送されてしまいました。ですから家族とは全然連絡していません。……その姫はニューヨーク州のラカワナにいたはずです」

久「アダムスキーは眞実のコンタクトマシンではなく、ゴーストライターが書いたのだという説がありますが、これについては何？」

### アダムスキーは眞実のコンタクト

ア「彼がコンタクトしなかつたというのですか？」とんでもない、彼はコンタクトしたんですよ（と、ここでアリストは、Be dia! という言葉に力を入れた）。だから私は彼のコンタクトの現場のいくつかに居合わせたんだから、彼はたしかにコンタクトしていますよ。彼が最初に砂漠でオーソンと会つたとき、私もそこにいました。もちろんそのときはオーソンという名をつけてはいなかつたんです

が、一九五二年のあの記念すべき十一月二十日に、私はそこにいたんですよ、だから彼のコンタクト（複数）は眞実です、私も多くのスペース・シップを見て



●対話を聞いているマーサ（左）

久「あなたは砂漠でオーソンを見たのですね？」

ア「そう、遠くから双眼鏡で見ました。

砂の中には小さな花崗岩でした。あの本の中に

載っている足跡です」

アリストは淡淡と、しかも楽しそうに記憶をたどりながら話す。でつちあげを如

じんもなく、むしろなつかしい過去の追憶にふけつているかのようだ。しかも言葉を選択しながらボソリボソリと話すの

ではなく、早口で（これが典型的な西部米語なのだろう）無造作に、ごくありふれた出来事を話すように、明るい声で話

し続ける。ときどき正面を見たり、私を見たりする。

久「あなたは六人の目撃者の一人なのでしょう？ そして双眼鏡で見ながらスケッチしたのですね？」

ア「そう、スケッチしました。それが本に載ったのよ」

久「そのオリジナルの絵を持っていますか？」

ア「ええ、持っています」

久「ほう、見たいもんですね」

ア「あとで見せましょう。今はしまってあるわ。事務室にある。そこにはあの油絵もありますわ（オーソンの肖像画のことらしい）。あれはゲイ・ベスが描いたものです。ドラーのうしろにかけてあります。ゲイ・ベスがアダムスキーの説明と私のスケッチをもとにして等身大的油絵を描いたもので、アダムスキーによると、あの絵は八十五ペーセント正しいということです。実際は髪がもう少しブロンド（金髪）で、もう少し長かったそ

うだけど、ほかの点ではとてもよく描けているということです」

久「その双眼鏡を今も持っていますか」

ア「持っています。彼の双眼鏡を……」

久「あのとき円盤を見ましたか？」

ア「見てはいません。丘のうしろに入っ

マーサは奥のソファに座つて身動きもしない。質問を始める前にアリストがマーサに向かつて「もし私が間違つたことを

言つたら訂正してね」と呼びかけたところをみると、無言のまま会話を耳を傾けているらしい。そして、ときどき怒鳴る

ような調子で合の手を入れたりする。室内は静寂で、戸外の物音はほとんど聞こえない。

アリストは奥のソファに座つて身動きもしない。質問を始める前にアリストがマーサに向かつて「もし私が間違つたことを

言つたら訂正してね」と呼びかけたところをみると、無言のまま会話を耳を傾けているらしい。そして、ときどき怒鳴る

ような調子で合の手を入れたりする。室内は静寂で、戸外の物音はほとんど聞こえない。



●オーソン肖像画の横に立つ筆者

たからです。母船は見ました」

このことは「実見記」にも書いてあるので、我々はよく知っている。統いて、ア氏が撮った未公開の写真類について尋ねてみたが、アリスはなぜかはつきりと答えたがらない。まだ沢山の写真が隠してあるんだな、と思ったが、しつこく聞くのはやめることにして、とにかくオーソンのオリジナル肖像画をしきりと見たくなつた。一体どこにかけてあるのだろうと思いつつ、また尋ねると、マーサがアリスにむかって口を開いた。

「あんたが話しているあいだにもクボタは見たいんだろう。今、見たいの?」と私に聞く。そうだ、と答えると、マーサが立ち上がって、ゆっくりと歩きながら私を事務室の方へ案内する。ついて行つ

てみると、あつた! 入口のドアのかげにかくれて見えなかつたのだ。つまり玄関の(といつても、あちらの家は日本の家屋の玄関みたいなものはない。ドアをあければいきなり部屋に入る)ドアのすぐ横の壁にかけてあるので、ドアが内部へむかって開くと、そのおかげになつて絵は見えなくなるのである。

### オーソンの肖像画を見る

何というすばらしい絵だらう! 等身大に描かれたオーソンが眼前に片手を上げて立つてゐる。しかし顔やあちこちの部分が黒ずんでいるのはどうしたこと

なつた。アリスはなぜかはつきりと答えたがらない。まだ沢山の写真が隠してあるんだな、と思ったが、しつこく聞くのはやめることにして、とにかくオーソンのオリジナル肖像画をしきりと見たくなつた。一体どこにかけてあるのだろうと思いつつ、また尋ねると、マーサがアリスにむかつて口を開いた。

「あんたが話しているあいだにもクボタは見たいんだろう。今、見たいの?」と私に聞く。そうだ、と答えると、マーサが立ち上がって、ゆっくりと歩きながら私を事務室の方へ案内する。ついて行つ

すよ。広間の電線から火が出て、家具類はみなめになつたけど、オーソンの絵はそんなにきずつかなかつたわ。少し煙をかぶつただけ……」

日本語でいう『ボヤ』のことらしい。このことは当時、火事の直後に連絡があつたので、私は驚かなかつた。資料類は全部持ち出したという。しかし惜しいことをしたのだ。美しいオーソンの顔は少々どす黒くなつてゐる。

ふたたび広間へ引き返して腰をおろし質問を続ける。ア氏の写真類のこと、その他資料類のことなど……。しかしアリスはこちらが『何々を持つてゐるか』と、その物を明確に指摘しない限り、自分で言及しようとはしない。調子に乗つて次々と資料を引っぱり出すという態度ではない。体が不自由なためか、別に考

えがあつてのことか、よくわからない。

久「アダムスキニーはテレペシー、透視などの超能力を持つていたということですが、それは本当ですか?」

ア「ええ、本當です。私はアダムスキニーの伝記を書きました。その原稿は今出版社へ行つています。それに今まで世界中から寄せられた質問に対する回答が書いてありますから、出版されればよいと思っています。『なぜアダムスキニーはあのような仕事がやれたのか?』というような質問もあります。……彼はその仕事のために生まれたのです。偶然のことではありません。彼には背景がありまつた。マーサと私は四十年間彼を知つてゐますし、生涯中、親しく仕えてきました。死後十年間は財團を維持してきました。

たので彼が持つていていた能力と知識、そして書物に書かれた知識と哲学が本物であり、宇宙的な知識であることも知つています。私たちが生命を理解し、進歩し、コズミック・プランの一部になろうと思えば、やがては理解しなければならぬ知識です」

久「なるほど。同乗記によればアダムスキニーはロサンゼルスのホテルでファーレンとラミューという二人のプラザーズに会つたということですが、そのホテルの名は何というのですか?」

ア「あれはクラーク・ホテルというの。ビル・ストリートにあつたクラーク・ホテルです。一流ではないし、かなり古くからのホテルですから、もう古びてしまつたでしょう。今はいいかも知れません。四番街と五番街の間のビル・ストリートですよ」

続いて私は同乗記に出てくるブライズの名前について、それぞれ何らかの意味があるのかと尋ねてみた。しかしアリスは知らないと言う。それらの名はたぶんブライズのアドバイスによって与えられたのだろうと。しかしあとでマサチューセッティノースボロのアリス・ボマロイはオーソンとラミューの意味を教えてくれた。とするとアリス・ウェルズが知らぬはずはないので、何かの理由で話をボカしたのだろうか?

私はしつこく尋ねてみた。

「何かの意味があると思いませんがねエ」ア「私もそう思うわ」

久「だが私にはわからないんですよ」

ア「意味はあると思うわ。でもそれは言

えません。聞いたことはあるけど、今は思い出せないわ」

明らかに話をボカしている。言えないということ自体に何か深い意味があるのだろうか。しゃべってよい事といけない事をはつきり意識しながら話しているらしい。

そこでアリスが派出している機関誌コズ

ミック・ブレティンについて聞いてみる

と、さほど発行部数は多くないらしいが、一年に四回は確実に出されていて、私の所にも毎回送つてくるので、内容はわかつている。現在も世界中からア氏の本を読んだ人がパロマー、スター・ロック、

バレー・センター（これらはかつてア氏が

転々と変えた居所である）発行所のワ

ーナー社などへ手紙を出すので、それが

このビスターへ回送されてくるという。そ

して返事を出すときは機関誌を添えて

送るのだという。その費用だけでも相当

なものだらう。

ここで話題を変えた。

「個人的な質問をしていいですか？」

ア「どうぞ」

久「あなたは何歳ですか？」

ア「七十五歳。今年の七月で七十五にな

りました。一九〇〇年生まれです」

年齢を聞くのは不作法だということは

よく承知しているが、これは資料蒐集のためのインタビューだから、遠慮してい

ては研究者の資格はない、と理屈をつけ

て尋ねたのだが、アリスはハキハキと答

えてくれた。

久「あなたの主人は？」

ア「ずっと昔、離婚しました。相互の協

議のものとに……」

久「息子さんか娘さんがありますか？」

ア「子供はいません」

久「どこの学校を出ましたか？」

ア「ハリウッド高校を出てから、南カリ

フォルニア大学の研究科へ行きました

（短期間の専科のようなものらしい）

久「じゃ、卒業はしなかったのですか？」

ア「そう、大学卒業生ではありません」

くだらぬ質問に対してもアリスは少しも

いやな顔をせずに、むしろ協力するよう

な態度で、マイクを片手に持つたまま流

れるような調子で話し続ける。

### ブラザーズはしばしば立ち寄った

久「アダムスキーはカメラを持っていましたが、それはどこにありますか？」

ア「彼が持っていた十六ミリカメラはありません。彼は最初にヨーロッパ旅行に

出かけたときに十六ミリカメラを持って

行きましたが、持ち歩くのに重すぎたた

め、それを売つて八ミリカメラを買いました。それはここにあります」

久「あなたは他の惑星から来た人々とコ

ンタクトしたことがありますか？」

ア「アダムスキーが死んでからはコンタ

クトしていません。アダムスキーがここ

にいた当時、多くのブラザーズがここへ

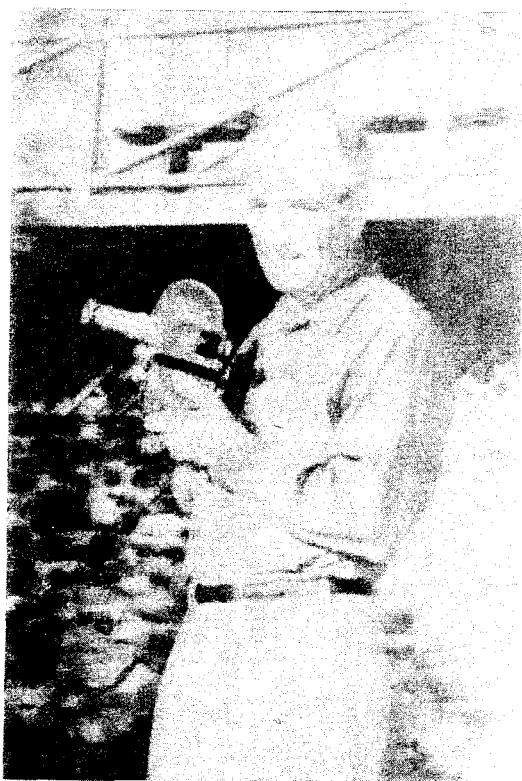
来たものでした。しかし彼らがここへ来

たときも私は会つていません。ロサン

ゼルズとサンディエゴで働いていた

（ブラザーズの）グループがあつたので

す。それでこの付近を通つたときには、ここへ立ち寄つてアダムスキーと話



●16ミリ撮影機を持つ故アダムスキー

それとなくアイデアを与えていることを私は知っています」

久「シャーロット・プロジェクトはどこにいますか？」

シャーロット・プロジェクトというものは同乗記を達意な流麗な文章にまとめあげた文才のある婦人である。

ア「彼女は亡くなりました。もう生きていますよ」と答えるんです。

久「この付近には今でもベース・ブラザーズがいると思いますか？ カリフォルニアに——」

ア「いると思います。どこにいるのか知りませんが、彼らは働き続けています。彼らはグループ別になつて働いています」

ア「数年前だと思います。私は死んだことを知らなかつたのだけど、彼女の友達（婦人）がやつて来て、あの人は死んだ

わ、と言つてます。私たちがカールズバッドにいた頃ですが、彼女（シャーロ

ット・プロジェクト）とルーシー・マクギニス（多年アダムスキーの助手をつと

めてきた）が、アリスはハキハキと答えてくれた。

久「あなたのご主人は？」

ア「ずっと昔、離婚しました。相互の協

めて、後に去つて行った婦人)が、ジョージを講演にリバーサイドへ連れて行ったことがあります。その頃彼女はラホヤに隠退していて、それ以来彼女とは連絡がとだえたので、話を聞くまで死んだことを知らなかつたんです」

久「こちらには別なアダムスキー支持グループがあるそうですね。中年の女性がリーダーになつてゐる——」

ア「さあ、多くのグループがありますので——」

久「以前、あなたと一緒にいたあの人ですよ」と、私は名前を出してみた。

ア「ああ、あれは完全に離れています。彼女は自分の道を行つてしまい、自分こそアダムスキーの正統後継者だと称していますが、あれはウソです」

この件に関してはあとでステイヴ、フレッド、アリス・ポマロイらからも詳細に聞いたが、アダムスキーはその女性を後継者にしてやると言つたことはなく、むしろクレイジーだ(気が狂つている)と言つてよけるようにしていたといふ。

久「十五、六年前にアダムスキーから離れて行つた別な婦人がいましたね。砂漠の六人の目撃者の一人で——」

ア「ルーシー・マクギニスのことですか?」

久「そうです。彼女は今どこにいますか?」

ルーシーはかつてア氏の助手として活躍していたが、サイレンス・グループのワナにひつかつて(ア氏は山師なのだと吹き込まれて)信じなくなり、去つて

行つた。この件は當時世界GAP間でかなりの問題となり、私も真相を知らうとして分離後のルーシーと何度も文通したことがある。しかしルーシーは私宛の信で、砂漠でたしかに金星人を見たことや、ア氏が偉大な人物であることを述べており、分離した理由としては何か複雑な事情があるようでもあり、真相は今もつて不明である。

ア「彼女はエスカンドイドに住んでいると思いますが、やはり連絡は絶えてしまふ。私たちがパロマー・ガーデンズやペロマー・テラセズの財産を売つて海岸地帯へ移動したとき、彼女は一緒に来ませんでした。自分の道を行つたんです。これはアダムスキーにとつて大きな失望のタネになりました。彼女は十四年間も秘書として活動したんだからね。でもせんでした。自分の道を行つたんです。アダムスキーによると、現在出ている(絶版にせんたとも伝えられているが)イギリスのワーナー・ローリー社がとりあげた経緯についてくわしく話してくれた。それによると、現在出ている(絶版になつたとも伝えられているが)イギリスのネビルスピマン社の「実見記」に出ているデスマンド・レスリーの「アダムスキーに関するコメントリー(本誌に連載中)」の書き方について、アリスは面白く思つていいらしい。

**円盤や母船が出現する**

久「なぜ別れたんです?」と私はいささかしつこくなる。

ア「そうね、いわば自分の道を選んだのです。サイレンス・グループの影響があつたと思います。彼らは(サイレンス・グループは)アダムスキーの命をねらつたり、真実を葬り去るうとしてさまざまの活動を行つてきました。こんなことをはつきりと言いたくはありませんが、その可能性はあります」

久「今ルーシーは何をしていますか?」

ア「彼女は薬品を売つてゐるようです。共通の友人がそのことを知つてゐるらしくて、なにか水泳プールに入れる浄化剤みたいなものを売つてゐるようですが、

これはマタ聞きですから——」

久「アダムスキーの名はこのあたりでよく知られていますか?」

ア「ええ」

久「この町のあらゆる人が彼のことを知っていますか?」

ア「あらゆる人というわけではないけどUFO問題に関心のある人はよく知つています」

続いて私はア氏の原書の発行状況について尋ねてみた。するとアリスは最初は

イギリスのワーナー・ローリー社がとりあげた経緯についてくわしく話してくれた。それによると、現在出ている(絶版にせんたとも伝えられているが)イギリスのネビルスピマン社の「実見記」に

で、外へ出て見たところでたいしてスリルを感じることはないのよ。でも円盤がやって来るときはフィーリングがわき起ります。それがわかるんです。シップが来たな、という意識的な知覚ですね」

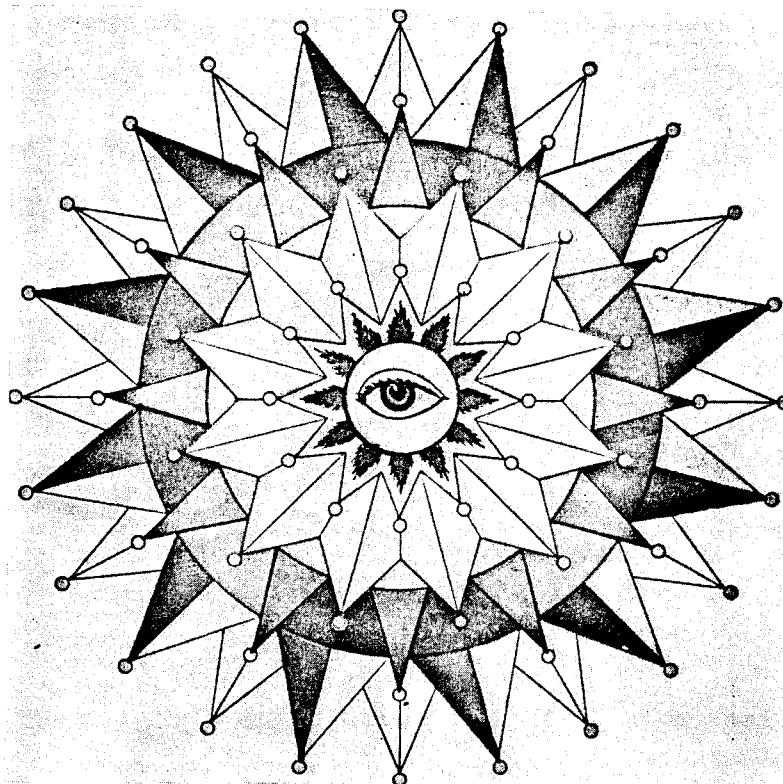
久「数年前にこの家で火事があつたそうですね」

ア「ええ、四年前です。屋内配線から火が出て、ソファに燃え移りました。新たに張り替えたばかりのダヴンボートのソファで、中に沢山のフォームラバーが詰めてありました。それがよく燃えてすごい煙が出たんです。マーサは早くから寝ており、私も十時頃に寝ました。十二時頃に眼が覚めると家中が煙です。すぐにありをつけたけど、煙で何も見えないの。裏から出て助けて呼ぼうと思ったら、電話をかけようと思つたけど、それができないの。炎のために電話のある位置まで行けないんですよ。すると裏の家の人たちが来て、消防署へ電話をかけてくれました。「女が一人、屋内で氣を失つているから大至急に来てくれと言つてちょうだい!」と言つたんです。マーサは自室で床の上に倒れしていました。みんなが入り込んで私たちを救い出してくれました。この家には保険がかけてあったのですが、保険金がもらえるまでに五ヶ月もかつたんですよ。保険会社のなんとスロウなこと!だからこの家を修理して帰つて来るまでに五ヵ月ちょっとかかつたんです」

まあ、ボヤでよかったです」

## 金星のシンボル・マーク

オーソンの左手の指の所に貼りつけてある奇妙なシンボル・マークの意味が知りたくなった。これは肖像写真にも写っているので、日本GAPの会員諸氏からよく質問される問題のマークである。そのことを話すとアリスは印刷したカラー



のシンボル・マークを一枚持ち出して来た。

久「このシンボルは何を意味するのですか？」

ア「これは二十四のポイント（とがつ）部分）を持つ星です。これが人間の二十四の面をあらわします。中心部から何層にも星が描いてあるのは、人間が次第に向上して発達してゆく可能性をあらわし

ているのです。中心部に描いてある眼は

“すべてを見る眼”で、魂でもあります。

「父性原理」です。中心寄りの暗い星は

まだ未発達な状態をあらわします。そして次第に知覚力と理解力とが発達するにつれて、外側の星が何層にも広がってゆきます。

私たちがラグナビーチにいたとき、『インスピレーションの祭典』を開いたことがあります。そのときのプログラムにこのシンボルを用いました。欲しければコピーを一枚差し上げましょ

う」

久「このシンボルは金星で用いられていました！」

ア「そうです。金星のシンボルでもあるのです。多少とも金星人の生き方をあらわしているようですね」

久「このシンボルを入手していたということは、ラグナビーチにいたのが一九五二年以前のことだから、その頃にこのシンボルを入手していたということはすでに金星人とコントクトしながらもそれを秘めていたか、それとも相手が金星人であるとは知らないでこのシンボルを与えられたかのいずれかということになる。私の調査では後者が有力である。

久「この人（オーソン）を砂漠で見たのですね？」

ア「双眼鏡ですね。でもこの人が地面に残した足跡を見るのもすてきでしたわ」

久「どんな種類の双眼鏡ですか？」

ア「普通のタイプの長い双眼鏡です」

久「今でもそれを持っていますか？」

ア「ええ、持っていますわ。アダムスキ

ーが海軍の人からもらった立派な品物です」

「オーソンはパロマーへ來た！」

ここでオーソンの金髪について聞いてみると

ア「アダムスキーは、あの人の（オーソン）の髪は実際にもう少し金色で、もう少し長かったと言つていました」と言

つてからアリスは重要なことを話し始めた。「私たちがパロマー・テラセズにいた当時、あの人（オーソン）がそこへ来たんです。ある日曜日の午後、アダムスキーが人々話していたときのことです。あの人は帽子をかぶつて長髪をその下に隠していたんだそうです。今でこそ

若い人们は長髪をしていますが、あの頃は長髪は流行しなかつたので、目立つもんだから帽子をかぶつていたのです。また、あるときルーシーと私が出かけていたんですが、テントの中にかなり重い家具が一個あって、それをアダムスキーは自分の部屋へ持ち込もうと考えていました。たしかタンスだったと思いま

す。それで、運搬用の機械を持っている人を雇わなくちゃだめよ、と言つていたんですが、二人がエスカンディドから帰つてみると、そのタンスがちゃんと部屋の中に置いてあるんです。そこで『どうして運んだの？』と尋ねると、アダムスキーは『オーソンが来て、これを持ち上げてくれたよ』と言つていました」とアリスは笑いながら話す。

久「あなたは双眼鏡をのぞきながら、現

場でスケッチしたのですか？」

ア「いいえ、砂漠から帰ったあとで著書に掲載するのに必要だというので描いたんです。砂漠では筆記用具などを持たなかつたので、あとでペンとインクを使つて描きました」

久「絵を描くことがうまいですね」

ア「さあ、どうだか――。あちらに私の彫りの作品が置いてあります。あれは記念に持つてある物です。ずっと以前に私が作ったものです。人がよく私の過去世のことを尋ねるので、そんなときは『ほら、ここにその証拠がありますよ』と言ふんです。全然、彫り方を教わったわけでもないのに――」

どうやらアリスは過去世すぐれた芸術家だったということを示唆しているらしい。生まれ変わりやカルマの問題はこのグループの人々からたっぷり聞かされたことであって、あらためてこの問題を深く考えさせられた。

久「アダムスキーは金星に生まれ変わったのですか？」

ア「さあ、彼がどの惑星から来たのか知りませんが、教えるために志願して来たのです。文明が偉大な教師を必要とするときはいつもその教師が出現します。ブッダ、モヘンタ、イエス、その他の偉大な人が来てますね。ジョージ・アダムスキーも全く何の飾りも宗教臭さもなしに簡単に教えを伝えてくれました。だから人々にアピールするのです」

久「彼は今、金星に住んでいるのですか？」

ア「たしかではありませんが、しばらく

金星にいました。それから土星へ行つてそこにいて、この太陽系以外の新しい惑星へ行つた可能性があります。しかし宇宙船で旅行できるのですから、どこへでも行けるでしょう。でも本当の意味でここで離れたではありません。人々がこ

の家へ来れば彼の大きな印象を受けますし、彼を知つていた人や教えに通じている人は、ここで彼の影響を感じます。私もそうなのです」

久「どうも私は彼が金星に住んでいて、私たちを見ているように思うんですけど――」

ア「そう、彼らは宇宙船で旅をするんだから私たちを見ているでしょう(笑う)。でも、どこの惑星にいようと問題ではあります。彼はブラザーズと一緒に宇宙船で旅をするのですからね。彼らはここへ飛んで来て、地上ヘビームを放射して行われている物事を見ているでしょう。そういうことのやれる装置を持つているのですから――。そして人間が心の中で考へることもわかるでしょう。……うしろへ行ってアダムスキーの部屋や、あちこちを見ませんか」

**ア氏の寝室を見る**

私は大喜びして同意した。アリスが立ち上がりて案内する。広間につながる食堂の横に、更に入口があつて、そこから奥へ通じる狭い通路がある。その通路の片側に切り込んだ棚が何段があり、そこにはア氏の蔵書が數十冊、花瓶、グラス、その他の遺品類がぎっしりと並べて

る。これがア氏の寝室だったのか！ 室内を見まわすと、ア氏の波動が充満して高貴な雰囲気に身心ともに浄化されるような気がする。

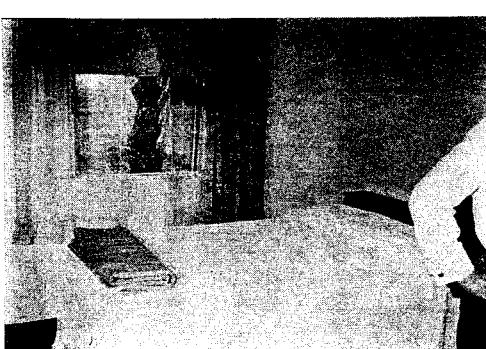
ア「彼はこの部屋が好きでした。(東部で死んで)ここへ帰つて来なかつたのはとても残念です。私は彼を家から出させまいとしたのです。というのは、彼は多年カリフォルニアに住んでいて、(死んだ年の)二月に帰つたときはかなり寒かつたんです。そして二、三度肺炎にかかりました。そこで『もう出かけなさん』などと暖かくなるまで待つてないの？」

と言つたんですが、ジョージは『いや、ブラザーズが今行けと言つて』と言ふんです。だからブラザーズはアダムスキーがもうあまり長く地球にいないことを知つたと思います。それで彼は行かねばならなかつたのでしょう。――彼はアーリントン墓地に葬られました

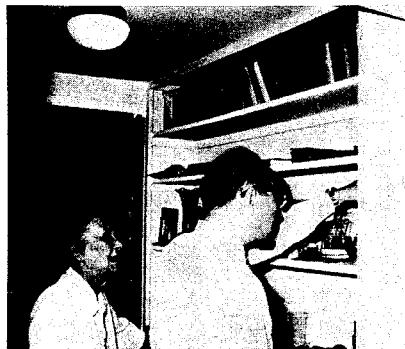
久「ああ、ワシントン市の――」

ア「そう、ワシントン市です。彼はメキシコの国境で紛争が起きた當時、陸軍にいたのですが、全然、銃を手にしたことなく、人を殺したことありません。でも軍にいたのですから、それでアーリントンに葬られる許可が与えられたのです」

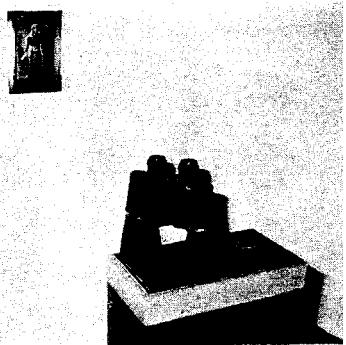
室内でアリスはアダムスキーが愛用していた双眼鏡を取り出して見せる。ずいぶん大きなメガネで、よく見る七〇倍×七〇ミリと彫つてある。さほど古びておらず、皮ケースもありと新しく見えます。ケースは後に買い替えたのかもしえ



●アダムスキーの寝台



●アダムスキーの遺品類を見る



●双眼鏡



●アダムスキの双眼鏡を見る

ない。どこの国製品とも記してはなく、ただ「オメガ」という文字が眼についた。この双眼鏡でオーバンを見たのかと聞こうとしたが、しつこく尋ねるのは

やめて、私は無言のまま、ずつしりと重



●8ミリ撮影機を見る

い双眼鏡をひねくりまわしていた。統いてアリスが戸棚からハミリカメラを取り出した。見るとコダックの製品でこれもありと新しくて、キズはほとんどついていない。ズームレンズが付属している。記念にこれが欲しいな、という想念がチラッと起きたが、すぐに打ち消した。

室内をゆっくりと見まわしてから、更

に奥の部屋のドアを開けて、自分が自

分とマーサの寝室だといふ。ベッドが二

つ並べてある。いかに老齢とはいえ、婦

人の寝所まで見せるとは、よほど私を信

用したことだろう。感謝してその部屋

もカメラにおさめてから、もとの広間に

帰った。

ふたたび椅子に腰をおろして、いろいろ話していると、私がかつてア氏を日本へ招待しようと計画して実現しなかった件が話題となつた。

ア「彼が日本へ行つてあなたに会えなかつたのはとても残念でした。バンソン氏が日本へ行つたのをおぼえているでしょうか？」  
アグニュー・バンソンのことだ。この人はある大会社の社長で、アダムスキ一を心から尊敬していたが、飛行機事故で亡くなつた。一九六一年に、バンソン夫婦が日本へ来たとき京都で会つたことがある。豪快な大男だった。  
ア「ジョージがあなたの住所を彼に知らせたと（バンソンが）言つていました。彼が日本へ行くと言つて、ジョージがクボタに会えと言つたんです。バンソン氏は「クボタに会つて嬉しかつた」と言つっていました。彼はすてきな人だつたでしょ？」  
久「そうです。すてきな人でした。彼は死んだのでしょうか？」  
ア「そうです。彼は自家用機で飛んでいたんです。息子さんを大学へ連れて行つた帰りのことで、低く飛びすぎて高圧線にひつかつたんです。機体がこわれて彼は死にました。彼はこちらへ来たことがあり、私も会いました。ピスタではあります。ペロマー・テラセズのことです。彼はノースキヤロライナ州、ウイントンセーレムの富豪の出身で、製造会社を経営していました。電子製品などです。あの頃かなりの実験をやつていたようで、アダムスキーは最大の人物だと言つていました。徹底的にアダムスキーに打ち込んでいました」

久「飛行機の墜落事故で死んだのですか？」

これについては別方面からの情報で、米國のある機関が機体に爆弾を仕掛けたということを私はかねてから聞いていた。

ア「そう、自家用機ですね。彼はかなり大きな飛行機を持っていました。たしか四人乗りだつたかしら……。自家用機としては大きい方だわ」

久「四人乗り？ 家族の人ばかり乗つていたんですか？」と私は感違ひして尋ねた。

ア「息子さんを大学に連れて行った帰りなのです。たぶん霧が深くて視界がきかず、それで電線にひつかつたのでしょうか。あまり低く飛びすぎたんですよ」

久「ああ、それは気の毒でした」と私は哀悼の意を表した。お嬢さんが当時名門スミス女子大へ行つて飛行機の操縦がうまかつたと京都でバンソン氏から聞いたので、あるいはそれが操縦していたのではないか、他にも家族が乗つていたのか等、いろいろ尋ねたかったが、なにせ他にもア氏のことで質問が山ほどある。それで話題を変えた。

久「アダムスキーは『同乗記』の中で、母船に乗つていたとき、ポケットからタバコを取り出しけたと書いています

が、彼はふだんタバコをすつていたのですか？」

ア「ええ」

久「ヘビー・スマーカーですか？」

ア「そうでもありません。何事も適度にやれば害はないと言つていました。でも

タバコをすわなかつたらもつと肺のためによかつたんじやないかしら。しかし彼も私たちみんなも当时はタバコをすつていました。しかし火事のときにマーサも私も煙をたっぷり吸い込んだので、それ以来タバコはやめています」と言つてアリスは朗らかに笑う。

久「彼は酒を飲みましたか？」

ア「ええ、ときどき飲んでいました。夕食の前とか社交の場ではカクテルのようなものをやつていました」

ここでマーサのことが話に出た。アリスによると、マーサ・ウルリッチは若い頃、幼稚園の先生をしていたが、現在は八十一歳で（スティーヴは八十五歳だと言っていた）。今でも車を運転したい元気だという。ドイツ系だが、彼女はイリノイ州ペオリアで生まれた。

ア「ジョージはよくドイツ語の手紙を受け取っていました。それで『マーサ、これが読めるか』と言つて渡すと、見事に読むので、『何と書いてあるんだ？』と聞くと、マーサは『わからない』と言うんです（笑う）。彼女は読むことを学んだのですが、意味はわからなかつたんだわ」と言つてまた笑う。かたわらのマーサも笑う。

続いて私は日本GAPの活動状況を話し、アダムスキーフィルosophyの習得の困難さを語ると、彼女は説明する。

ア「どんなに読み返しても、なおも読み続けなさい。多くの人が手紙をくれて、何度も読み返すと、最初に読んだときには付かなかつた点に気づく」と書いています。それで私も言うのです。『そ

タバコをすわなかつたらもつと肺のためによかつたんじやないかしら。しかし彼も私たちみんなも当时はタバコをすつていました。しかし火事のときにマーサも私も煙をたっぷり吸い込んだので、それ以来タバコはやめています」と言つてアリスは朗らかに笑う。

久「彼は酒を飲みましたか？」

ア「ええ、ときどき飲んでいました。夕食の前とか社交の場ではカクテルのようなものをやつていました」

ここでマーサのことが話に出た。アリスによると、マーサ・ウルリッチは若い頃、幼稚園の先生をしていたが、現在は八十一歳で（スティーヴは八十五歳だと言っていた）。今でも車を運転したい元気だという。ドイツ系だが、彼女はイリノイ州ペオリアで生まれた。

ア「ジョージはよくドイツ語の手紙を受け取っていました。それで『マーサ、これが読めるか』と言つて渡すと、見事に読むので、『何と書いてあるんだ？』と聞くと、マーサは『わからない』と言うんです（笑う）。彼女は読むことを学んだのですが、意味はわからなかつたんだわ」と言つてまた笑う。かたわらのマーサも笑う。

続いて私は日本GAPの活動状況を話し、アダムスキーフィルosophyの習得の困難さを語ると、彼女は説明する。

ア「どんなに読み返しても、なおも読み続けなさい。多くの人が手紙をくれて、何度も読み返すと、最初に読んだときには付かなかつた点に気づく」と書いています。それで私も言うのです。『そ

それを生涯続けなさい。そうすれば気付かなかつた重要な点に気がつくでしょう」と

そのあと金星文字を解読して円盤の推進原理を発見したといふバン・デン・バ

ークの話になつた。それによると、アダムスキーフィルosophyはバーグに対して、早まつて发表するなど強く忠告したにもかかわらず

バーグはそれを聞き入れず、新聞社へ知らせたため、UPまでが取り上げて報道

したので騒ぎが大きくなり、それがバーグの最後で、何者かに誘拐されて、以来

どこへ行つたのかわからぬといふ。

アリスは食堂の一隅のテーブルに飾つてある各種の置き物を見せようと言つて案内した。木彫りの見事な仏像めいた作品を見せて、これが過去世で芸術家であつた証拠だという。

ア「私たちがメキシコ市へ行つたとき、この中国製の木彫り像を見て『私があれを作つたのよ！』と叫んだら、ジョージが『静かにしなさい。公衆の面前でそんなに騒ぐものじゃないよ。もちろん、あなたがあれを作つたんだ』と言つてよ」

一に与えられたんです。その玉を見つめて、中に何か見えますか？」

私には何も見えない。

ア「アダムスキーフィルosophyはそれを見つめると、中に何かが見えたんですが、それはただ『焦点』にすぎなかつたのよ。彼は実際にこんな道具が必要としなかつたんですね。彼は何の道具も使用しないで、あらゆる物事を見透すことができたのです。

——これは昔の中国の刺繡です。中国の品物を見ると私は強い印象が浮かびます。私は過去世で何度も中国人だつたと思つわ。それがジョージ・アダムスキーフィルosophyと知り合つた理由の一つだと思います。

ア「アダムスキーフィルosophyは古代中国時代に彼を知つて、私は古代中国の時代に彼を知つていたのですから——」

アダムスキーフィルosophyが過去世において古代中國の偉大な思想家で指導者だったという

ことは、あとでフレッドもイングリッドもアリス・ボマロイも述べている。だれであつたかは判然としないが、とにかく古代中国にいたことはアリスがこの人々に語つた事実らしい。そしてその後別な惑星へ帰り、イエスの時代にまた地球へやつて来て聖書中のある人物と重要な関係を持つようになつた、ということであるようだ。

続いてアリスは食堂の壁にかけてある賞状みたいなものを指さして説明した。

ア「これはジョンソン大統領から与えられた表彰状です」



●水晶玉を見る

アダムスキーフィルosophyの宇宙問題に対する業績を認めてジョンソンが特別に表彰したのかと思つて文面をよく見ると、そうではなくて、昔アダムスキーフィルosophyが退役兵であつたために贈られたものらしい。そばでアリスがやはり同じような解釈をして話した。つまりアーリントン墓地に埋葬された退役兵であつたので國家が下付した証明書みたいなものだろうと言つた。

その他各国の個人やグループからアリスに贈られた記念品を置物類を次々と説明する。マーサもそばへ来て、明日は写真のアルバムを見せようと言う。アリスの話によると、ぼう大な写真類が保存してあるらしい。これは面白いことになるぞ、

と私は期待に胸がはずんできた。

ア「実際、アダムスキーフィルosophy博物館が必要ですよ。ときどきアダムスキーフィルosophy博物館はどこにあるのかと尋ねてくる人がありますが、そのたびに、必要なのがまだない」と答えているんですね」

久「それは面白いですね」



●庭を案内するマーサ（裏側）

ア「たぶんマーサと私が死んだあとで出  
来るかもしないわ」  
マ「アダムスキーが旅行に出かけると、  
人々がいろいろすてきな品物をくれたも  
のです。ここにはずいぶん保存してあり  
ますよ」

とすると、食堂に並べてある品物はほ  
んの一部分で、大半はどこかへしまい込  
んであるのだろう。ア氏が特に愛用した  
のはオーストラリアのある協力者が贈っ  
たコアラグマのモデルだそうで、これは  
事務室の棚の上に置いてある。

ふたたび広間へひき返してイスに腰を  
おろす。質問は山のようにあるが、いざ  
となると口から出てこない。

そこで英語の文語体と口語体の相違に  
ついて聞いてみた。アリスはなかなかの  
文筆家だから、こうした問題について、  
かなり専門的な具体的な説明をしてくれ

るのではないかと思ったのである。

しかし期待ははずれた。英語は一語で  
多くの異なる意味を持つことが多く、む  
つかしい言語で——とかなんとか、あり  
ふれたことしか言わない。そしてアリス  
・ボマロイのことに話題を変えてしまっ  
た。アリス・ボマロイは体が弱ったため  
にGAP活動から手を引いたというよう  
な意味のこと話をすが、私は別にアリス  
・ボマロイと文通を続けており、たしか  
に積極的な活動はやらなくなつたが、関  
心を失つたわけではないことを知つてい  
るので、ただ黙っていた。

マーサが裏庭へ出てみないかと、しき  
りに誘うので、台所を通り抜けて裏へ出  
てみた。彼女は両足が不自由で、赤ん坊  
のようなヨチヨチ歩きだが、本人は案外



●家の左側面にて

●玄関前にて。左より塙、マーサ、アリス、久保田



平気らしい。家の周囲はかなり広い庭園になつていて、実におびただしい種類の樹木や草花が植えられており、それを一つ一つマーサが克明に説明する。かつてこれらの植物をアダムスキーが非常に愛していたとのことで、この手入れはマーサの日課になっているらしい。裏庭の端の一丘が多くて、白壁の家が散在している丘が多くの所で、ビスターの町を見渡す。低い

が、時間もかなり経過して夕闇がせまってきた。室内にはいつのまにかあちこちに電灯がともされている。日本の家屋のように天井の中央に螢光灯があつて室内全体を照らすのではなく、電気スタンドが数ヶ所に配置してあり、それで照明するから、こうこうたる輝きではない。



●食堂での談話

マーサが食事の準備をととのえたので、食堂へ案内される。アリスが正面の位置につき、私がその向かい側、マーサは私の右手、ハーリーが左手にすわる。食事は簡素なものだが、チキンがひどくおいしい。

商売地区はずっと遠くだとマーサが指さしながら説明する。二人で裏庭を一巡して左横の芝生まで来て、ここでしばらく話し合つたあと、玄関前へ出た。太陽はすでに傾いている。ここでアリスに出てもらって、四人で記念撮影をする。実際に楽しい一刻だ。

さてふたたび屋内へ入って話を続けたが、時間もかなり経過して夕闇がせまってきた。室内にはいつのまにかあちこちに電灯がともされている。日本の家屋のように天井の中央に螢光灯があつて室内全体を照らすのではなく、電気スタンドが数ヶ所に配置してあり、それで照明するから、こうこうたる輝きではない。

マーサが食事の準備をととのえたので、食堂へ案内される。アリスが正面の位置につき、私がその向かい側、マーサは私の右手、ハーリーが左手にすわる。食事は簡素なものだが、チキンがひどくおいしい。

久「なぜオーソンはあんな長い髪をしていたのですか？」

ア「さあ、私には理由がわかりません。肩よりも下まで垂らしていました。そして地球人のなかに混じるときは帽子の下へ隠していました」

### パロマー・ガーデンズ

話題がパロマー・ガーデンズのレストランのことへ移った。マーサの話によると、その建物はかなり長く残っていたが無法者たちが空屋を荒らし、窓ガラスをこわしたりドアをはずしたりして破壊されたので、今は跡かたもないという。

久「大きなレストランだったのですか？」

ア「かなりな営業をやっていたわ。このレストランは旅行専門誌のホリデー誌に高く評価した記事で紹介されました。ダンキン・ヘインズ氏が紹介記事を書いたのよ。そんな店はほかになかったものね」

久「なぜその店をやめたのですか？」

久「するとアリスは長い話を始めた。

ア「カリフォルニア工科大学の天文学部のジョセフ・ジョンソン博士が、パロマー天文台の二百インチ望遠鏡と十八インチで観測するためにパロマーへ登つて来ることになつたんです。このジョンソン博士のお母さんがある

アダムスキーが六インチを持つていたことを知っていたわけです。その頃すでに私はバレーセンターの農場へ移動していました。それで博士が立ち寄ったのです。そして言いました。『ジョージ、君がパロマー山へ登る道路の途中に住み家を持てたらいいんだがなあ。ぜひ来いよ！ 一般人は大望遠鏡を見学に来たがっているが、山へやつて来るも休む場所がない。だから山上に住む場所を見つけるよ』

でも、いくら広い土地があるからといって、そこへ移動するのは困難でした。その（ガーデンズの）土地はインディアンとある大きな家畜会社が所有していました。彼らはその土地で他人が事業をやるのを好まなかつたんです。しかしついに何とか交渉して、そのなかの二十三エーカーほどの土地を手に入れました。この土地は当時サンディエゴに住んでいたインディアンの婦人のものだったのです。彼女は白人と結婚していました。そして結局二十一エーカーだけを買って離れるときも同じ値段で売つたんですよ。私はロサンゼルスの近くのグレンデールといふ所の山頂にウェルズ農場を経営していたんです。これは祖父のもので旅人用の農場でした。祖父は建設技師でシカゴにも大きな会社を持っていました。ところが例の大不況がおそったときに、あちこちに沢山投資していたものですから、ひどい打撃を受けたんです。それで私がウェルズ農場を旅人用に經營しました。ですから料理などはずいぶんやつたものです。それでアダムスキー

が私に言ったんです。

『あんたがこの事業（レストランの経営）をやるといいよ。私は全然関係を持ちたくない。私は人々に（哲学などを）話すことにしよう。経営はあんたの方がいい』それで私は思いました。『これは大変なことになつたわ！』料理の仕事からのがれていたと思っていたからです。でもそうなることになつてたのならと考えて承諾しました。そんなわけでレストランは私の名になつたんです。

しかしその後アダムスキーは土地の中を売つて、私の記憶では奥の方の三心部を売つて、私が記憶では奥の方の三五エーカーだけを残したと思います。そこがレストランを売つたあとで移動しましたが、それがペロマー・テラセズです。そこへシャーロット（フロップ）、ロジャー、デスマンド（レスリー）たちがやつて来たんです」

久「テラセズという意味は？」

ア「段々になつた台地ですよ。あそこはね、かなりけわしい丘だからブルドーザーを入れて台地を作る必要があつたんです。上段と中段と下段です。だから私たちはあそこをテラセズと呼んだのよ」

久「そこに澤山の家があつたのですか？」

ア「ノウ、アダムスキーに会いに来る人だけです。デスマンド（レスリー）が来たときはあわてたわ。ジョージは旅行に出でましたし――、そこへ移動したとき、彼は東部と中西部へ行つたと思います。それで請負業者を雇う必要があつたのです。デスマンドは六月に来るといふの

で、それを迎え入れて滞在させる場所を作らねばなりませんでした。そういうこ

とだったので、その頃はバレーセンタの住所になつていました。

久「パロマーと発音するのですか（と私は）は“ペ”にアクセントをつけて言う）、それともパロマーですか（と今度は“ロ”

にアクセントをつけて聞く）」

ア「パロマーです（とアリスは“ペ”にアクセントをつける）。食べ物を食べませんか？（と私の食事をすすめる）彼は他の事を考へているようですね（とハ

さんの方を指さす）。私たちが山を売つて海岸のカウステッドへ移動したとき、メキシコへ行こうと考えていました。メ

キシコが好きでしたし、生活費も米国より安かつたからです。ところがキュー

ベで紛争が起つたために、ジョージは、これは南米全体に影響を与えるだらうと考へて、結局アメリカにいる方がよいだろ

うというわけで、それでこのビスタに落ち着いたんです。ここへ来たのは一九六二年のクリスマス前で、二、三日かかる

を沢山放映しているんでしよう？」

久「私たちアダムスキー関係の事しか興味はないんですよ」

ア「日本でもアメリカで作られたショウ

三、四日はかかるだらうとマーサが言う。ア「そうでしょうね」

そこはとてもじゃないが全部見るのに

これは「コアラグマ」のように他にない物がありますよ。ディズニーランドへ

ア「そこにはコアラグマのようだらうとマーサが言う。ア「そうではないんですよ」

機を持っていて、彼の息子と一緒に日曜日

の午後にはここへ持つて来て上映します。テレビ局から要求があると、彼はそれを持って行くのです。彼は非常に積極的で、私たちは彼の援助を心から感謝しています」

このことをハースさんに説明すると、フレッドは何歳なのか聞いてくれと言ふ。

ア「三十九歳ですか。スティーヴ・ホワイトィングは何歳ですか」

ア「三十九歳だと思います」

ア「ああ、ずいぶん若いですね」

ア「そう、まだ若いんです。スティーヴはメキシコにいたときひどい病気をしました。でもそれを克服して今はすっかり健康です。フレッド夫妻にはメキシコで生まれたとても可愛いエリシアという小さな女の子がいます。奥さんのイングリッドは愉快な女性ですね。今彼女はひどい風邪をひいていて、あなたと一緒にパロマー山へ行きましたが、電話をかけたときには、とてもだめだろうと言つっていました。ですから、あなたは彼女に会えるチャンスはないでしよう」

だが、この翌日はフレッドの家でイングリッドの元気な姿を見ることになったのである。奇蹟的に快復したとしか思えない。コーヒーをもつと飲むが、それともアイスクリームがよいか、クッキーがよいかとアリスが尋ねるので、アイスクリームがよいと答えると、持つて来るよ

うだとマーサに命じる。どうやらアリスが主でマーサは従の関係にあるらしい。

## 日本人を讃える

マーサが出してくれたアイスクリームをおいしくいただいて、『サフ』という物があるか、それは食物なのか、とマーサが私に尋ねる。何か日本の食品のことを言っているようだ。

久「サフ？」

マーサ「そう。よく知らないけど、食料品店の棚に沢山あるわ。みんな知ってるらしいよ」と、マーサがガラガラ声で怒鳴る。私には何のことやらわからない。

ア「カリボルニアには沢山の日本人が

いて、ガードナーや農業をやっていますわ。みな立派に成功して——」

久「農業や、ガードナーになつて？」

ア「そう、農業を作つたりしてね。みな立派に成功してるわ。マーサはね、むかし幼稚園の先生をしていた頃日本人の子供を受け持つたことがあるのよ。もちろんグレンデールには日本人の家族などがいて、花を売る店を経営していたわ。そしてマーサの幼稚園の自室に飾る花をよくくれたものです。マーサの話によれば、日本人は最もチャーミングな人種だというのよ。彼女は日本人を心から愛していました。日本人の子供たちはたいそう行儀がよくて、他人を尊敬しあらゆる物の鑑賞眼を持っていたといふのですよ」

これはかなり昔の戦前の話であって、今日本のダラシない子供たちのことを

言っているのではない、と思しながら私は複雑な気持で聞いていた。マーサが話し始める。

マ「朝、ときどき私が起きて、幼稚園で

飾る花が欲しくなると、幼稚園から数ブロック手前で降りるんですよ。すると、

あるとき小さな日本人の少女に、一緒に車に乗つて行くかない？ と尋ねたら、その子が一緒に乗つて行くと言つたけど、

ちよつと待つてと言うの。そして自分の店に引き返してスイートピーを持つて来てくれるんですよ。それで『そんなに気をきかせることをだれから教わったの？

あなたのお母さんはたいそう忙しくて五人も子供がいるのに——』と言つたんで

す。その母親は店の奥でミシンとアイロン台を持っていて、縫いものをやつてお

り、少しも余暇がなかつたのよ。よくそ

こへ行つて話したものですが、あるとき『氣をきかせることをだれが教えたの？』と尋ねると、だれもそんなことを

教えた人はいないと言ふんです。これは日本人の天性だと思いますよ。私はその

家族と非常に親しい間柄だったけど、両親が礼儀正しい人だから子供も礼儀正し

くならずにはいられなかつた例だと思いま

す。クリスマスの頃になると、自分の受持ちクラスに日本人の子供をかかえて

いる先生は、鉢に植えた植物をもらつて飾つていました。毎年、どの先生もそ

うなんですか？」

これは日本人特有の（特有ではないかもしないが）いわゆる『袖の下』のこ

とを言つてゐるのか、それとも本当の親切心を意味しているのだろうか。どうも

よくわからないが、少なくとも戦前は軍国主義時代だったとはいえ、もっと日本人は礼節をわきまえていたような気がする。

## フレッドが活躍する

久「いいで、ときどき集会を開きますか？」と私は話題を変えた。

ア「フレッドがアダムスキーのフィルムを映写して見せるようになつてから、や

つています。もちろんジョージがいた頃は集会をやつていました。しかし私個人はその音頭をとつてはいません。入口ま

で来る人には私から話をします。ジョージがパロマーにいたことを知つてゐる人たちはとても親切で、ここでの住所

を人々に教えてあげるんです。それでこちがパロマー山へ行つたりすることもあります。パロマー山で郵便局をやつて

いる人たちほども親切で、この住所を人々に教えてあげるんです。それでこ

こへやつて来ます。ときには電話で約束をする人もあるし、ときには入口まで来

る人もあります。そんなふうにして来る人には私が話をします。フレッドが土曜日の夜ここで集会を開きます。

あなたがパロマー山から帰つて來たらい

ます。ディナーを開きますから、そのときフレッドが機械一式を持って来て、ジョージのフィルムを見せるでしょう。別なグル

ープがジョージのフィルムを火事のあとで持つて行きました。それを取り返すのは困難でしたが、その後そのフィルムや

テープを取り返しました。そしてフレッドがそれを持つていて、編集し、うまくやっています。たいそう興味深いフィル

ムです。（UFOの）スライドも映画もないそう立派なものです。フレッドの若い息子（グラン）が機械を操作します。数週間前にここでとてもすてきな会合を開きました。彼の友人たちがやつて來たのですが、私は初めて会う人ばかりでした。みんなはとても興味を持ったようでした。私自身は公的な仕事をやつていません。でもジョージが講演を行つたりテレビに出演したりするときは私もついて行きました。サンフランシスコにもついて行きましたが、私は講演したことはありません。私が講演をしようと思えばできません。私が講演をしようと思えばできたでしょうかが、やつたことはあります。ここで集会を開くときに人々がもし質問をすると、フレッドが『ウェルズ夫人が私よりもよく知つていていると思います』と言うので、そのときは私が公式に答えますが、公式な講演で演壇に上がつたことはありません。私はそんな力はないんですよ』

久「アダムスキーがここにいた頃、スペース・プラザーズが来たことがありますか？」

ア「ええ、先にも話しましたように、夜間しばしばここへ立ち寄つたものです。

ロサンゼルスとサンディエゴにグループがいて、ここを通過するときには立ち寄りました。ほとんど真夜中です。プラザーズはそれほど睡眠を必要としないらしいので、夜間にドライブするのであります。ときどき彼らは台所にすわつたりして、他人の迷惑にならぬよう、そこだけライトをつけていました。コーヒーが

欲しいというと、ジョージがインスタン

トコーヒーを作つたりしました。そして今日の午後にも話しましたように、ブランザーズは私をぐっすり眠らせるので、物音も聞かなかつたし、眼が覚めることもないんです。そして翌朝起きてから、ブランザーズが来たことがわかるのです。彼らが与えるフィーリングなのでしょう」

ア「あの人たちは波動を放つたんでしょうね」

ア「そうね、波動でしょうね。それで私が言うんです。『昨夜、友人がここへ来ましたんでしょ?』するとジョージが『どうして知ってるんだ? 見たのか? 話し声を聞いたのか?』と聞くんですから

『いいえ。でも今朝起きたらそのことがわかるんですよ』と答えるんです。ときどき朝起きたときに、ブランザーズがシップに乗つてやつて来て私たちに上空から祝福の想念を送つてくれたような気がすることがあります。私が書物を書いていたとき、タイプライターを出して、さて何を書こうかと考えることはあります。書き始めてから終わつたとき、私は上を見上げて考えます。『ああ、本当に面白かった。書いた内容はすっかり忘れました』

ア「ああ、本当に面白かった。書いた記事を書いていた事なのに……』と。でもこういうことがあります。ですから何か私に働きかけた波動のようなものがあつたと思います。これは機関誌の記事を書いているときも同じです。私は多くのインスピレーションな原稿を書きましたが、あとで、うん、立派に書けた、でも本当に自分で書いたのかな、と思うんです。

何かが私に書かせたのでしうね」

バーさんがそばからNASAが宇宙人

の件に関して近く発表するらしいが、そのことを聞けと言う。それで質問してみた。

ア「そうね、NASAは発表しないと思うわ。宇宙飛行士たちは自分で目撃した事柄を公表するなど警告されていますからね」と言って、あとで新聞の切り抜きを見せようと言う。そして、あまりここで長くすわっていると体が固くなるのであちらの部屋へ行こうと誘いかける。そこで一同は広間へ移動した。

### アダムスキーはオーラが見えた!

腰を落ち着けてから、今度はアダムスキーの超能力の話になつた。テレビシークや遠隔遠視力をア氏が持っていたことはわかつていて、それがどの程度のものか知りたかったのである。するとアリスが興味深い話を始めた。

ア「あれは生まれつきの能力ですよ。だってアダムスキーは人の心を読みとることができます。私がむかし彼のグループへ初めて入つた頃、私が車を運転していく彼がそばにすわりながら、私がじっと見つめているんです。それで、『何をそんなに見つめているのですか?』と尋ねると、彼が言っています。『あんたのオーラを見る事ができますよ』と過去世のことを見ているんだ。あんたが過去世を見ているんだ」

彼が集会を開いていた頃、人々がやって來たのですが、ときどき彼はどんな

話から始めましょうかと聞くんです。そしてときに何かの話題で始めると、だれかが質問をします。そうすると彼は『ちよつと待つて下さい。この話が終わるまでは私の想念の邪魔をしないで下さい』

ア「ええ、個人の想念に応じて多くの色があるのですか?」久「オーラは人間の想念に応じて多くの色があるのですか?」

ア「ええ、それはちょっと言うのがむづかしいわ。明るい紫色または青色でしょうか。そういう色は高い波動を持っています」

私はここで超能力者でオーラの見える

ス。言い替えれば、それは他人から来る

フィーリングをキャッチするようなもの

です。そうね、彼は接触したあらゆる人

とフィーリングによつて生きていたので

す。それで彼は自分が会つたあらゆる人

から何かを学んだと言つていました。そ

れほどに謙虚だったのでした。

久「じゃ彼はオーラを見ることができたんですね?」

久「私はオーラの見える人から、私のオーラは紫色だと聞いたことがあります」

ア「それはいいわ。それはあなたが発達

している証拠ですよ。紫色はすぐれた色

です。多くの人は紫色は精神的な色だと考

えていていますが、私は『精神的』とか、

『肉体的』といふような区別はないと思

います。みんな一つなんです。みんな創

造主の表現ですよ。あらゆる物を同じ明

るさで見るようになると、精神的とか肉

体的とかいう区別もなくなります。それ

が生きた常識です。私たちはこの地上に

生きているのですから、みんな生きて自

分のレッスンを学ばねばならないのです

。イエスが『私はこの世にいるが、こ

がるんです。だから人体から放射され

るフィーリングも同じだと思うんです

。私たちにはこの地球を取り巻いている低次の波動を取り除く必要はありません

ラを人体の周囲に作り出すのですね」

ア「ええ、個人の想念に応じて多くの色があるのですか?」久「オーラは人間の想念に応じて多くの色があるのですか?」

ア「ええ、それはちょっと言うのがむづかしいわ。明るい紫色または青色でしょうか。そういう色は高い波動を持っています」

私はここで超能力者でオーラの見える

ス。言い替えれば、それは他人から来る

フィーリングをキャッチするようなもの

です。そうね、彼は接触したあらゆる人

とフィーリングによつて生きていたので

す。それで彼は自分が会つたあらゆる人

から何かを学んだと言つていました。そ

れほどに謙虚だったのでした。

久「じゃ彼はオーラを見ることができたんですね?」

久「私はオーラの見える人から、私のオーラは紫色だと聞いたことがあります」

ア「それはいいわ。それはあなたが発達

している証拠ですよ。紫色はすぐれた色

です。多くの人は紫色は精神的な色だと考

えていていますが、私は『精神的』とか、

『肉体的』といふような区別はないと思

います。みんな一つなんです。みんな創

造主の表現ですよ。あらゆる物を同じ明

るさで見るようになると、精神的とか肉

体的とかいう区別もなくなります。それ

が生きた常識です。私たちはこの地上に

生きているのですから、みんな生きて自

分のレッスンを学ばねばならないのです

。イエスが『私はこの世にいるが、こ

がるんです。だから人体から放射され

るフィーリングも同じだと思うんです

。私たちにはこの地球を取り巻いている低次の波動を取り除く必要はありません

ん。別な惑星から来たブラザーズのなかにも、それに耐えることのできない人もあります。彼らはある使命を帯びて来るのですが、周囲の低劣な波動が厚すぎてそれに耐えられないことがあります。

「あの人たちは超感覚的ですからね」

そばで黙々としているハーサンを、ア

リスは『たいそうセンシティヴだ』といつて、ほめそやす。そして言葉はわからなくて、でもフィーリングこそ万人共通語だという意味のことを話す。

ア「それは個人の意識的知覚から他人へ放射される波動ですよ。ジョージがまだここにいた当時、ある日曜日に一人の男が來たことがあります。文字を書いた紙片を取り出して、自分はツンボでオシンボなのに理解しているんです。そして別れるときに『有難う』と言ったんです。

それで男はそれがわかるんですね。ツンボなのに理解しているんです。そして別れるときに『有難う』と言ったんです。そこで男は自分が話せることに気付いたわけです。意識はツンボやオシンなどを超越していますからね。視覚、聴覚、味覚、嗅覚などは肉体の四つの感覚器官ですが、フィーリングは知覚・意識で、これも独立して働いています。だから盲目の人がピアノを弾いたり、すばらしい事をやったりするんです。その場合は指が実際に見ているわけで、触覚は基本的な感覺です。人間は指の感覺をいかに発達させることができるかはご存知でしょう」とアリスはなおも生命の科学の講義を続けたが、これは読者も熟知しておられる

から、省略しよう。

久「あなたたちはジョージの助手として何年間仕えたのですか」

ア「おお、私は彼のグループに入つてからすぐには彼と非常に親しくなりました。

私はどこへ行こうと自由な身でしたから

ア「おお、私は彼の助手として何年間仕えたのですか」

したので、あとはよくわからない)それから私たちちはそこを離れて、パロマーへ移動しましたが、彼女(アダムスキーフ夫人)も一緒に来て、山上でレストランを聞いたからは、よく働きました。彼女の仕事を聞いてからは、よく働きました。彼女の仕事はありました。それで私が彼の仕事を援助したのです。私にできることは何でもやりました。グループがラグナビーチに女はしばらくグループを離れていた期間いました。その頃ロサンゼルスの近くのいた頃、マーサが幼稚園の仕事が終わってから私と二人で週末に出かけて行き、金曜日の夜にジョージが講義をしてくれました。その頃ロサンゼルスの近くのパサデナで彼はレッスンを受け持っていましたから、土曜日の朝、私たちが彼をましに連れて帰るんです。弟子のなましました。彼の頃までにはでは庭仕事の重労働でメリーを助けていました。バレーセンターの農場にいたときも同様でした。しかしパロマー山へはエードンへ連れて帰るんです。弟子のなまなかつたんです。彼はその頃までにはスエードンへ帰っていたと思います。どちらはエードンに森林地を所有していく、それをまともな状態にするのにトランプがあつたからです。私はその頃三十四歳でした。アダムスキーハーのために献身的に働いたのです。『あなたたちはアダムスキーハーの何だったのか? 秘書だったのか?』と聞く人がありますが、そのときは『そうですね、私は家政婦、庭師、お抱え運転手、洗濯婦、料理人、タイピストでした』と答えるんです。もちろん

少しうまくやきました。経験があつたし、それって、私はそこにいたとき多少とも家事をやりました。買物をしたり、あらゆる切りまわしをやつたのですが、うなづいて、私はそこにいたとき多少とも家事をやりました。するとある母親と娘がやって来て、グルーピーに大変な関心を持った上、その家を買つたんです。で結局うまくいきました。アダムスキーハーはよく旅行に出かけましたから、そんなときは私が代筆して返事を出すんです。エリシアが山にいた頃は代筆の仕事もよくやつてくれました。彼女が去つて行ってからは私があらゆる仕事をやり、手紙の代筆も一切引き受けました。私の記憶では、あなたから(久保田から)手紙が来たらそれを取つておいてアダムスキーハーが帰つて来ると、それを見

せるんです。そして彼が回答を必要とする所へ向かうと、返事を出していました。マーサも郵便物の処理ではよく働きました。ロドファー夫人が来たときは大変でしたわ。まるで秘書学校か会社みたいで、マデリン・ロドファーはテーブルの上にアップライト・タイプライターを置いていました。今でもかなりの仕事がありますが、年齢というものは態度の問題で精神的に非常によく働いている人もいます。でもアダムスキーハーが私たちに与えてくれた教えを守つて理解していることは、たいそう幸せなことだと思います。そう思いませんか?』

## 大変動について語る

少し沈黙が続いたあと、ハーサンが、『同乗記』に出てくるオーランの言う世界の大変動について質問してみてくれと言ふ。

久「オーランは(地軸の傾きによって)世界に大変動が起ると言っていますが、それが本当だとすると、どんな事になるのでしょうか?」

ア「そうですね、多くの心靈主義の人は起りこもしない、心配してもどうにもならない事をいろいろと予言していますが、果たしてそんな事が起るかどうかはだれにもわかりません。現在、この地球上にある放射線が放射されています。そ

れを感じできる人にとっては、そしてその放射線と一緒に化してしまじめに考へる人には、どんな大変動も起こらないでしょう。

他の文明が破壊されたようにこの文明も破壊されるかわりに、創造的な方向へ向かう能力や機会はあちこちにあります。私たちが自分自身を理解して生命が永遠であることを知れば、そんな事が起ころうはありません。たとい起つたとしても私たちは意識的な知覚力を應用して、天国へ行き、肉体を他の場所へ持つて行き、新しい体験を持ちます。そうすれば大変動の事などを考へるよりも幸せになるでしょう。

充実した幸福感のもとに毎日を生きなさい。——あなたが宇宙の原理に従つた生き方をすれば、幸せになります。そうしなければ、代価を支払うようになります。しあわせ。生活に対する態度が異なつていれば、その報いはすぐになります。毎日が学ぶための新しい機会です。同じ瞬間は二度とないからです。いつも大きな変化があるんです。私たちが発達の方向にあれば発達します。あらゆる物事、あらゆる体験にはいつも新しい意識的な知覚が生じて、それがレッスンを教えてくれます。大変動の事を考へるよりもその方がすぐれた態度だとは思いませんか？もし恐ろしい物事が起こることを期待していれば、たしかに災害があらゆる生活の楽しみを破壊するでしょう。福利関係に関する限り、だれしもすでに災害にあつたと言つてよいでしょう。少なくとも以上が私の感じていることです」

ここでハーサンが、アダムスキーとオーランとの関係について質問を出したので、私が通訳して尋ねてみた。アリスはある驚くべき話をしたが、公言していないことだというので、ここでは省略しよう。アリスの話を根こそぎここで洩らすことは遠慮する方がよいと思う。

このあとアリスはアダムスキーがローマ法王ヨハネ二十三世から授与された問題の黄金のメダルと、當時身に着けていたという謎のクリスタルベンダントを出して見せた上、これらについて実際に興味深い話をし始めた。これは次のとおりである。

(第1部未完、以下次号)



●アダムスキーが使用していたデスク。現在はアリスが使っている。  
●食事を終えて記念撮影。左より久保田、アリス、マーサ、堀。



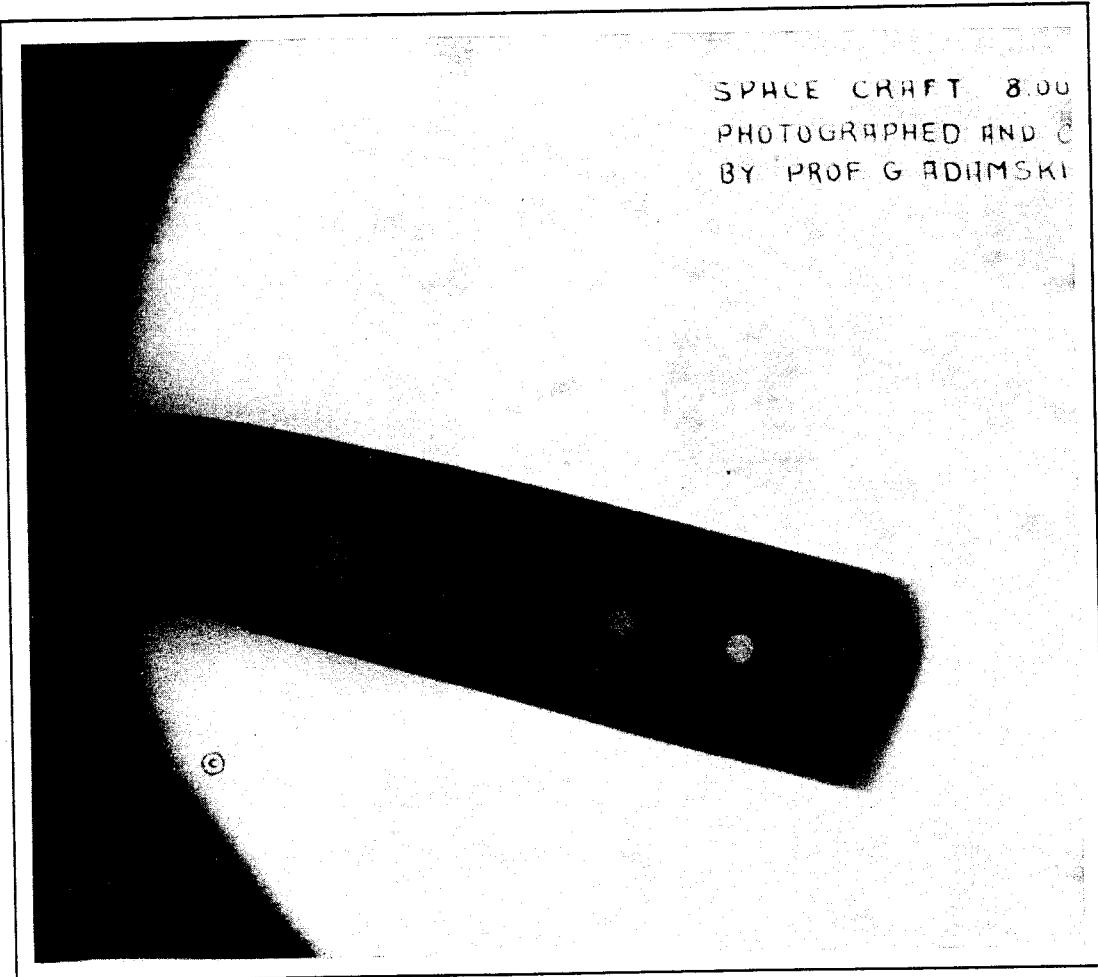
改訳決定版 INSIDE THE SPACE SHIPS

# 空飛ぶ円盤同乗記

金星の光景を見る！

(10)

ジョージ・アダムスキ  
久保田八郎訳



●1952年5月1日、ジョージ・アダムスキがパロマー・ガーデンスで撮影した母船。数個の丸窓が見える。左側のわん曲した黒い影は6インチ反射望遠鏡の筒。

●第13章 パロマーハーバーの日々

続く数カ月間、私は更に数度のコンタクトを体験した。母船内部と、地球人のあいだで正体をかくして働いている他の諸惑星から来た人々との両方である。パロマー・ガーデンズは売却されたので、私たちは同じ山の数百フィート高い場所へ移動した。Flying Saucers Have Landed (邦訳版は「群飛ぶ円盤実見記」)が一九五三年九月に英國で刊行され、続いて十月にアメリカ版が出た。

ところで、この新しい土地の開拓には多くの仕事が待ちかまえていた。そこにはカシの木がうつそと茂っているばかりではなく地面は石ころだらけである。巨大な石塊をまるで羽毛のように持ち上げたり移動させたりした地球の古代人の知識を、たびたびみんなはうらやましそうに語り合った。イースター島で見られる古代の大石像を適当な場所に動かした人々と同様に、ピラミッドを建設したエジプト人もこの秘密を知っていたのだ。しかし私たちが道路を切り開いたり岩石を掘り起こしたりするには、鼻息の荒いブルドーザーに頼るよりほかに仕方がなかった。

私たちの居住のためばかりでなく、私に会いにやって来る、しだいに増加する多くの人々をもてなすために、ここへ建てるといつもつていた簡素な建物(複数)の計画をしながら、この小人部のグループは活気に満ちた多くの夜をすごしたのである。パロマー・ガーデンズの買収者がそこで引き続いでレストラン兼休憩所として経営してくれることを私たちは期待していた。そこから何マイルものあい

クトを体験した。母船内部と、地球人のあいだで正体をかくして働いている他の諸惑星から来た人々との両方である。パロマー・ガーデンズは売却されたので、私たちは同じ山の数百フィート高い場所へ移動した。Flying Saucers Have Landed (邦訳版は「群飛ぶ円盤実見記」)が一九五三年九月に英國で刊行され、続いて十月にアメリカ版が出た。

ところで、この新しい土地の開拓には多くの仕事が待ちかまえていた。そこにはカシの木がうつそと茂っているばかりではなく地面は石ころだらけである。巨大な石塊をまるで羽毛のように持ち上げたり移動させたりした地球の古代人の知識を、たびたびみんなはうらやましそうに語り合った。イースター島で見られる古代の大石像を適当な場所に動かした人々と同様に、ピラミッドを建設したエジプト人もこの秘密を知っていたのだ。しかし私たちが道路を切り開いたり岩石を掘り起こしたりするには、鼻息の荒いブルドーザーに頼るよりほかに仕方がなかった。

一同は、山の側面を切り開いた台地に好都合な炊事場をなんとかして建てることができた。この台地の工事は結局大仕事だったが、数名の屈強な青年が奉仕的に援助してくれたのでついに完成した。一同の努力は十分に報われたのだ。台地の一部は大きなカシの木陰になつており、山々の峰を見渡すことができる。柔らかいバステル調の色合いで山のうしろにまた山がそびえ、最後の山は空のなかに浮かんでいる。この場所に戸外用の椅子(複数)、ベンチ、ピクニック型のテーブルなどを配置し、炭火使用の小型コンロを購入した。

最初、私たちはこの土地に隣り合った地所にある友人所有の二軒の古い山小屋で精一杯の生活をすごしたのである。我々は例の炊事場を使用したが、これは事務室用の小さな部屋が設けられるはずである。

我々は約四十キロ離れた小さな町に住むある請負師について知っていた。この人は正直な信頼できる人である。そこで交渉してみた。炊事場は全く我々自身と良き友人たちの手で建てられたもので、その人たちのなかには多年にわたって宇宙の法則の教えを受けた私の門弟も数人いる。その最初の小さな建物は業績を可能ならしめた友情と忠実のしるとして私にとってはいつまでも大きいなる意義を持つものとなるだろう。

だが今度はほんものの請負業者に頼むことができたのだ! 彼は非常に立派な人であることがわかつたし、私の仕事を興味をもつようになつた。その小さな木造家屋は急速に完成した。快適な工合に水が一寸じ流れているので、我々はこれをパイプで地表に出して、水がいつも新鮮であるように放水口のついた小さなブリを作つた。これをバケツで運び上げ

たけれども、支払いのための金ができるまで前進もできないし、こうした建物を建てるわけにもゆかないことはわかつていい。したがつて我々の生活は大抵のために山をわざわざ登つて来る多数の人たちにかんがみて、儀礼として訪問者に食事を出さねばなるまいと感じたのである。

一同は、山の側面を切り開いた台地に好都合な炊事場をなんとかして建てることができた。この台地の工事は結局大仕事だったが、数名の屈強な青年が奉仕的に援助してくれたのでついに完成した。一同の努力は十分に報われたのだ。台地の一部は大きなカシの木陰になつており、山々の峰を見渡すことができる。柔らかいバステル調の色合いで山のうしろにまた山がそびえ、最後の山は空のなかに浮かんでいる。この場所に戸外用の椅子(複数)、ベンチ、ピクニック型のテーブルなどを配置し、炭火使用の小型コンロを購入した。

たけれども、支払いのための金ができるまで前進もできないし、こうした建物を建てるわけにもゆかないことはわかつていい。したがつて我々の生活は大抵のために山をわざわざ登つて来る多数の人たちにかんがみて、儀礼として訪問者に食事を出さねばなるまいと感じたのである。

一同は、山の側面を切り開いた台地に好都合な炊事場をなんとかして建てることができた。この台地の工事は結局大仕事だったが、数名の屈強な青年が奉仕的に援助してくれたのでついに完成した。一同の努力は十分に報われたのだ。台地の一部は大きなカシの木陰になつており、山々の峰を見渡すことができる。柔らかいバステル調の色合いで山のうしろにまた山がそびえ、最後の山は空のなかに浮かんでいる。この場所に戸外用の椅子(複数)、ベンチ、ピクニック型のテーブルなどを配置し、炭火使用の小型コンロを購入した。

最初、私たちはこの土地に隣り合つた地所にある友人所有の二軒の古い山小屋で精一杯の生活をすごしたのである。我々は例の炊事場を使用したが、これは事務室用の小さな部屋が設けられるはずである。

我々は約四十キロ離れた小さな町に住むある請負師について知っていた。この人は正直な信頼できる人である。そこで交渉してみた。炊事場は全く我々自身と良き友人たちの手で建てられたもので、その人たちのなかには多年にわたって宇宙の法則の教えを受けた私の門弟も数人いる。その最初の小さな建物は業績を可能ならしめた友情と忠実のしるとして私にとってはいつまでも大きいなる意義を持つものとなるだろう。

だが今度はほんものの請負業者に頼むことができたのだ! 彼は非常に立派な人であることがわかつたし、私の仕事を興味をもつようになつた。その小さな木造家屋は急速に完成した。快適な工合に水が一寸じ流れているので、我々はこれをパイプで地表に出して、水がいつも新鮮であるように放水口のついた小さなブリを作つた。これをバケツで運び上げた。これはもう一つの喜びであり、待つた甲斐のあるものだった。

一同が建築作業に精出したが、この大勢の動物をなんとかして銅つたが、これは野性のままに馴れた。二匹の大と六匹のネコである。ときどき彼らの仲間であるスカンクが行儀よく訪ねて来たことはいうまでもない。こうした動物でひどい害意をもつものでも、敵愾心をかきたてられぬときは馴れて可愛らしくなるもので、相手を見るときそれが友であることがわかるのである。彼らはネコの鉢でミルクを飲んだり大とともに食事をしたりして、互いに争うこととはめつたがない。ときとして犬の一匹がそれを問題にしようとして侵入者にとびかかり、大声で吠えると、スカンク氏はおだやかに急いで山腹の方へ退却するだけで、怒つたふりをして尻尾を立てるにすぎない。

米国中西部、ニューヨーク、カナダなどへの講演旅行の合間に、あらゆる力をありしほつて私は家屋の完成に働いた。仕事を中止するのは友人や、会いに來た多数の来客と話すときだけである。東海岸方面と英國での講演予定があったが、カナダにいたとき私はひどく疲れ声が出なくなってしまった。講演は切迫しているし、私が最も深く考えてい

る問題を討議するときに体力を節約する方法を私という人間は知らないらしい。正式な講演に加えて、当然のことながら多数の聴講者があとで質問をしたがった。この善良な人々が私に近づく前に講演会場から逃げ出してしまえという忠告がわるくないものだと私は知りつつも、つい気を許したのである！ その結果、ものはやしゃべることができなくなってしまった。医師は東部と英國の講演予定の取り消しと、少なくとも六ヶ月間の絶対安静を命じたのである。

この宣告は種々の明白な理由により私にとって非常な失望となつたが、結局やむを得ず従わなければならなかつた。愛する山へ帰つてからまもなく声が出るようになり、訪問者が来たときぐらいいは話させてくれと駄々をこねた。

ここで“あるセンス”と一同が言つてゐるような、そのセンスでもつて私を鼓舞せようとすると人たちにとっては、私は厄介なしろものであるにちがいないとと思う。たぶん私は何もセンスを身につけていないのだろう。だが私を探し出した人々に対ししてどんなに私が心身をすりへらしても、多くの面で多大な報いがあることを知つている。

一九五四年の六月にデスマンド・レスリーがパロマーへやつて來た。私の計画が遂行できただとすればニューヨークで初めて彼に会つたはずである。これは非常な喜びだつた。きわめて他人の興味を起させるような心と、愉快なニーモアの精神を身につけている彼は、我々の小グループに多くのものを加えてくれた。我

々の共通の関心事に興味をよせたばかりでなく、はじめな話題からリラックスする必要が起つたときにはナンセンスな話をし始めて一同を大笑いさせたりした。

約一カ月だけ滞在するつもりだったのに、デスマンドは八月の終わり頃まで一緒にいた。一九五六には延期された講演旅行を実現させるためにイングランドへ行くので、そのとき彼と再会するのを楽しみにしている。

大体のところ、他の世界（惑星）から来た友人たちとのその後のコンタクト、この世界（地球）のあらゆる種類の良き友人たちの増加、健康によい戸外の仕事、本書の資料のまとめなどで、私の日々の生活はたいそう充実して楽しいものになつてきた。ときどき友人たちがいやすな態度で私を見始めたときは、休息もとつた。

まもなく我々は新しい家屋の用途を拡張する必要があることに気づいた。そこでデスマンドの到着する直前に、寝室を一つ増築するために、討論や非公式の講演ホールとして設計していた大きな部屋の中央に仕切り壁をとりつけた。実際に私たちの一人はまだ古い小屋に寝ていて、他の一人は依然として炊事場にベッドをおいていたのである。そこで今度はこの新しい段取りによつて講演ホールは二分され、その半分に私が寝ることにしたが、これは正規の寝室であり、簡易寝台つきの事務室ともなつた。その後またを立て、上半分に布を張りめぐらして

眠り心地のよい寝所を作り上げたときは、一同たしかに恵まれてゐると感じた。こうして私たちはベッドを炊事場から解放したのである！ 私はいまだに水をパイプに通したり貯水タンクから出したり、地面に施設したりする仕事をやつてゐるが（これは数名の有能な女性の助手が手伝ってくれるのだ！）、その結果を心から誇りに思つてゐる。以前の洗いバケツやシャワーのちよちよる水は今や激しい奔流となつているし、カシの木の下には本物の小型ブールを作り、そのふち石の周囲には花も植えてある。ちょうど今朝がたは家の下からセメントのキューピッドとツルを取り出してブールの中においた。これはとても楽ししそうに見える。

私たちは骨折つて働くけれども、みなつた。まもなく我々は新しい家屋の用途を拡張する必要があることに気づいた。そこでデスマンドの到着する直前に、寝室を一つ増築するために、討論や非公式の講演ホールとして設計していた大きな部屋の中央に仕切り壁をとりつけた。実際に私たちの一人はまだ古い小屋に寝ていて、他の一人は依然として炊事場にベッドをおいていたのである。そこで今度はこの新しい段取りによつて講演ホールは二分され、その半分に私が寝ることにしたが、これは正規の寝室であり、簡易寝台つきの事務室ともなつた。その後またを立て、上半分に布を張りめぐらして

幸せだ。山々はいつも眼前に横たわり、夜明け、白昼の日光、夕日などにより美しい。夕暮れどきは月光に輝くかまたは星々の満ちた空に黒く浮かんだりして特にすばらしい。

そして時折、上空にきらめく円盤を見る。たしかにこの数週間といふものはUFOが近隣の町や都市で多数の人に目撃されている。私たちは彼ら宇宙人が頭上に、そして全世界の上空にいることを知つて満足しているし、遠からぬ将来、世界中の人々がUFOを見てその正体を知るようになり、現在知りながらも沈黙を守つてゐる多数の人々が人類のために確信をもつて語り出すのを私たちは望んでゐるのである。

## ●第14章 饗宴と訣別

宇宙人との最近のコンタクトは一九五四年八月二十三日に発生した。その当時

デスマンド・レスリーは講演予定を果たそうとしてロサンゼルスにいた。彼は私がこのコンタクトをしようとしていることを知つており、一緒につれて行ってくれとしきりに懇願した。私もこのことを望んだのが、ブラザーズはこの願いを拒絶したのである。彼らはその理由を明かなかつた。考えてみると、これは今回私に見せて證明されたある物事の性質が、これまでコンタクトをしたことの

大きいなる悲痛の念が大波のように内部にわき起つて来た。

ラミューが早口で言う。「しかしあなたは肉体の形でのみ私たちと別れるのです。どこにいてもやはりテレビで通信できることを忘れないで下さい」

この考へでホッとしたものの、その瞬間、まだ物足りないような気がした。

するとファー・コンが言った。その声は理解に満ちている。「あなたは私たちの友人です。両者のあいだに広がるかもしれない空間のすべては、決して友人関係を変えることはできません」

私は自分の感情を恥じた。この気持を完全に消すことはできなかつたけれども、ある程度までなんとかしてそれを克服した。

ほかに一人またはそれ以上の宇宙人の「コンタクトマン」がいて、地球上に一時的に住みながら、いざれ私に会うよう定められているのではないだろうかと考えてみたが、この無言の質問には回答が与えられなかつた。これはほんとうに別れになるのかもしれないという気持が残つたが、少なくとも当分の間、今ドライブしながら私を真中にしてすわつていふ二人の友人に對してばかりでなく、大気圏外への宇宙旅行ともお別れになるのかもしれない。

おわかりいただけると思うが、この感情は今夜私が見ることになつて、いた新たに、すばらしい物事に一段と感謝の念をわき起させ、それが私の深い認識を早めたのである。このことは、すでに許された物事に対する感謝に加えて、言

葉ではあらわせない充実感を中心につけていた。

同じ小型円盤での飛行についてはすでに詳細に述べたので、ここではオーソンと、いつでも離陸できるように準備で作られた小型機が、わずかに地面上に浮かんで待つていたとだけ言つておこう。

ソソとを注目した。

金星の母船に入ったとき、今度は奈落へ落ち込むような感じは全然しなかつた。最初の体験のときと同じようにプラットフォームへ到着して、そこで再び停止する。小型円盤にクランプを取りつけリチャージするために見覚えのある人がいたが、今度は彼も階段を下りて一同について来て、休憩室へ入つた。

室内へ入つたとたん、私は祝宴の空気を感じた。これまでに会つたことのない非常に大勢の人が出席しているのだ。

イルムスとカルナがやさしく迎えに出

て来るのを見て、私は嬉しくなつた。

「私たちが今夜あなたを驚かせようとしている計画をだれかが話しましたか?」

「お供をするはずですか?」

カルナが話しているあいだに、イルムスがおいしそうな果物のジュースを入れた台つきグラスを私に渡してくれた。二人ともパイロットの制服を着ていて、気が付いた私は、これは宇宙旅行を意味

するのだと確信した。

大勢の男がおり、婦人はカルナとイルムスを含めて八人ほどいる。他の婦人は、私が最初にイルムスとカルナに会ったときに二人が着ていたのと同じ種類の美しいガウンを着ていて、男たちは着心地のよさそうなシャツとズボンを身につけていた。ここでも全部の人がサンダルをはいている。

紹介はされなかつたが、だれをも見落

とすることはなかつた。みんなが私を友人として挨拶してくれたからだ。私の名を呼んだ人も数人いた。挨拶が終わると、どこからともなく静かな音楽が響いてくるのに気づいたが、どうも東洋的な調べを思い出させるものがあつた。

ラミューもジユースのグラスを手にしていたけれども、他の友人たちが私たちに加わっていらないのに気づいた。これを

イルムスが説明した。「私たちにはカルナが言つたある驚くべき事を実現させるために、今各自の部署につかねばなりませんから、このたびはラミューがあなたのお供をするはずですか?」

オーソンとカルナが一方向へ消え去ると、ファー・コンとイルムスが船体の反対の端の方へ向かって出て行く。ラミューと私はちょっとのあいだ無言のままジユースを飲んだ。自分が、この室に満ちた

熱狂ぶりがないことである。見たところだれもが楽しそうであり、地球人がしばしばやるような、耳ざわりになるような

感動したのは、高声、咲笑、その他の熱狂ぶりがないことである。見たところだれもが楽ししそうであり、地球人がしばしばやるような、耳ざわりになるようなこともなくジユースをすることができるし、地球人のごとくジユースを深刻に考えているように見えない。雰囲気は陽気

が、もう少し近寄つて見ようと誘いかけた。

四人の男が小さなテーブルをかこんですわり、カードのゲームに興じている。カードの大きさは地球のものとほとんど同じだが、性質は全く違つてゐる。どのカードにも数字ではなく、何かを表示するマークがついている。同じものが二枚あるかと思つてのぞいて見たが、私の目についた限りではなかつた。

男たちの別なグループは、なめらかな板にそつて小さな色つきボールをころがしていた。このボールはある種の磁気を帯びているのだろうと思つた。板にはミゾがないのにボールは一定方向にだけ動くからだ。ボールのなかには他のボールを引き寄せているらしいのもあつた。

他のゲームは地球の卓球にやや似ていたが、違うのは二個のボールが同時に使用される点である。そのためには、明らかに非常な熟練を要するが、婦人たちがいたそう上達しているように見えた。

感動したのは、高声、咲笑、その他のだれもが楽ししそうであり、地球人がしばしばやるような、耳ざわりになるようなこともなくジユースをすることができるし、ジユースを飲んだ。自分が、この室に満ちた

が、もう少し近寄つて見ようと誘いかけた。

四人の男が小さなテーブルをかこんですわり、カードのゲームに興じている。カードの大きさは地球のものとほとんど同じだが、性質は全く違つてゐる。どのカードにも数字ではなく、何かを表示するマークがついている。同じものが二枚あるかと思つてのぞいて見たが、私の目についた限りではなかつた。

男たちの別なグループは、なめらかな板にそつて小さな色つきボールをころがしていた。このボールはある種の磁気を帯びているのだろうと思つた。板にはミゾがないのにボールは一定方向にだけ動くからだ。ボールのなかには他のボールを引き寄せているらしいのもあつた。

他のゲームは地球の卓球にやや似ていたが、違うのは二個のボールが同時に使用される点である。そのためには、明らかに非常な熟練を要するが、婦人たちがいたそう上達しているように見えた。

感動したのは、高声、咲笑、その他のだれもが楽ししそうであり、地球人がしばしばやるような、耳ざわりになるようなこともなくジユースをすることができるし、ジユースを飲んだ。自分が、この室に満ちた

た。  
しばらくしてラミューが誘いかけた。

「操縦室へ行きましょうか。そこには面白いものがありますので、きっと興味をおもちになるでしょう」

グラスを持ったまま私は喜んで彼について行き、大きな部屋へ入った。そ

こは最初にこの宇宙船を訪問したとき見たことのある沢山のチャート、グラフ、機械類がある所だ。

二人が室内へ入ったとき、ラミューが一個のボタンに触れたのだろう。床からまるで魔法のように、二個の非常に小さな座席が浮かび上がるのが見えた。同時に真正面にある大型スクリーンの中央に月面が出現したのである。その拡大され

た画面に私は一驚を喫した。全くスクリーン上の写真というようなものではなく、実景そのままの立体的な光景なのだ！瞬間、私たちは実際に月面へ着陸しようとしているのではないかと思つた。

ラミューが言つた。

「あなたがごらんになっているのは地球から見える側の月面ですが、私たちはそこに着陸するのではありません。この光景は、最初あなたが来られたときに操作されなかつた望遠鏡から、このスクリーンに投影されているのです。本船は月の表面に接近しますから注意して見て下さい。かなりな活動状況が見えます。地球から見える多数の大クレーターの中に、

巨大な格納庫（複数）が見えますよ——地球人はこのことを知つていません！

注目して下さい。こここの地形は地球の砂漠とほとんど同じなのです。

私たちには本船よりもるかに大型の宇宙船が容易に入れるようにこんな大規

模な格納庫類を建設していますし、これら

の格納庫の内部には多数の作業員とそ

の家族用の宿舎があり、あらゆる設備が

してあります。豊富な水が山々からハイ

ブで引かれていますが、これはちょうど

地球の荒地を肥沃にする目的で地球人がやっているのと同じです。

宇宙船がこれらの格納庫へ入るとき

は、乗船者の体内の減圧処理がほどこさ

れます。これには約二十四時間要する

のです。もしこれを行わないと、乗船者は月面に一步降りたときに極端な苦痛

を体験するでしょう。このような減圧処理法はまだ地球人の考え方及ばぬもので

す。彼ら地球人は肉体の機能とその制御

が急速に起らぬ限り、超高压ばかりか

超低圧に対しても自然に調整できるよう

になつてゐるのですが、急激に変化する

とその結果は死です」

月面への実際の着陸が許されるならば私は喜んで必要な減圧処理を受けるだらう。すぐ地球へ帰る必要はないのだ。

しかし同情の微笑を浮かべてラミュー

が言つた。

「地球へおつれる前に月の裏側をお見

せするほか、あなたのために多くの事が用意してあるのです。まあ、よく見て下さい。本船は月のフチに接近していくま

す。あの雲（複数）をごらんなさい。み

な薄くて、どこからともなくやつて来るよう見えますが、これは雲にありがちのことです。ほとんどの雲は全然濃密にならないで、すぐに散ってしまいます。

しかし適当な条件のもとでは、ときどき濃密になるもあります。この雲の影が地球から望遠鏡で見られています。

今、本船は地球から全然見えない側へ接近しています。真下の地表を見て下さ

い。いいですか、この地域には山々がありますね。高山の峰々には雪さえありますね。高山の峰々には雪さえあります。

低地の斜面には大森林が茂っています。月のこの側には多くの山中湖や川もあります。真下には湖の一つが見える

でしょう。川から多量の水が注ぎ込まれます。月のこの側には多くの山中湖や川

もあります。真下には湖の一つが見える

でしょう。川から多量の水が注ぎ込まれます。月のこの側には多くの山中湖や川

ビジネス街なのだろう。ただし人影はまだである。いかなるタイプの自動車も街路にとまつてはいない。しかし数台の乗物が街路から「浮き上がって」動いているのに気づいた。それらには車輪がついていないらしいからだ。大きさは地球のバスと同じぐらいでどれもほとんど同じようなものである。

ラミューが説明した。「こここの少数の人々は自分の輸送用乗物を持っていましたが、たいていは今見るような公共の輸送機関を利用します」

主都市のすぐ外側に比較的大きな広い地域があり、一方の端にそって巨大なビルディングが一つあった。どうも格納庫のよう見えるがラミューが次のように言つてそれを確証した。

「こここの住民に必需品を持って来て着陸する便宜上、各都市の近くに数棟の格納庫を建設する必要があるのです。住民の必要品で、ここで手に入らない物すべてを運ぶのです。交換として彼らは月世界で産出する鉱物を供給してくれます」

注目していると、その都市が急に遠ざかるように思われた。するとラミューがこれから月と地球のあいだの空間へ引き返すのだと言う。

「休憩室へ帰るまでに何か質問がありますか？」と彼は尋ねた。

私は何も思いつくことがなくて首を振った。「それなら」と彼は眼を輝かしながら言つて「休憩室へ行く方がいいでしょう。ファーコンと私の帰郷を祝うため会食が準備されていますから」

切迫した訣別を思い出させるこの言葉

を聞いてわき起つた哀切の念に私はまたも恥じたが、心中で私自身を彼らの立場におくことによって、これを克服したのである。彼らの環境のなかにあって私は楽しくないというのか？ たしかに楽しいのだ！

「私が涙を流すとすれば、それは私自身のためです」と、軽い動搖とたたかいでながら私は言った。「あなたのためにはうれしいのです」

オーソンとカルナがドアのところを迎えてくれて、私たちは一緒に休息室へ入った。室内の片隅に大きなテーブルが準備してあるのが見える。以前ゲームをやっていた婦人たちのいく人かが最後の仕上げをしていた。

ファーコンとイルムスが反対側のドアから入つて来ると、カルナはその友と一緒にになり、二人の婦人は部屋から出て行つた。まもなく二人はバイロット服から美しいゆつたりとしたローブ（長いゆるやかな婦人服）に着替えて引き返してきた。

黄金色と黄色の繊維の美しい布がテーブルを覆つているが、これは色のついた一定の模様をともなわないデザインで織られている。座席が両端まで並べてあり両側にも並べてある。テーブル上の『食器』は地球のものに比べてデザインが少し違つていて、むしろ進歩していると私は思った。美しくちりばめた各種の金属を組み合わせてできているようだ。

テーブルの上席に椅子が一つあり、その両側に十四脚づつをかぞえることができた。カルナとイルムスが一同に加わる

と、みんなは着席するようにすすめられた。婦人は八名いるだけで、男は私を含めて二十一名である。

ラミューがマスターの右側にすわり、ファーコンが左側にすわった。イルムスはラミューと私のあいだに位置し、カルナは向かい側のファーコンとオーソンのあいだに席を占めた。

全員がすわり終わるとマスターは起立した。ちょっとのあいだ室内は崇高な静寂さで満たされたが、やがて、柔らかな明瞭な声で偉大な師父は次のように発言した。

「今、私たちはこの食物にたいして『無限なる方』に感謝します。願わくば、あなたの広大な領域内の万人が等しくその恩恵にあずからんことを。この食事によつて私たちの肉体が強化され、肉体の内部に宿る聖靈に貢献し、あらゆる生命の創造主たるあなたの御心にそわんことを」

この美しい祈りの言葉が述べられてから、すべては再び一瞬の静寂にかえつた。続いてマスターはなおも起立したまま言葉を続けた。

「今ここにいる二人の兄弟によつて遂行された地球上の使命の成功を、深い喜びでもつて祝福するために、私たちは今夜ここへ集まりました。ファーコンとラミューは立派にやつてくれました。二人がホーム惑星へ帰れるようになったその努力に報いて、私たちは喜びを共にするもののです」

薄い金色の液体を満たした水晶のよう

なゴブレット（台つきグラス）がテーブル上の各自の前においてある。マスターは話し終るとグラスを持ち上げて言った。

「お互いを、そして宇宙の同胞を祝福して飲みましょう」

私はグラスを唇へ運んだとき、この上ない芳香に気づいて、それを失つてはならじとばかり、きわめてゆっくりと液体をすすつた。どうも酔つぱらうような性質のものとは思えなかつたが、多量に飲めばその影響があるブドー酒に似ているようだ。

ラミューとファーコンに敬意を表して一同がグラスを持ち上げていると、どちらともなく響いてくる静かな音楽が室内に流れわたつた。今までに聞いたことのないような音楽だが、全身をゆさぶるような気がする。珍しく、しかも美しいメロディーで、時折、地球の音楽に似た調べもまじつていて。

他の世界の人々と会食する光景に浴したのはこれが最初なので、当然のことながら、この食物が地球の食物にどの程度類似しているかを知りたくなつた。

テーブルの両端と中央には果物を盛つた美しい鉢がおいてある。一つの鉢はちょうど大きな赤いリンゴに見えるものが盛つてあり、どれも手をつけないままの果柄がついてある。私に差し出された一つを受け取りながら、ぱりぱりとした果汁の多い果肉を期待したが、噛んでみると、この果肉は引きしまつて熟した桃ほどの固さがあることに気づいた。味は桜の実とリンゴと一緒にしたような味で、

芯には大きなリンゴの種みたいな大きな種が入つていた。

チゴに似ているのがあつた。このイチゴの最小のものでさえ、少なくとも地球のその最大のものよりも四倍はある。

テーブル上の各所には、いろいろな果汁や他の飲料を満たした大きな水差しのような容器が配置してある。これで、各席の前に異なる大きさの数個のゴブレットがおいてある意味がわかつた。私が試みた二度目の飲物は純粹のキイチゴのジュースに似ていた。

長いテーブルの端に向かい合つてすわつてゐる二人の婦人によつて、食物がくばられた。近くの壁にくつつけておかれている準備台から、婦人たちはまず湯気のたつの野菜の皿を運んで來た。一枚の皿には普通のニンジンのよう見えるものたつて野菜の皿を運んで來た。一枚の皿には普通のニンジンのよう見えるものが盛られているが、肉はさほど固くはない、一種の甘ずっぱい味である。次の野菜は私にとって親しいジャガイモのよう

に見えた。これは（複数）皮がむいてあるけれども、自然の形のままに出され

て、淡黄色を帯びており、オランダボウフウのような粗い纖維はないが、それに似た味がする。私が食べた別な野菜で葉と色合いがバセリと同じで、レモンのような甘い芳香を放つのがあつた。

私が食べなかつた野菜がまだ他にも沢山ある。生来、私は少食のうえに、今夜は心が乱れているので、ほとんど食欲は起こらない。この祝いの目的を中心から消そうとしたが、むだであった。よき友ファーコンとラミューは、はるかなる故

郷へ帰るのだ……。

しかし私は非常に粗い、まつ黒なパンの小さなかたまりと、はじめは肉だと思ったものを一切受け取った。パンには黄金色の皮がついていて、主としてクリで作つたかのような味がしたが、穀類の味も含んでいるのがわかつた。こげ茶色の「肉」の切れを畳みながら、内心その味を上手に料理されたビーフにたとえていると、カルナがテーブルに向かい側から話しかけた。

「それは金星のある植物の乾燥根ですわ」と彼女は説明して「金星では生の植物を料理します。するともっといい味になるのですが、宇宙旅行中は乾燥したものを使ふのです。それは肉の中にあるすべての蛋白質を含んでいますし、人体に吸収されやすいので、特に栄養価が高いのです。ここに出されたこの根の一切都是、地球のステーキの一品ほどに相当します。また、他の食物のすてきな調味料にもなりますわ」

食事が終わると大きなケーキが出た。これはいわゆるカステラの外観を呈しているが、切つてみるとカステラ特有のふわふわした弾力性は全然ないことがわかつた。その上、主として白色だが黄色いすじが混じっている。肌理が非常にこまかくて、文字どおり口中で溶けそうである。かすかに甘い味がするが、黄色いすじが白味から分離すると、その味は名状しがたい甘味に変わつた。全体的には美味である。

テーブルの周囲にいる他の人々を見て彼らの楽しそうな話し声に耳をかたむけ

ながら、地球の会食でよく見られるように、出席者が多量の食物をがつがつと食べてしないことに気づいた。しかもみんなが食事を楽しんでいるようだつた。

会食の最後に、婦人たちと幾人かの男が席から立ち上がって、皿などを片づけた。私にはもうよくわかっているの不思議な方法で、テーブルの背後の壁から台所へ通じる大きなドアが突然開いた。そこは全くの固い壁にしか見えなかつたのである。この室内へあらゆる物が運び込まれた。まもなく出席者たちが各自の椅子へ帰つて、ドア一が彼らのうしろでしまつた。

ところでバックグラウンド音樂がやむと、一人の男が席から立ち上がって、全然伴奏なしに母國語で歌をうたつた。そこに私は魅了されたながら聞いた。

「あれは故郷へ帰る兄弟たちのための別れと祝福の歌です」

まだどこからともなく音楽が響きわたつた。以前よりも音が大きく、もっと活発な陽気な曲である。

この理由はわかつた。二人の婦人が立ち上がり、テーブルのむこうの広い場所へ行き、美しいユニゾンで音樂に合わせて踊り始めたからである。後に聞いたところでは、このダンスは宇宙の力を表現したものだという。

見つめているうちに、この踊りを演じるには（前後左右に自由に動く）二重関節と、幼児のような柔軟さを必要とする

である。その体のあらゆる動作と姿勢は静止したおだやかな水から宇宙の最もすさまじい嵐に至るまで、多くの自然の変化をかわるがわる表現した。

このようなりズムを言葉で説明するの是不可能であるが、ながめていると魅惑的で深く感動させる。この若い踊り手は二人とも非常な美女で、着ている衣服は動いているあいだ色が変わるように思われたが、それを照らしている光線は見当たらなかつた。最高の意味における「優雅」という言葉も、この美しい演技の公平な評価にはならないだろう。

ダンスが終わつて少々時間が経過してから、マスターがオーソンに話しかけると、彼は私がすわつてゐる所へやつて来て言つた。

「それでは、私たちの惑星である金星の光景をお見せしましよう。これは金星から直接本船に送られて來るのです」

このような光景つきの説明を聞かされることを期待して私は喜んだ。そしてどう

のスクリーンに現れるのだろうかといぶかつた。だがスクリーンはない。照明が少し暗くされて、私の凜然とした凝視の前に、最初の光景が室内の空間に浮かび上がつたのである！

オーソンは私の驚きを楽しんでいるらしく、次のように説明した。

「夜になつて暗くなれば、あの色が消えてドームは柔らかい黄色光で輝きます」

あらゆる都市は円形または橢円形になっており、密集しているように見えるのではない。この集中都市間にはまだ住民の住んでいない土地が沢山ある。

これらの都市の街路上に見える人々各自の勤めに出かけようとしているらしく、この点は地球上と大差ないが、地球上に見られる難踏や氣苦労などは見られない。衣服も似ており、大体のスタイルも共通しているが、どうやら個人好み

私が見ている光景は、たしかに「そこに」あるように見えるので、私がまだ船内にいるとは到底信じられないほどである。壮大な山々が見えた。頂上で雪をかぶっているのもあるし、全く不毛で岩だけの山もあり、地球の山岳地帯と大差はない。うつ蒼と茂った森林に包まれているもあり、その間を渓流が走り、山腹へ滝となつて落下するのが見える。

オーソンが私の方へようやくかかって、ささやいた。

「金星には多くの湖と七つの海があり、どれもみな自然の、もしくは人工の水路につながっています」

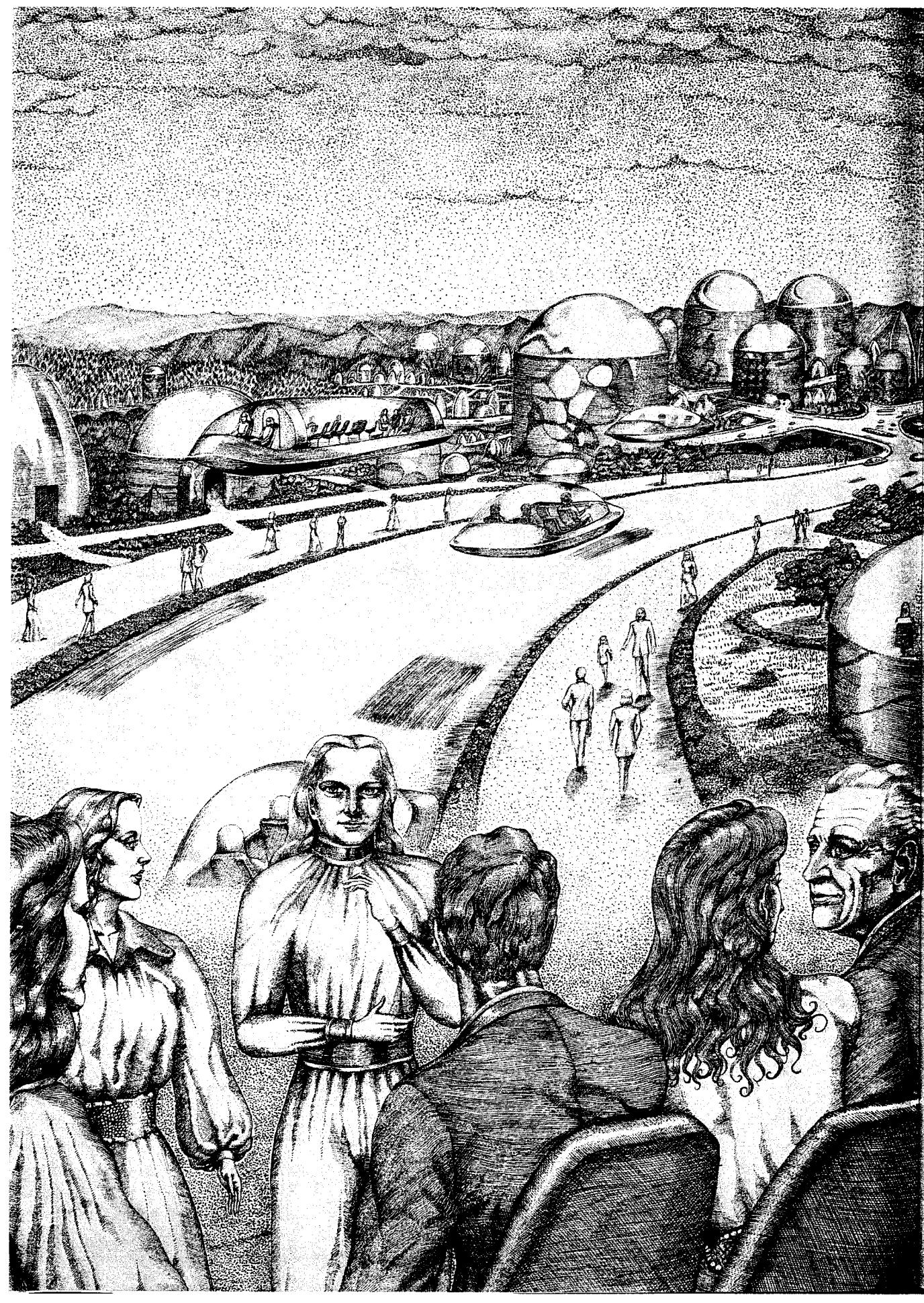
今度は金星の都市を少し見せてくれた。大小いろいろある。なにかすばらしきお伽の国へつれて行かれたような感じがする。建築物は美しく、外形は複雑である。多くは虹色を放射するドームがついており、それが生き返るような力を与えるがごとき印象を与える。

オーソンが静かに言つた。

「夜になつて暗くなれば、あの色が消え

てドームは柔らかい黄色光で輝きます」

あらゆる都市は円形または橢円形になっており、密集しているように見えるのではない。この集中都市間にはまだ住民の住んでいない土地が沢山ある。



に応じて服を選ぶようだ。

私が見た最も背の高い人は約一九五センチメートルで、大人の平均身長は約一五六センチメートル、最も背の低い人で約一メートルぐらいである。しかしこの場合子供かもしれない。だが確信はできない。地球人のように年齢をあらわす人がいないからだ。この最小の人間よりももっと小さな子供たちを見た。

ある場所から他の場所へ移動するときの乗物で地球の自動車に相当するものとして、この母船を超小型化したような乗物が眼についた。これらは地上の空間を滑るように動いて見えるが、月面で見たあの「バス」と同じである。この輸送機関は地球の自動車と同様に大きさがさまざまだ、なかには天井のないものもある。これらがどのようにして推進するのだろうかと考へてみると、オーソンが再び耳許へ口を寄せて説明した。

「宇宙船を作動させると全く同じエネルギーを応用するのです」

道路は立派にとどつており、色とりどりの花で美しくふどられていて。

次に、ある湖畔の砂浜が見せられた。砂はたいそう白くて、きれいである。長くて低い波がほとんど眠りたくなるような調子で押し寄せていく。砂浜と水中に沢山の人がいる。人々の水着にはどんな織物が使用されているのだろう。水を浴びたあとも全然ぬれていないように見えなのだ。

そばへ来てすわっていたカルナがこの理由を明らかにした。

「あの織物は完全防水になっているばかりでなく、太陽の有害な放射線（複数）を防ぐ性質を持っています」

更に説明を続けて「地球と同様に、この放射線は内陸よりも水からの反射の方がもっと強烈になるのです」

今度は金星の熱帯地方が見せられた。驚いたことに、一般的な意味で言つて、樹木の多くは地球のしだれ柳にやや似ていて葉は滝のように垂れ下がつていて。しかし色と葉のこまかい部分は全然異なるのだ。

読者も想像されるだろうが、いろいろな場面に現れてくる動物に私は非常な興味をもつた。砂浜に、小さな、毛の短い犬を一匹認めた。他の場所には種々の色や大きさの小鳥がいたが、地球の小鳥と大差はない。一羽の小鳥は地球の野性的なカナリヤとそっくりに見えた。田舎には馬や牛が見えたが、どちらも地球の牛馬よりは少し小さいものの、他の点では非常によく似ている。この類似という点は金星のあらゆる動物にあてはまるようである。

また花も地球で咲くものと似ている。次のように言えるだろう。つまり金星の動植物を地球のそれと比較した場合の主な相違点は、色と肉の肌理にある。カルナの話によれば、これは金星には常にいちじるしい湿気が存在するためだといふ。

彼女は言う。

「あなたはすでに知っているように、金星人は地球人が見るようには星をほとんど見ないので。私たちただ宇宙旅行

と研究によって、空の彼方の天界の美を知るだけです」

最後に、十八人の子供をつれた非常に美しい婦人とその夫のいる場面を映し出された。子供たちの一人だけ除いてあとはみな十分に成長していた。しかし両親は三十歳そこそこの若夫婦という印象を与えていた。

これで映写は終わり、私は質問をするようすすめられた。そこでまず、金星を絶えず雲が覆っている状態は、もし与えるとするならば如何なる影響をその住民に与えるのかと尋ねてみた。

オーソンが答えた。

「宇宙の法則に従つて生活するばかりでなく、金星の大気は人間の平均寿命を一千年にするのに一因となる要素です。地球もこのような大気を持っていた当時は地球人の年齢も現在よりは、はるかに長かったのです。

私たちの惑星をとりまいている雲は、破壊的な放射線を弱めるフィルターとして作用します。この雲がなければ放射線は大気圈内に入るでしょう。地球の聖書に出ているある記録について、あなたの関心をうながしたいと思います。聖書を注意深く研究されると、地球上の法則は、現在のところ地球上に理解されないでしようが、私が強調したいのは、彼らがこれまで終始一貫して歩んできた。

「必ず起ります」と相手は答えて「人間と人間の住む惑星の関係を支配する諸法則は、現在のところ地球上に理解されないでしようが、私が強調したいのは、彼らがこれまで終始一貫して歩んできた。

誤った道こそが、地球の現在の不安定さを気づかずに入れる原因なのです。何世紀もを通じて多くの徵候、前兆などがありましたが、地球人は無視しました。これらの多くは地球の聖書に予言として記録されています。しかし地球人は気にとめませんでした。しかも多数の予言は実現しまったが、そのレッスンは学ばれなかつたのです。万物の創造主から離れたことは賢明ではありません。人類は自分に

くならば、今海底にある土地の多くは隆起するでしょう。そうすると、この水につかつていた土地は長いあいだ蒸発し、このために再び常に雲で覆われる状態、すなわち地球のまわりの「天空」をつくり出でてしまう。そうなれば、寿命はまた延びてきますし、地球人が創造主の法則に従つて生きることを学ぶならば、あなたがたも一人の肉体で一千年に達することができます。

この地球の傾きこそ私たちが絶えず守つてゐる観測の一つの理由なのです。なぜなら、この銀河系内の他の惑星群に対する傾きの関係は非常に重要であるからです。一惑星の激烈な傾きはある程度全ての惑星群に影響しますし、私たちの宇宙旅行の航路を完全に変えてしまうのです

「たしかに、激しい傾きは地球上に大変運動をもたらすでしょうね？」と私は尋ねた。

「必ず起ります」と相手は答えて「人間と人間の住む惑星の関係を支配する諸法則は、現在のところ地球上に理解されないでしようが、私が強調したいのは、彼らがこれまで終始一貫して歩んできた。

誤った道こそが、地球の現在の不安定さを気づかずに入れる原因なのです。何世紀もを通じて多くの徵候、前兆などがありましたが、地球人は無視しました。これらの多くは地球の聖書に予言として記録されています。しかし地球人は気にとめませんでした。しかも多数の予言は実現しまったが、そのレッスンは学ばれなかつたのです。万物の創造主から離れたことは賢明ではありません。人類は自分に

生命を与えてくれた創造主の手によって導かねばならないのです。

もし人間が大変動を起こさずに生きようと思えば、他人を自分自身とみなし、他人を自分の反映と考える必要がありま

す。人類が創造主の意志にそむいて残酷になり、平気で殺人行為をなすのは、創造主の意志ではありません」

私は言った。

「私たちが一種の新しい周期<sup>サイクル</sup>に入ろうとしていることを私は知っています。地球の同胞の中にはそれを『黄金時代』と呼ぶ人もあり、また『洪水期』と言う人もありますが、あなたはこれについて説明できますか？」

「私たちの惑星では諸変化をそんなんふうに名づけてはいません。私たちのすべてが進歩であることを知っているだけです。しかしあなたの理解のためにご質問に答えると、地球人自身がこのことをいかに理解していくとも、地球人は『宇宙時代』に近づきつつあると言えるでしょう。地球人は神以上に黄金を崇拜しながら、『黄金時代』をすごしてきました。あなたがたの言う『洪水期』は、大洪水で地球が人間を苦しめる時代のことすぎないかもしれません。あなたがたはこの両方の状態を通り越してきたのです。いろいろな変動の時期をこんなふうに名づけること 자체は、理解の障壁の一部となります。地球人はこうした自然の諸変化と調和して進歩することを学ぶべきでそれらに屈服してはなりません」「『宇宙時代』をどのように定義されま

す。『実際には宇宙的な理解と呼びたいくらいです。地球の文明において、地球以外の人間の住む世界の可能性に広い意味で

地球人が気づいたのはこれが最初です。地球のあらゆる空に多数でもって今私たちがやっているように宇宙船で出現するものですから、信じようとしない人々でさえも、ほとんど文句は言えない有様で

す。地球の最高の天文学者の幾人かが言明したように、地球人類の記憶で初めてのことですが、地球が一種の氣まぐれで偶然に生命を産み出したのではないといふ確実な証拠があります。人類が地球上に出現しているのは、その惑星も『無限者』の広大な整然とした創造物の一つにすぎないからで、万物は創造主の法則に従うのです。

私たちの宇宙船（UFO）は地球のいかなる国の航空機もやれない離れ業を地球の空でやっています。地球の科学者はこのことを知っていますし、諸政府も知っています。世界中の航空機のパイロットが私たちを（UFOを）見て驚嘆しています。無数の地球人が空を見上げて驚いていますし、更に多くの住民が今も見つめており、私たちを一目見たがっています。

このようなことはすべて古代人によつて予言されているのです。彼らは予言書の中で述べています。全世界は混乱にまき込まれるだろう。その前兆はこれこれだらう。神の子たちが天国から地球を救はれ、死の影のもとにおいていまは地球人を死の影のもとにおいています。これは地球人がそうしたのですが――

。そして全世界は混乱しています。地球人が大気圏外につけた名は『天国』ですし、私たちも神の息子、娘なのですから、今でさえもある古代の予言が實現します。時が来れば世界の黒人種が立ち上がり、白人種からあれほど長く拒否された人種平等と自由人としての身分確立の権利を要求するだろうと。この予言も地球でまさにこの頃実現していないでしょうか？

おわかりでしょうが、私たちは地球の歴史をよく知っているのです。『私たちは兄弟の守護者なのだ』という考え方にはかかる場所の人類にもあてはまります。私たちが地球へ来て次のように言うのはこの役割を果たすためなのです。『地

球人の苦悩を光の前の暗黒のように消すために、『宇宙の創造主』を地球の道しるべにしよう』

生命の息吹きがなければ人間は何になるでしょう？しかもだれがそれを人間に与えるのでしょうか？万物のために生めどどこでも見い出されるではありませんか。したがって、次のことを地球上に知らせなさい。地球人の神は遠い場所にいるのではなく、近くの万象の中に、人間自身の内部にいる、ということ

周囲のすべての人々から私の方へ祝福の念が溢れ出ているということです。それは人々の顔つきからわかったのである。

するとマスターが立ち上がって私の方へ近寄って来た。私が立ち上ると人々もいっせいに起立した。

「友よ」と私の眼を深く見つめながら彼が言う。

「今、兄弟があなたに語った言葉の多くは、地球人がこれまで真理として信じるように教えられてきた多くの物事と矛盾していますが、このことは本質的に重要な点ではありません。昨日学んだ事柄は明日学び得るより大きな真理への飛石としてのみ役立つのです。それが進化の法則です。一度正しい道を踏めば、はずれることはありません。人間は寛容の精神をもつて働き、努力し、すべての事柄は決してわからないということを絶えず意識するのが、根本的に重要です。進む道が正しいかどうかを決定するのに確実な指針があります。それは全く簡単です。もし地球人の思想や行動の結果が間違っているなら、進む道は創造主の援助の光からそれいますが、行く道に善き物事が起こるなら、あなたがた、子供、その子供たちの生活は喜ばしいものになるでしょう。病気や闘争で乱れることなく、祝福があなたがたの永遠の財産になるでしょう」

彼は別れのしに私の手に触れて、語った言葉で震えている静寂な室内から頭を垂れてすわっていた。温かいものがいだ私は相手の言葉について考えながら、自分の魂の中に入ってくるのに次第に気がついた。眼を上げて、私が感じたのは

出で行った。

オーソンは話をやめた。しばらくのあいだ私は相手の言葉について考えながら頭を垂れてすわっていた。温かいものが私は多くの友人たちの顔を長く見つけて、そのいざれをも記憶の中に刻みつけ

た。別れの言葉を出さないで、みんなは片手を上げた。私も片手を上げた。それから私はオーソンのあとにしたがつて、母船の通路を小型機の方へ導かれて行つた。

ファーノンとラミューの兩人がロサンジエ尔斯へのドライブに同行したが、私たちは何も話さなかつた。

ホテルへ帰つて、この親友たちと別れる時間が来たとき、全身に激しい悲痛の念がわき起つた。握手を交すとラミューが静かに言つた。

「あなたに『無限なる方』の祝福がありますように」

私は二人と別れて、ひそりとした自室へ上がりて行つた。

(以下次号)

×            ×  
×            ×  
×            ×

——超満員の会場上空に UFO が出現!!——

## 昭和50年度総会、大盛況!

去る12月13日、恒例の日本GAP総会が東京、上野公園内の東京文化会館4階の大会議室で開催された。

例年のごとくすばらしい晴天に恵まれた土曜日久保田代表の米国GAP本部訪問と、その際撮影された貴重な未公開写真を一目見ようと全国から熱心な会員たちが続々とつめかけ、2時の開会を待たずして会場の80席はすべてふさがるという盛況ぶりを見せたが、会員はその後3時すぎに200名を突破し、会場は超満員にふくれあがった。

片桐氏の司会で総会が始まり、久保田代表の挨拶のあと、全員の注目の中でスライド上映が開始された。それから約3時間半、F・ステックリン

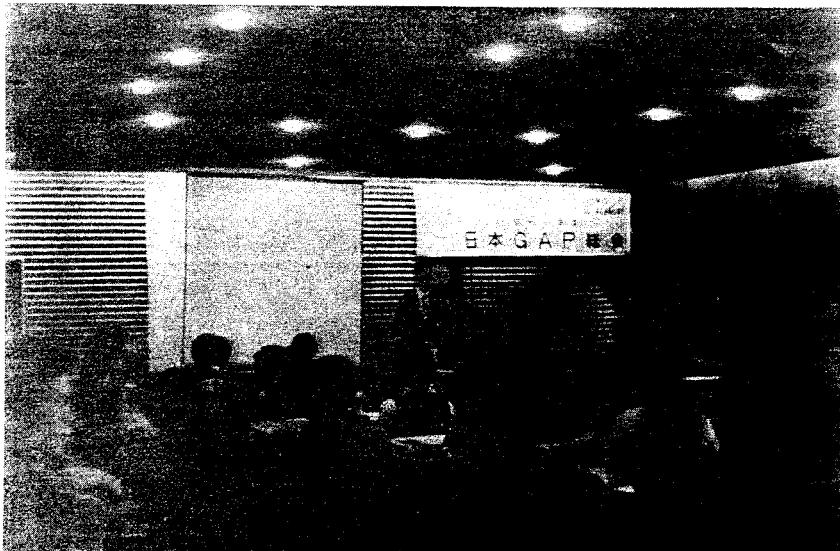
グ、S・ホワイティング、アリス・ウェルズ、パロマー・ガーデンズ、謎のクリスタル等々、目をみはるものばかりが休む間もなく続き、200余名の熱気と代表の熱弁とで会は最高潮に達した。

5時50分、盛大な拍手とともにスライドが終わり、10分間の休憩の後、質疑応答が行なわれ、6時30分、大成功のもとに無事幕を閉じた。

しかし、これがすべてではない。一昨年に続いて今回も会場上空にUFOが大挙出現した。開会寸前、3時半、4時、4時半と、いずれも5~6名の目撃者がいる。GAP総会とUFO……ともにGAP会員に対してすばらしい希望を与えたのではないだろうか。

(福沢)

### ●講演中の編者



# UFOと宇宙

隔月刊

16号 発売!!!

わが国唯一の【空飛ぶ円盤】専門誌 ￥390

160

本誌特別取材

カラーフォト写真  
 《口絵写真》 ■ カラー ● 富士山腹の怪物体 ● 深夜の光体をキヤッヂ ● 運動会を觀戦する UFO ● 黒い影 昭和新山から急上昇! ● 閣館の夜空をとぶ "火の玉" ● ファントム戦闘機と UFO ● 発光体指宿上空をジグザグ飛行

X 博士の怪UFO事件  
 南フランスにおけるUFO目撃・調査  
 エーメ・ミシェル

★ UFO情報  
 ★ UFO目撃レポート  
 ★ 科学ニュース  
 ★ 読者の声

微中 分子 球型 UFOと日本列島の多摩湖畔によるアダムス  
 宇宙図に現れる UFO  
 作図  
 教養講座  
 分析  
 試み  
 三好要市  
 わかる

超能力少年が円盤を撮影

名古屋市上空に現れる UFO  
 大學出現在!

聖書の予言とスペイン・プログラム

● 月面の島構造線  
 ● 菊池市ネル工場  
 ● トントンサード回転磁場

テレボーテーションとテレパシー

平野威馬雄  
 ? 工業化

日本は沈没する? 不思議な宇宙人! 大僧正が体験した大事件!!

大好評!

『ユニバース UFOシリーズ』  
 海外の著名な UFO 関係図書を UFO 問題に精通した名訳者の集団による流麗な日本語版として全国 UFO ファンに贈る第 1 弾!!

全国書店で絶賛発売中!

私は円盤に乗った!

ダニエル・フライ / 久保田八郎訳

他 3 篇 藤間弘道訳

￥750 160

● 米ニューメキシコ州に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを30分間で往復する!

パプア島の円盤騒動

ノーマン・クラットウェル神父 / 増野一郎訳

他 6 篇 久保田八郎 / 増野一郎訳

￥750 160

● 島内の各所に円盤が低空で降下! 地上数十メートルの位置に停止した円盤の上部から数名の"人間"が、歓声をあげて手を振る島民たちに手を振ってこたえる

**UFO 写真集** 異なる空飛ぶ円盤  
**驚異の記録!**

絶賛発売中! 残部僅少!! ￥1300 300

■ 戦後世界各地で目撃され、日本にもひんぱんに出現して重要な問題となつた神祕の飛行物体の正体は?

全国の UFO ファンの要望にこたえて UFO の研究界の第一人者久保田八郎が和英両文で解説

★ 世界のめずらしい貴重な写真の集成! ★ カラーワイド写真 21 点、白黒写真 33 点

● 大画面★ ワイドな画面からグーッとする迫真感!  
 ★ A4 判・極上アート紙使用★ 美麗カバー付き豪華本・長期保存可能!

書店で入手できない場合は、直接当社少馬係へ現金書留か振替でご注文下さい  
 〒110 東京都台東区秋葉原3-3 アキバビル ユニバース出版社  
 振替東京1-119478 電話(255)8784(代表)

5日間ご試読無料

米国直輸入・国内独占販売権獲得

# MAN'S GREATEST ADVENTURE

アポロ大写真集 人類の最大の冒険

BRM SELAH社刊 定価11000円(送料500円)

月は何万ものあいだ、人類にとって到達不可能な神秘の世界でした。その月へ初めて人間を送りこんだ壮大な計画、宇宙へ拡がる人類の大きな第一歩となつた大冒険、それがアポロ計画です。本書はこの大事業を指揮したNASA(アメリカ航空宇宙局)が初めて公開した月をみはるばかりの記録写真カラー195点、モノクロ11点によって、アポロ7号からアポロ11号までの全記録を最高の印刷技術で再現、いながらにして読者を広大無辺の宇宙へご案内します。

「人類の最大の冒険」("MAN'S GREATEST ADVENTURE" BRMセラ社・USA)はヨコ25.5cm、タテ34.3cmの特大判、極厚手紙表紙・カバーつき。本文128頁は全頁極上アート紙を使用。アポロが残した業績、はじめて解明された月世界の新しい事実、宇宙飛行士たちのエピソードなどをよりこんだ英文解説つきです。また別冊として日本語解説書が添付されています。

◆ 5日間無料でご試読できます

この豪華写真集が5日間無料でごらんになれます。ごらんになったあと、お気に入りなときはご返送ください。この場合は返送料のご負担だけで結構です。

◆ 本書に掲載されているアポロの足跡

アポロ7号—アポロ計画初の有人飛行 アポロ8号—史上初の人類による月周回飛行 アポロ9号—地球軌道上で月着陸船の分離・結合テスト アポロ10号—月軌道31周・月着陸テスト  
 アポロ11号—人類初の月着陸成功 アポロ12号—月面活動 アポロ13号—月着陸を目指し失敗、引き返す アポロ14号—フライヤーに着陸、月の岩石を大量に持ち帰る アポロ15号—月面車を使い月面探査 アポロ16号—機械船故障のため月面滞在時間短縮、帰還 アポロ17号—アポロ計画最後の月面活動

国内総販売元

株式会社 ユニバース出版社

〒110 東京都台東区秋葉原3-3 アキバビル

振替・東京119478

お申込み方法

お申込みは専用のハガキに住所・氏名を記入し捺印のうえご投函ください。ハガキが書き次第、折り返し発送いたします。5日間ご試読の後、お気に召さないときはご返送ください(郵便料金は現品発送時に同封いたします)

● 本書はユニバース出版社国内独占販売のため一般書店ではお買い求めできません。必ず当社宛直接ご注文ください。

# 日本GAP月例研究会

高知例会	大阪例会	東京例会
注意 東京での英語研究会は二月より中止します。		
1、日 時 每月第二土曜日、午後二時より六時まで。	2、会 場 上野公園内「東京文化会館」四階会議室。電話(828)2111。国電上野駅の「公園口」下車	2、会 場 每月第二土曜日、午後二時より六時まで。
3、携行品 改札口の真向かい。会館正面に向かって左側の入口から入り、奥のエレベーターから四階へ行く。	4、3、携行品 テキストとして「テレパシー(文久書林刊)」を持参二時～三時、「テレパシー」講義、三時～四時持	3、携行品 テキストとして「テレパシー(文久書林刊)」を持参二時～三時、「テレパシー」講義、三時～四時持
4、会 費 田駅下車。時半～六時自己紹介、研究発表、座談、質疑応答研究会終了後、公園内の食堂で希望者のみの夕食会を開催(食事代は各自持ち)。五、六百円程度	5、夕食会 田駅下車。時半～六時自己紹介、研究発表、座談、質疑応答研究会終了後、公園内の食堂で希望者のみの夕食会を開催(食事代は各自持ち)。五、六百円程度	4、会 費 田駅下車。時半～六時自己紹介、研究発表、座談、質疑応答研究会終了後、公園内の食堂で希望者のみの夕食会を開催(食事代は各自持ち)。五、六百円程度
5、備考 詳細は左記へ照会のこと。	6、備考 テキストとして「宇宙哲学(たま出版刊)」「生命の科学(文久書林刊)」を持参。	6、備考 詳細は左記へ照会のこと。
6、備考 左記の方が四月より新潟支部企画しておられます。近辺の方は足立氏宛ご連絡下さい。	7、備考 詳細は左記へ照会のこと。	7、備考 詳細は左記へ照会のこと。
8、備考 足立直宏 新潟市五十嵐中島一九四三番地	9、備考 足立直宏 新潟市五十嵐中島一九四三番地	10、備考 足立直宏 新潟市五十嵐中島一九四三番地



●講演中の宮内氏(上)。記念撮影(下)



宮内温夫氏、月例会で講演

1月10日の土曜日、快晴続きの東京で新春の月例研究会が開かれた。まず代表の「生命的の科学」講義が2時より1時間行われたあと、挨拶と報告があり、続いて宮内温夫氏を紹介。宮内氏はニューヨークの名門スタジオ、ブッシュビンで世界的に名高いミルトン・グレーサー氏と共に唯一の日本人イラストレーターとして活躍しているGAPメンバーである。氏は約40分にわたって、日本脱出から六年間の海外生活の苦闘物語を展開し、いかにして今日の地位を築き上げたかを説明された。氏によると徹頭徹尾アダムスキーフィルムにより「必ず成功する!」という強烈な信念を持ち続け、どんな状況でも諦めないという。また、常に意義ある話を熱心に耳を傾けた。氏は正月休みで帰国されて実に久方ぶりに本会の会合に出席されたので、閉会後は公園内の精養軒で懇親会を開催し、約25人が参加の上、和気あいあいとした雰囲気の中にディナーパーティーを楽しんだが、この席でも米国に関する珍しい話をされて一同大喜びした。氏は1月13日に羽田を出発、一路ニューヨークへ飛び立たれた。ご厚意に感謝する次第である。

アダムスキーフィルム三大名著 絶賛発売中!

スペース・プラザーズから伝えられた宇宙の思惟法と宇宙的な生き方とを三部に分けて詳述。GAP会員必携の書。注文は各出版元へ直接にどうぞ。

G・アダムスキーフィルム 久保田八郎訳

## 宇宙哲学

¥480 〒120

東京都新宿区納戸町33 たま出版 振替東京94804

### 宇宙問題探求者必読の書

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述

### テレパシー ■ 生命の科学

ジョージ・アダムスキーフィルム 久保田八郎訳

¥400 〒120

¥550 〒120

絶賛! アダムスキーフィルムの弟子でありコンタクティーでもあったフレッド・スティックリングのすばらしい体験記と哲学! 特に幼児教育について重要な示唆を与える。宇宙問題探求者必読の書!

### ★★なぜ空飛ぶ円盤は来るのが★★

フレッド・スティックリング 久保田八郎訳

好評発売中! ¥650 〒120

文久書林

東京都文京区白山1-29-12  
振替 東京2521 Tel. (813) 2495



## オーソン肖像写真

ジョージ・アダムスキーフィルムが沙漠で最初にコンタクトした金星人は後に「同乗記」でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記憶にもとづいて画家に描かせた肖像画をカラー写真にしたもの。日本GAPでは月例研究会で頒布してきた。残部が少々あるので希望者は直接本部宛注文されたい。スペース・プラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものである。

### カラー全身像

◎キャビネ判(11.5×16.5cm) ¥500

〒100

上記写真のみは直接日本GAPへご注文を。

## 編集後記



■久方ぶりに本誌を刊行でき嬉しく思いました。原稿作成と編集自体はさほど困難事ではありませんが、問題は発行資金です。この世界では如何に高度な理想主義活動を行なうにしても力がなければどうにもならないことを痛感します。ご寄付は如何程でも歓迎いたします。

■昨秋の米国出張以来超多忙となり、編者の活動能力はほぼ限界に達しています。郵便物の処理が遅れて申訳ありませんが、事情をご理解下さい。

■今回より米GAP本部訪問記を連載いたしました。これらは長編になる筈で、その意味でも本誌をもっと頻繁に刊行する必要を感じて対策を考慮中です。

■本号は予定の販数を超過したために「アダムスキーフィルム」に関するコメント欄の掲載を中止しました。

■二月の月例研究会より夜の部の英語研究会を中止し、かわりに夕食会を開催することになりました。研究会終了後、六時すぎから上野公園内の精養軒で希望者のみの夕食会を開いて和気あいあいとした雰囲気を楽しみたいと思います。ふるってご参加下さい。

■近く郵便料金が値上げされ、本誌送料も従来の七〇円から一六〇円になります。今後の誌代は一回分が送料共四六〇円となり、三回分は計一三八〇円ですからご了解下さい。

■ユニバース出版社発行「UFOと宇宙」第16号が書店に出ています。このトップ記事の第三原市の驚異コンタクト事件は同誌特別取材の大ヒット情報で必読の体験記です。

■遠かぬ将来日本列島に大変動が発生するか否かは予断を許しませんが、何が起こるかも悠揚迫らざる態度を持ち、創造主の子として価値ある生き方を続けようではないでしょうか。その意味でもアダムスキーフィルムはきわめて重要です。

Jan. 20  
1976

頒価300円・送料七十円

## GAPニューズレター

57号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

133 東京都江戸川区本一色町355-318

振替東京4-35912(久保田八郎名義)

■会費切れの方には別に通知致しますので、なるべく早目にご納入のほどお願いします。

中村光孝(春日井市)五千円、安藤晴信(横浜市)一千円、上山節子(神奈川県)八千円、平塚和義(兵庫県)五千円、須賀恵子(東京)五千円、福沢淳(東京)九千円、片野純而(和歌山県)五千円、関谷正明(滋賀県)五千円、千葉氏(千葉県)一万円、匿名氏(千葉県)一万八千円、無名氏(千葉県)二千五百円、堤芳紹(佐賀市)一千円、匿名氏(千葉県)五千円、野田俊行(熊本市)一千円、山下昇(浜松市)四百六十円、深沢義久(横須賀市)一千円、隆司(東京)七千円、菅原一浩(岩手県)三万五百円、田中真知子(岐阜市)五千円、津照井幸子(札幌市)一千八百九十五円、大久保

末まで。敬称略)匿名氏(東京)三万一千円、

照井幸子(札幌市)一千八百九十五円、大久保

隆司(東京)七千円、菅原一浩(岩手県)三

万五百円、田中真知子(岐阜市)五千円、津

野田俊行(熊本市)一千円、山下昇(浜松市)

四百六十円、深沢義久(横須賀市)一千円、

無名氏(市原市消印)二千二百九十九円、橋本

和玄(神奈川県)八百九十五円、伊藤達夫(愛媛県)一千円、笠原弘可(仙台市)五千円、大谷和枝(茨城県)八百九十五円、干田光昭(横須賀市)一千円、山田宏三郎(京都市)五千

円、横山淳一(東京)四百六十円、多田晃

(名古屋)一千六百三十円、匿名氏(栃木県)

一千円、匿名氏(千葉県)一万円、匿名氏(千葉県)一万八千円、五百九十九円、菅原史崇(埼玉県)一万八千円、無名氏(千葉県)二千五百円、堤芳紹(佐賀市)一千円、匿名氏(千葉県)五千円、